

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒカゲノカズラ科

# スギラン

*Lycopodium cryptomerinum* Maxim

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

分布が限られ、個体数はきわめて少ない。

### 概要

常緑で樹上まれに岩上に着生する。茎はまばらに又状に分枝し、茎は径3-5mmで長いものは30cmを越える。葉は開出して密生し、緑色で線状披針形から狭披針形、長さ1-2cm。胞子嚢は枝端近くにつき、胞子葉は栄養葉よりやや小さいが、胞子嚢穂というべきまとまりをもたない。北海道東部から屋久島にかけての山林中に生育する。国外では韓国(済州島)や台湾・インドにも記録されている。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部の山地で樹幹への着生が点々と見られるが、個体数はきわめて少ない。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒカゲノカズラ科

# マンネンスギ

*Lycopodium obecurum* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

現在県下での生育知られているのは1カ所のみで、非常に希少な種である。

### 概要

地上生の常緑草本で茎の主軸は地中を長く匍匐し、帯赤褐色でまばらに分枝する。側枝は直立枝となって地上に伸び、下部は分枝せず、上部で分枝して樹木状となり、高さ10-30cm。葉は線形で鋭頭、全縁、緑色でやや硬い。胞子嚢ははっきりした形となり、1本の側枝に数個つき、小枝端に1個頂生する。南西諸島を除く日本各地の山地の林下や陽地に生じる。国外では東アジアから北アメリカにかけて分布している。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤江 宏・篠原良夫 (2009) 益田市に自生するシダ植物(14), 島根植物研究会会報16: 14-15  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

東部の山地に生育するという情報もあるが、確認できなかった。現在は西部の奥地に1カ所確認できるのみである。

### 存続を脅かす原因

遷移、採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒカゲノカズラ科

# ヒモラン

*Lycopodium sieboldii* Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影者(提供者):佐藤仁志



### 選定理由

県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少ない。日本海側で北限にあたり、離れた分布を示す。

### 概要

常緑性のシダで、樹幹や岩上について下垂し、長さ20～50cmになる。茎は細く、ひも状で、基部で多数に分枝する。葉は鱗片状で小さく、三角状卵形～卵形で長さ2mm以下、茎に圧着してつく。孢子嚢は小枝の葉腋につき、その部分がわずかに太くなる。国内では本州の南部(伊豆半島・東海道・紀伊半島)と隠岐諸島に分布し、四国・九州・南西諸島(沖縄本島与那覇岳)に産する。九州南部や屋久島に比較的生育地がみられるが、森林の伐採や採集により生育地が減少している。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス.東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社.東京  
 杵村喜則(1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

県内では古くから隠岐(島後)に自生分布が知られており、三瓶自然館に1880年代の杵村喜則の標本がある。杵村(1997)では自生があるとしているが、現在では自生は確認されなくなっているものと思われる。自生があればもちろん、栽培されているものであっても厳重に保護する必要がある。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イワヒバ科

# ヒモカズラ

*Selaginella shakotanensis* (Franch. ex Takeda) Miyabe et Kudô

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育は1か所のみ知られており、遷移により環境が変化すれば容易に絶滅することが危惧される。

### 概要

常緑性のシダで、山地の岩上に匍匐して茎を伸ばし5～15cmとなる。茎は直径1mm弱で長楕円状披針形で硬い葉をつける。葉の先端はとがり、縁は繊毛状の突起がある。ロシア(極東)や朝鮮半島に分布し、国内では北海道、本州の近畿以北に多く、西部では広島県と鳥取県の山地と隠岐諸島に分布している程度である。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス.東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社.東京  
 杵村喜則(1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232  
 丹後亜興(2009) 隠岐諸島新産の植物(2). 隠岐の文化財26: 17

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)の崖地に生育していることが報告されている。

### 存続を脅かす原因

遷移、採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ミズニラ科

# ミズニラ

*Isoetes japonica* A.Braun

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内の産地がまれであり、個体数が少ない。また、全国的にも生育地は少なく、減少傾向が著しい。

### 概要

夏緑性の水草で、葉は長さ15-30cmで断面は4稜のある円柱形で先はしだいに細くなる。葉の基部は広がり卵状になり、中に胞子嚢が存在する。大胞子は白色で表面は平滑、時に低い瘤状突起を持つ。従来、ミズニラと考えられてきたものは現在ミズニラとミズニラモドキに分けられており、ミズニラモドキは大胞子の網状突起が長く、密に生じ、小胞子の表面に針状突起があることで区別される。ミズニラは6倍体有性生殖種で、国内では本州と四国の低地に広く分布したが、ミズニラモドキは8倍体有性生殖種で東北・関東の太平洋側や瀬戸内海各県から報告されている。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス.東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社.東京  
 枚村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

出雲部のため池数カ所に産地が知られていたが、現在確認できないところも多く、個体数も非常に少ない。

### 存続を脅かす原因

ため池の環境変化。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ミズニラ科

# オオバシナミズニラ

*Isoetes sinensis* Palmer var. *coreana* (Y.H.Chung & H.K.Choi) M.Takamiya et al.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)



### 選定理由

県内の産地がまれであり、現在確認できるところがない。また、全国的にも生育地は少なく、減少傾向が著しい。

### 概要

外見では他のミズニラ類と区別できないが、全体的に大型で、大胞子表面はとざれた畝状隆起があり、小胞子表面に針状突起がある。従来はシナミズニラと混同されていたが、シナミズニラは小胞子の長径が30μm以下で気孔の孔辺細胞長は80μm以下であるのが、オオバシナミズニラでは小胞子の長径は30μm以上で気孔の孔辺細胞長は80μm以上であることで区別されるという。シナミズニラは4倍体有性生殖種で国内では九州各県や佐渡に見られ、タイプは中国であり、オオバシナミズニラは6倍体有性生殖種で、茨城・長野と中国(岡山、広島、島根、山口の各県)、四国(高知)、九州(福岡、大分、宮崎)に分布する。また、国外では朝鮮半島に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス.東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社.東京  
 枚村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232  
 柳浦 (2004) 仁多町でオオバシナミズニラを採集, 島根植物研究会会報4:9 島根植物研究会

### 県内での生育地域・生育環境

最近まで出雲部のため池や休耕田に産地が知られていたが、現在ほとんど確認できない状況である。

### 存続を脅かす原因

ため池や休耕田の環境変化。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

トクサ科

## イヌスギナ

*Equisetum palustre* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

分布限界種(西限)

環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内の産地は1カ所のみ確認されており、個体数も少ない。他の産地から離れた分布であり、環境の変化により絶滅が心配される。

## 概要

湿地に群生する夏緑性草本で、地下茎は長く匍匐し、直立茎をつける。茎は高さ20–60cmで枝を輪生する。孢子嚢穂は主軸に頂生し1–3.5cm。0.5–3cmの柄を持つ。国内では北海道や本州(関東・中部以北)に分布する。国外では北半球の温帯に広く分布する。栄養茎に孢子嚢穂をつけたミモチスギナとは枝の最下の節間が主軸の葉鞘より短いことで区別できる。

## 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 宮本巖(1970)西部石見の高等植物目録 補遺Ⅲ、益田高等学校高津川総合学術調査研究報告:52-53 益田高校  
 秋村喜則(1997)島根のシダ植物相、ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232  
 柳浦正夫(2013)植物の分布・観察報告 (44)イヌスギナ*Equisetum palustre* L.の再確認、島根植物研究会会報24:9

## 県内での生育地域・生育環境

西部の湿地に生育しているが、以前から分布が知られていたようである。「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」ではイヌトクサの扱いとされたが、誤認である。他の地域とは非常に離れた分布ではあるが、自然分布と考えられ、非常に貴重な生育地である。

## 存続を脅かす原因

ごく限られた場所であり、遷移や乾燥化による絶滅が心配される。  
(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ハナヤスリ科

## ナガボノナツノハナワラビ

*Botrychium strictum* Underw.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



## 選定理由

全国的に個体数が少なく、県内でも生育が限られている。

## 概要

夏緑性のシダ植物で、栄養葉は3回羽状複葉で水平に開く。孢子葉は栄養葉とほぼ同じの長さとなり、2~3回羽状で軸に延着し棒状になる。小羽片は尖る。近縁のナツノハナワラビは孢子葉が栄養葉よりはるかに長く、孢子葉は3回羽状複葉で似ているが羽片が広がるのが異なる。北半球の冷温帯部に広く生育するが、国内では北海道から九州の山地の冷温帯域に生育している。

## 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 秋村喜則(1997)島根のシダ植物相、ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

## 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)の森林下に生育し、2013年採集の丹後亜興による標本が国立科学博物館に収蔵され、「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」に反映されている。

## 存続を脅かす原因

森林伐採。  
(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ハナヤスリ科

# ハマハナヤスリ

*Ophioglossum thermale* Komarov

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

県下で確認されている箇所が少なく、個体数も少ない。

### 概要

小型の夏緑性のシダで栄養葉は細長く、線形から卵形で孢子穂は4cmになるものもある。北海道から南西諸島の海岸の湿った砂地から川原などに生育し、シベリア・中国・台湾やミクロネシアに分布する。

### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

松村(1997)で「益田―飯浦海岸に多産したと聞くが確認できていない。」とされているが、現在も同様の状況である。隠岐(島後)での生育が報告され、丹後垂興による2013年に採集された標本が国立科学博物館に収蔵されている。

### 存続を脅かす原因

除草剤散布。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

マツバラン科

# マツバラン

*Psilotum nudum* (L.) Beauv.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): —



### 選定理由

県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少ない。

### 概要

樹幹や岩隙生の多年生の常緑草本で、地上茎は直立し、2又分岐をす。高さは10―40cmほどで、全体緑色で枝には稜があり、断面は3角形となる。孢子嚢群は3室で、枝につく短い側枝の上に単生する。国内では本州(宮城、石川県以西の暖地)から南西諸島にかけて分布し、韓国(済州島)・中国南部から、世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。開発や採集により、生育地が減少している。

### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 廣江伸作 (2016) 安来市のシダ植物相. 島根植物研究会31: 2-6  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232  
 柳浦正夫 (2019) 松江市植物目録(シダ植物) 603-607 「松江市史 史料編1 自然環境」 649pp. 松江市史編集委員会(編)

### 県内での生育地域・生育環境

出雲部の数か所で生育が確認されていたが、見られなくなり、現在生育している場所は知られていない。いずれも県内では個体数はわずかであった。日本海側の分布として山口の笠山から飛んで分布し、石川県にも記録があったようであるが、絶滅したようである。また、栽培株由来の孢子から生育することもあり、自生かそうでないのか区別が難しくなっている。

### 存続を脅かす原因

生育地の開発や遷移、また採集による減少。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

コケシノブ科

# ツルホラゴケ

*Crepidomanes auriculatum* (Bi.) K.Iwats.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

県内では生育地がきわめて少なく、個体数が限られている。国内での自生の北限となる。

### 概要

樹幹やまれに岩上に着生し、根茎が長く匍匐する。常緑で、葉柄は0.8-2cmで葉身は単羽状複生で長さ10-30cm、幅1.5-4cmで先端は円頭から鋭頭で基部はくさび形である。孢子嚢群は狭くなった裂片に生じ、包膜はコップ状である。国内では本州南西部(和歌山県・三重県・島根県・山口県および伊豆諸島神津島)・四国・九州・南西諸島の森林中に見られ、インドからミクロネシア・マレーシアにかけての熱帯に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤江宏・篠原良夫(2007) 益田市に自生するシダ植物(11). 島根植物研究会会報13: 11-13  
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部の照葉樹林下の岩上や樹上に着生したものが確認・報告されている。

### 存続を脅かす原因

附近の森林伐採にともなう環境の変化。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

コケシノブ科

# ヒメコケシノブ

*Hymenophyllum coreanum* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

県内では1か所しか確認されておらず、個体数も少ない。

### 概要

小型で根茎は針金状で長く匍匐し、毛に覆われる。葉は卵形で葉身は長さ2cm、幅1.5cm程度で、2回-3回に羽状深裂する。ホソバコケシノブに似るが、孢子嚢群が先端部に集まることが異なる。山地の明るい岩壁などに着生する。北海道から九州まで点在して分布し、国外では朝鮮や中国、台湾に分布している。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」. 475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」. 311pp. 平凡社,東京  
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告(1): 221-232. ホシザキグリーン財団  
 柳浦正夫・柴田一樹(2023) 猿政山でヒメコケシノブを確認. 島根植物研究会会報(44): 3. 島根植物研究会

### 県内での生育地域・生育環境

県内では東部の山地の岩壁での生育が確認されている。

### 存続を脅かす原因

遷移による被陰。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

サンショウモ科

# アカウキクサ

*Azolla imbricata* (Roxb.ex Griff.) Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
野生絶滅 (EW)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影者(提供者):辻井要介



### 選定理由

全国的にまれな植物となっており、県内ではきわめてまれな植物である。

### 概要

根に長い根毛が宿存する他、葉状体が三角形となり、葉の表面に粒状突起が密生するのを特徴とする。オオアカウキクサは葉の上部に突起がないかほとんどなく、根毛は早落性なので区別できる。さらに近年帰化アカウキクサ類があり長い根毛が見られるなどアカウキクサと同じ形態をもつが、葉状体の形や葉の表面の突起の違いから区別できる。本州(東京都と東海地方以西の暖地)・四国・九州・南西諸島で、水田や湖沼、溝などの表面に生じ、冬季に特に鮮やかな赤色となる。除草剤の影響で減少が著しい。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」. 311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232  
 辻井要介 (2021) 松江市大垣町で確認されたアカウキクサの記録, 島根県立三瓶自然館研究報告19: 53-54 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部各地の自生が標本から確認できるが、絶滅し、確認できなくなった。確実な分布の記録は辻井(2021)による東部での2005年の報告までである。これ以降の報告は帰化アカウキクサ類の誤認と考えられる。

### 存続を脅かす原因

除草剤散布。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キジノオシダ科

# タカサゴキジノオ

*Plagiogyria adnata* (Bl.) Bedd.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

産地・個体数ともに少ない。日本での分布の北限を構成している。

### 概要

地上生の常緑シダで根茎は短く斜上し、葉を叢生する。栄養葉は単羽状で、羽片の上側は中軸に流れてつく。頂羽片ははっきりせず、側羽片が鎌状に曲がる。本州(伊豆諸島・伊豆半島以西の暖地)・四国・九州・南西諸島に生育し、国外では台湾・中国南部からアジアの熱帯に広く分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤江 宏・篠原良夫 (2004) 益田市に自生するシダ植物(4): 島根植物研究会会報5: 2-3  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布はとても希少で、西部と東部で局所的な生育が報告されているが、現在生育が見られるところは限られている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

コバノイシカグマ科

# フジシダ

*Monachosorum maximowiczii* (Baker) Hayata

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内で1カ所の生育が報告されているだけである。

### 概要

特徴地上性または岩上生の常緑のシダでしばしば群生する。葉柄は光沢のある褐色で、5-10cm。ほとんど無毛。根茎は短く斜上し、葉は単羽状複生で長さ15-30cm、幅2-3cm。葉は薄く、生時深緑色、普遍は50対前後ある。胞子嚢群は円形で小さい。本州(福島県・関東地方以西)・四国・九州に見られ、中国・台湾に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤江 宏・篠原良夫(2009) 益田市に自生するシダ植物(15)、島根植物研究会会報17:3-5、島根植物研究会

### 県内での生育地域・生育環境

西部の山地の岩壁に生育するとされる。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イノモトソウ科

# タキミシダ

*Antrophyum obovatum* Baker EN

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): —

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



### 選定理由

県内では産地も個体集も少ない。

### 概要

川沿いの湿度の高い岩などに付着する多年草。根茎は短く、葉は叢生し、葉身は披針形から線形で先端はややとがる。基部はしたいに細くなり長くのびる。色は暗緑色で光沢がある。国内では本州中部以西から九州に分布し、台湾・中国・インドシナ半島・マレーシアと広く分布する。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 枚村喜則(1997) 島根のシダ植物相、ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

### 県内での生育地域・生育環境

正式な報告は少ないが、東部から西部にかけて丘陵域の被陰された川の岩に点々と確認されている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、遷移、採集。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イノモトソウ科

# ハコネシダ

*Adiantum monochlamys* Eaton

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):佐藤仁志

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内では産地が限られている。

### 概要

常緑性のシダで、葉柄は光沢のある紫褐色から赤褐色であり、葉身は三角状卵形で3回羽状に分枝する。小葉は倒三角状卵形で基部はくさび形になり、胞子嚢群が1個つく。胞子嚢群のつく先端はややくぼむ。国内での分布は本州・四国・九州であり、ややかわいた林中の岩上や岩の傍らの地上に生育し、朝鮮半島南部・中国・台湾に分布する。

### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 梶谷雄基 (1970) 島根県簸川郡河南部のシダ植物の分布について、島根大学教育学部附属中学校研究紀要15:21-33 島根大学教育学部附属中学校  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相、ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232  
 柳浦正夫 (2020) 植物の分布・観察報告 (56)梶谷雄基氏報告のハコネシダを再確認、島根植物研究会会報39:2-3

### 県内での生育地域・生育環境

県内では東部の岩上に生育しているが、数カ所の限られた場所にのみ分布するだけで、個体数も少ない。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、土砂堆積、採集。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イノモトソウ科

# アマクサシダ

*Pteris dispar* Kunze

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):自然環境課

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内では産地・個体数ともに少ない。また、国内の日本海側での北限となっている。

### 概要

常緑性で根茎は短く、葉柄は光沢のある赤褐色で長さは20-25cm。葉身は2回羽状深裂し、広披針形から長披針形で、頂羽片がある。側羽片は3-6対ある。胞子嚢群は葉の縁につける。国内では本州(関東地方以西)・四国・九州・南西諸島で、暖地の山麓から村落近くの日当たりのよい場所から陰地にかけて生育し、南部ではややふつうに見られる。国外では朝鮮半島・台湾・中国に分布する。

### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 柳浦正夫 (2021) 植物の分布・観察報告(64)松江市でアマクサシダの生育について、島根植物研究会会報40:6

### 県内での生育地域・生育環境

石見の中部や西部の標本とともに東部での記録もある。東部の産地では遷移によって被陰され生育が見られなくなっている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イノモトソウ科

## ナカミシシラン

*Vittaria fudzinoi* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):澤田達也



## 選定理由

県内で採集された標本がある。全国的にも希少種であるので自生が確認された場合厳重な保護を必要とする。

## 概要

常緑性で、根茎は短く匍匐し、葉は線状で長さ25-45cm、幅3-5mm。葉の表面に中肋が隆起し、その両側に溝がある。孢子嚢群は葉縁と中肋の中間の浅い溝に生じる。本州(奥多摩以西)・四国・九州で、山中の岩上や樹幹に着生するがまれである。国外では中国南西部に分布する。

## 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 倉田 悟・中池敏之(1987)「日本のシダ植物図鑑5」816pp.. 東京大学出版会, 東京  
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

## 県内での生育地域・生育環境

県西部で記録され、標本も博物館に納められているが、現状は不明である。

## 存続を脅かす原因

森林伐採、土砂の堆積、採集。

(執筆:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

チャセンシダ科

## イワトラノオ

*Asplenium tenuicaule* Hayata

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):澤田達也



## 選定理由

生育地・個体数ともに非常に少ない。

## 概要

常緑性の小型のシダであり、葉を叢生する。葉柄は短く2-5cmで葉身は2回羽状複生し、広披針形から三角状長楕円形で、鋭頭。長さ2-15cm、幅1-4cm。孢子嚢群は裂片に1-4個つき長楕円形で長さ2-3mm。北海道・本州(主として太平洋側)・四国・九州でやや薄暗い岩上に生じる。国外では台湾から中国・ヒマラヤに分布する。

## 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 倉田 悟・中池敏之(1981)「日本のシダ植物図鑑2」648pp.. 東京大学出版会, 東京  
 澤江 宏・篠原良夫(2007) 益田市に自生するシダ植物(10), 島根植物研究会会報12:7  
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

## 県内での生育地域・生育環境

県西部の生育は報告され、標本も収蔵されている。これと同所に生育していると思われる個体も2000年代に確認されているが、近年確認されていない。

## 存続を脅かす原因

土壌堆積、遷移、採集。

(執筆:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒメシダ科

# ホンバショリマ

*Thelypteris beddomei* (Bak.) Ching

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内での生育地は1カ所のみ知られている。全国的に希少な種である。

### 概要

根茎が長く這い、先端部に葉をつける。葉柄はわら色で長さ約10cmでまばらに鱗片をつける。葉身は倒披針形で鋭尖頭、長さ20-50cm、幅5-8cm、下部の羽片はしだいに短くなり、下部数対は耳状になる。胞子嚢群は裂片の辺縁よりにつき、胞膜は円腎形である。

静岡県・中部地方西部・中国(広島・山口)・四国(徳島県・愛媛県)・九州(北・中部)と屋久島にやまれに分布する。国外では韓国(済州島)・インド・スリランカからニューギニアにかけての地域に分布する。

### 参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤江 宏・篠原良夫(2010)益田市に自生するシダ植物(16). 島根植物研究会会報18:2-4. 島根植物研究会  
 秋村喜則(1997)島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部で生育地が確認されている。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒメシダ科

# ヒメハシゴシダ

*Thelypteris cystopteroides* (Eaton) Ching

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):澤田達也



### 選定理由

県内での生育地は1カ所のみ知られている。国内で北限となる。

### 概要

常緑性で、根茎が長く這い、間隔をおいて葉をつける。葉柄は長さ2-4cm、わら色で有毛。基部は黒色。葉身は3-8cm、幅0.8-2cmで、長楕円形~広披針形で鋭頭。羽片は4-8に切れ込み、円頭である。胞子嚢群は裂片の辺縁よりにつき、胞膜は円形から楕円形で、包膜は円腎形である。国内では主として太平洋側で伊豆半島・紀伊半島南部・四国南部・九州(西・南部)・南西諸島に分布している他、広島県(宮島)で確認されている。また近年、山口県の北部の海岸部で確認されたが、県内の分布はこの産地に近い場所である。国外では台湾に分布し、明るい林下や斜面、路傍に生育する。

### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤江 宏・篠原良夫(2005)益田市に自生するシダ植物(6). 島根植物研究会会報8:14. 島根植物研究会  
 秋村喜則(1997)島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部の海岸近くで少数生育しているのが報告されている。

### 存続を脅かす原因

遷移、被陰。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒメシダ科

# ミゾシダモドキ

*Thelypteris omeiensis* (Bak.) Ching

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

国内での生育地は少なく、県内の分布は国内の分布の北限域を構成している。日本海側では他に生育地はなく、熊本県や愛媛県から飛んで分布しているきわめて貴重な種である。

### 概要

常緑で根茎は這い、葉が約5mmと短い間隔でつく。葉柄は20-40cmで葉身は長楕円状披針形で下部に向かってしだいに狭まる。これは下部の羽片が短くなることによる。2回羽状中裂から深裂し、側脈が単状ではっきり見え、胞子嚢は裂片の中肋よりに生じ、円形である。千葉県以西の本州南部と四国・九州の山地にややまれに生じる。国外では朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 倉田 恒・中池敏之 (1983) 「日本のシダ植物図鑑3」 728pp.東京大学出版会  
 澤江・篠原 (2008) 益田市に自生するシダ植物(13), 島根植物研究会会報15: 5-6  
 杵村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

報告されているのは西部で4箇所と考えられるが、現在知られている県内の分布は3カ所である。いずれも個体数はわずかで、川沿いの林下で常時湿った状態にある岩壁に生育している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イワシダ科

# フクロシダ

*Acystopteris japonica* (Lueress.) Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内では個体数が少ない。

### 概要

緑性のシダで根茎は短く直立し、葉を叢生する。葉柄は長さ1-7cmで関節はなく、赤褐色で光沢がある。葉身は2回羽状深裂し、狭披針形、鋭尖頭で長さ5-30cm、幅1.5-5cm。胞子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は球形嚢状で大きいので名前の由来になっている。北海道から九州の各地に生育するが、北部に多い。山林や林縁などの岩上に生じる。国外では朝鮮半島・中国(北部・東北部)・アムール・ウスリーに分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤江 宏・篠原良夫 (2008) 益田市に自生するシダ植物(13), 島根植物研究会会報15:5-6  
 杵村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232  
 柳浦正夫 (1991) 大万木山のシダ植物について, 島根野生研会報7: 17 島根野生生物研究会

### 県内での生育地域・生育環境

東部と西部の中国山地の林下の岩上に少数生育しているのが報告されており、いずれも個体数は少ない。

### 存続を脅かす原因

遷移、採集。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イワデングダ科

# ヘイケイヌワラビ

*Athyrium eremicola* Oka et Kurata

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

柿木村の鈴の大谷山が基準標本産地であるシダ植物であり、他県では個体数は多くはないが、県内では産地は少ないが個体数は比較的多いところもある。ただ産地が限られておりとても希少である。

### 概要

常緑性で根茎は直立し、数枚の葉を叢生する。葉柄は赤紫色をおび、長さ約20cm、1回羽状深裂する。県西部と近隣の山口県・広島県に産地が知られていたが、県内では東部に、また県外では鳥取県西部や兵庫県でも自生が確認されている。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 枚村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232 ホシザキグリーン財団

### 県内での生育地域・生育環境

現在東部と西部でそれぞれ数カ所知られている。基準標本産地の鈴の大谷山では樹林伐採・崩土で絶滅した場所もあったと聞かすが、環境に変化もなく以前から生育個体数が比較的多いと思われる場所もある。いずれの地も森林に覆われた陰湿な斜面に生育している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オシダ科

# カツモウイノデ

*Tenitis subglandulosa* (Hance) Ching

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

日本での自生北限であり、個体数も少ない。

### 概要

常緑性の大型のシダであり、根茎は短く、葉を叢生し、葉柄は長さ40-80cmで密に鱗片をつける。基部の鱗片は褐色をおびたわら色で、上部は黄褐色。葉身は卵状三角形で3回羽状深裂する。国内での分布は本州(千葉県・伊豆半島・伊豆諸島・紀伊半島南部・島根県)・四国南部・九州・南西諸島で山地の林下に群生する。国外ではインド北東部・中国南部・台湾・グアム・フィリピン・ジャワ・バリ・東ニューギニアとフィジーに分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 枚村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

県内では島根半島の西部に数カ所の自生が見られる。やや乾燥した照葉樹林やスギ林の林床内に自生しているものが多く、個体数の多いところもあるが、遷移や被陰などにより減少しているところもある。日本海側では佐賀県から飛び離れて分布する国内の自生北限である。

### 存続を脅かす原因

一斉伐採、被陰、シカの食害。

(執筆:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オシダ科

# メヤブソテツ

*Cyrtomium caryotideum* (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。人為的影響を受けやすい場所にあり、絶滅が心配される。

### 概要

常緑性のシダ植物で、根茎は塊状。根茎や葉柄下部につく鱗片は卵状長楕円形から卵状披針形で、鋭尖頭。葉柄は長さ25-40cmで、葉身は狭長楕円形で、長さ50cmになることもある。単羽状複生し、側羽片は2-6対、卵状で鋭尖頭、耳状突起が両側に出る。また、鋭い鋸歯が並んでいる。孢子嚢群は多数が葉裏に散生し、苞膜は灰白色で、不規則な鋸歯縁となる。本州(関東地方以南)・四国・九州の山地に生育し、石灰岩地に多い。

#### 参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 南 敦(1987)島根県にタカサゴキジノオ、メヤブソテツ、イズヤブソテツがあった。日本シダの会会報69:28-29  
 柴田一樹・柳浦正夫・井上雅仁(2021)島根県東部で確認されたメヤブソテツ、島根県立三瓶自然館研究報告19:55-56  
 秋村喜則(1997)島根のシダ植物相、ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

### 県内での生育地域・生育環境

東部から報告されている。山域の林縁に少数の生育が見られる。西部からの報告があるが、現状は不明である。

### 存続を脅かす原因

被陰、遷移、刈り取り。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オシダ科

# イズヤブソテツ

*Cyrtomium fortunei* J.Sm. var. *atropunctatum* (Kurata) K.Iwats.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

全国的に個体数が少なく、県下では個体数が非常に少ない。分布の北限を構成する。

### 概要

常緑性で葉を叢生する。側羽片は10-20対で広披針形、耳片は発達しない。苞膜の中心部が黒褐色の場合が多く、辺縁は不規則に切れ込む。本州(静岡以西)・四国(徳島県)・九州の山林中に見られる。現在、国内に固有の変種とされている。

#### 参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 秋村喜則(1997)島根のシダ植物相、ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

### 県内での生育地域・生育環境

石見西部の林下に生育が確認されている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オシダ科

# ツクシヤブソテツ

*Cytomium macrophyllum* (Makino) Tagawa var. *tukusicola* (Tagawa) Tagawa

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

全国的に個体数が少なく、県下では個体数が非常に少ない。分布の北限を構成する。

### 概要

常緑性のシダ植物で、葉を叢生する。側羽片は6-10対程度であり、幅がヒロハヤブソテツに比べ、やや狭く、長楕円形から狭長楕円形。基部が円みを持たず、広くさび形である。頂羽片も小さい。包膜に鈍鋸歯があり、中央部の色がやや濃い。本州（栃木県・千葉県以西）・四国・九州で山林中の比較的湿ったところに生じる。国外では中国に産する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 村村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

県下では、西部の谷の林下に少数生育しているものが確認されている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、土砂堆積。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オシダ科

# タカサゴシダ

*Dryopteris formosana* (H.Christ) C.Chr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

県内では産地や個体数が少なく、環境の変化により生育地が消失する危険性がある。

### 概要

常緑性のシダ植物で、根茎は斜上し、少数の葉を展開させる。葉柄は長さ30-60cmで、鱗片は黒褐色で光沢がある。葉身は卵状三角形から5角形で長さ30-50cm、幅25-35cm、先端はやや長く鋭尖頭で、基部は下向き第一小羽片が長く、羽片の基部につくのを特徴とする。小羽片は長楕円状披針形披針形で鈍頭。胞子嚢群は小羽片の辺縁と小羽軸の中間につき、苞膜は全縁となる。国内では本州（東海地方・近畿・中国西部）・九州に分布し、台湾やフィリピンにも見られる。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 澤江宏・篠原良夫 (2012) 益田市に自生するシダ植物(21), 島根植物研究会会報23: 4-5 島根植物研究会  
 村村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部に数カ所生育が知られている。丘陵域の林下の斜面などに生育する。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オシダ科

# ホウライヒメワラビ

*Dryopteris hendersonii* (Bedd.) C. Chr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

分布限界種 (北限)

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

個体数が少なく、他の分布と非常にはなれた分布となっている。

### 概要

常緑性のシダで根茎は短く、横走から斜上する。葉柄は長さ40-60cmで開出する鱗片を密生し、下部は淡褐色~濃褐色である。葉身は30-50cm、幅30-60cmで広卵状三角形~卵形で下部は4回羽状深裂~全裂する。最下羽片が最大で非対称の三角形である。孢子嚢群は小羽軸の近くにつき、包膜は小さい。似たホウノカワシダとは葉柄の鱗片は淡褐色~濃褐色で、小羽片の裂片は狭披針形、鋸歯縁、脈がはっきり見え、包膜があることで区別されている。国内では屋久島の山地に生育が知られており、国外ではヒマラヤ・タイ北部・中国・台湾・フィリピンに分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤江 宏・篠原良夫 (2004) 益田市に自生するシダ植物(3), 島根植物研究会会報4: 1-2  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部山地の谷上部の林下で生育が発見された。個体数はわずかで20株程度である。国内では屋久島から離れて分布するもので、とても貴重な生育地である。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、土砂堆積。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オシダ科

# ナガサキシダ

*Dryopteris sieboldii* (van Houtte ex Mett.) O. Kuntze

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): —



### 選定理由

生育地・個体数ともに少ない。国内での自生の北限域をなすものである。

### 概要

常緑生で、根茎は短く、葉は奇数羽状複葉である。側羽片は2-6対あり、線形で鋭尖頭、基部は円形から切形で長さは15-30cmである。頂羽片も側羽片と同様な形である。千葉県以西の本州の太平洋側と四国・九州に分布し、山地の林下に生じる。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232  
 柳浦正夫 (2016) 大田市で見つかったナガサキシダ, 島根植物研究会会報30:5-6、島根植物研究会

### 県内での生育地域・生育環境

石見西部に少数の分布が知られていたが、近年、中部や東部にも分布が知られた。スギ林の林床等に生育する。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウラボシ科

# クラガリシダ

*Dryotaenium miyoshianum* (Makino) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):—

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)



### 選定理由

県下では生育地は限られており、個体数が非常に少ない。全国的にも同様である。

### 概要

常緑性で葉は狭線形で長さは30–50cm、中肋は表面がくぼんで1条の溝となる。孢子嚢群は連なって線形となる。国内では本州（能登半島・長野・静岡・愛知・岐阜・近畿地方・中国地方西部）・四国・九州（大分県耶馬溪）で、深山の原生林中の樹幹や岩上に生じる。国外では台湾と中国（中部から南西部）に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

石見西部の山域の川沿いなどの陰湿な場所の樹幹や岩上に少数生育している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウラボシ科

# オニマメツタ

*Lepidogrammitis pyriformis* (Ching) Ching

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠA類(CR)



### 選定理由

暖地に生えるシダ植物で、国内での分布の離れた北限となるものである。

### 概要

常緑性で根茎は長く伸び、径1–1.5mmで、まばらに褐色から赤褐色の鱗片をつける。葉は2–4cmの間隔をおいてつき、単葉で孢子嚢をつけない葉は卵形から洋梨形、長さ2–4cm、幅1.5–3cm、孢子嚢をつける葉は基部は卵状、先端は舌状となり、長さ5mm、幅0.5–2cmとやや細長くなる。孢子嚢群は中肋と辺縁の中間で先端から中央まで並び、屋久島の山地で樹幹や岩上に生育する。島根県でも発見されている。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部の丘陵域の谷部の林下の岩に群生していたが、道路拡張のため生育地はなくなった。保存のために近くの岩に移殖されている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

### 特記事項

島根県のオニマメツタは孢子嚢をつけない葉は卵状であるが、つける葉は卵状のものから、長さ2.5cm程度でかなり細長くなったものまで変化が多い。また、中池 (1992) で「島根県の個体の孢子は著しく不定形を呈し、マメズタとヒメノキシノブの雑種でないかと疑ってみたくなるものである。」とされるようにこの種の扱いは今後確定されるものと思われる。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウラボシ科

# ホテイシダ

*Lepisorus annuifrons* (Makino) Ching

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内で生育地は少なく、全国的にも個体数は少ない。

### 概要

根茎は長く這い、葉柄は3-5cmで葉は披針形で基部に近いところで幅が最大になり、基部はくさび型、先端は尾状に伸び、やや尖る。孢子嚢群は円形で、中肋よりつく。北海道から九州までの各地で、林中の樹幹や岩上に生じる。朝鮮半島にも分布するようである。

### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

中部や西部のブナ帯の樹幹に少数生育しているのが確認されている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウラボシ科

# ヌカボシクリハラン

*Microsorium buergerianum* (Miq.) Ching

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

### 島根県固有評価

分布限界種(北限)

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

暖地に生えるシダ植物で、山陰地方では隠岐諸島にだけ分布するとともにまれな植物である。現地ではごく少数の個体しか確認されず、国内では山口県南部から分布の離れた北限となる。

### 概要

常緑性で根茎は長く伸び、まばらに葉をつける。葉は単葉で縁は全縁からわずかに波打ち、葉身は披針形から狭披針形で長さ10-30cmほどである。孢子嚢群は円形で下面にやや不規則に散在する。本州(千葉県・伊豆諸島・伊豆半島・紀伊半島・山口県・島根県)・四国(太平洋側)・九州・南西諸島に分布する。

### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島前)の常緑樹林の僅かな範囲に生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウラボシ科

# オオエゾデンダ

*Polypodium vulgare* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影者(提供者): 自然環境課



### 選定理由

県内での生育地は隠岐諸島に限られているが、遷移により生育地の環境が悪化し、中には消失した場所もある。

### 概要

山地の岩上に生え、根茎は這い、長さ20-30cmばかりの単羽状の葉をつける常緑の多年生のシダ植物である。国内では北海道と本州北部に僅かに分布し、山陰では鳥取県の一部と県内の隠岐諸島にのみ分布する。国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部からヨーロッパ、北アメリカと北半球の温帯に広く分布域があるとされる。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島では主要4島のいずれにも生育が知られていたようだが、現在島後の生育は知られていない。ミツパイワガサなどの低木群落に出現する隠岐諸島に特有な種であり、牛馬の放牧に起因する露岩地が生育適地となっていた。しかし放牧の廃止に伴う遷移により絶滅しているところもあり、今後の推移が非常に心配される種である。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウラボシ科

# イワオモダカ

*Pyrosia hastata* (Thunb.exHoutt.) Ching

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

全国的にまれな植物であり、県内でもきわめてまれな植物である。

### 概要

常緑性で葉柄は12-25cmと長く、葉身は3-5裂し、葉裏は赤褐色の星状毛で密に覆われている。孢子嚢群は主側脈の間に3-7列に並び、北海道から九州まで分布し、深山の林中の岩上や樹幹に着生する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部と西部の中国山地から生育が報告されている。山地の空中湿度の高い川沿いなどの岩上や樹幹にまれに着生している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

スイレン科

## オニバス

*Euryale ferox* Salisb.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):自然環境課



## 選定理由

県内での現在の産地が1カ所に限定されており、除草剤並びにアメリカザリガニやウシガエルなど移入種による食害によって産地の環境が悪化している。

## 概要

1属1種で本州、四国、九州に分布。植物体全体が長さ1-3cmほどの鋭い棘で覆われる1年生の浮葉植物で、やや富栄養化した泥深い池沼や用水路に生育する。塊状の茎から太いひげ根を多数泥中に伸ばし、時に直径2m以上にもなる大型の浮葉を叢生する。光沢のある葉の表面にはしわが多数あり、裏面は濃紫色を帯び、葉脈が浅状に隆起する。花には水中で自家受粉して結実する閉鎖花と、水面上で開花する開放花の2つあり、花卉の色は赤紫色で美しい。果実は長さ5-15cm、幅5-10cmの楕円形で、熟すと分解して寒天質の仮種皮によって包まれた直径約1cmの黒色の種子を多数放出する。種子は仮種皮が腐るまでの1-2日間水面に浮かび、その間に分散する。種子は埋土種子として数年間にわたって休眠状態を保つことが報告されている。

## 参考文献

波田善夫(1988) オニバスの復活。水草研究会会報、33:34:31-33。  
三浦憲人(2022) オニバス関連文献リスト。ホシザキグリーン財団研究報告特別号、31:91-102。  
上田第一(1961) 松江堀川の生物(旧稿)。山陰文化研究所紀要、1:1-25。

## 県内での生育地域・生育環境

昭和30年代までは松江城の堀にも群生していた。現在は松江市内の1つのため池での自生が確認されていたが、最近はその姿を見せていない。最近になって朝酌川の下流域にある中洲でオニバスが観察されたが一時的なものであった。県の保護管理計画により絶滅リスク分散のため移植が実施された結果、県内の複数個所で野外での開花・結実が観察されるようになってきている。

## 存続を脅かす原因

除草剤とアメリカザリガニやウシガエルなどの移入種による食害。

## 特記事項

日本各地の自生地でも保護・保全のための施策が取られており、島根県では2010年12月に島根県指定希少野生動物植物に指定され、保護管理計画が定められている。

(執筆者: 國井 秀伸)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウマノスズクサ科

## マルバウマノスズクサ

*Aristolochia contorta* Bunge

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



## 選定理由

現在、生息地が極限されていて、生育地での個体数も多くはない。

## 概要

多年生の蔓草で、枝分れして数mに伸びる。葉は卵形で基部は心形、長さ5cm前後で互生する。花は葉の腋に数個ずつ着き、萼筒は球形で先が細長く伸びる特徴的な形である。実は緑色で長さ3cm程の卵形、3-4cmの柄があって下垂する。国内では山形から島根の日本海側、長野、群馬に分布し、国外では朝鮮半島、中国北部、ウズベキスタンに分布する。

## 参考文献

井上雅仁(2019) 松江市の植物(シダ植物を除く植物)総説及び目録、松江市史編集委員会、松江市史史料編1 自然環境、松江市、599-634  
大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社、東京  
松村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館会報3:1-49 三瓶自然館、島根  
松村喜則(2010) 島根県植物分布資料(52) 旧八雲村でのマルバウマノスズクサ *Aristolochia contorta* Bunge (ウマノスズクサ科) とハネミギク *Verbesina Alternifolia* Britt. (キク科 北アメリカ原産) について。島根植物研究会会報19:7 島根植物研究会、島根

## 県内での生育地域・生育環境

朝鮮半島、中国北部に分布が続く大陸系の植物で、国内で最初に気づかれたのは島根の松江市八雲町若坂で採集されたものである。山麓の路傍、林縁、川土堤などに生える。県東部の山麓には数カ所知られていたが、遷移などにより全て見られなくなっている。隠岐諸島では島後、西ノ島、中ノ島に記録があり、島後と中ノ島、西ノ島では現在も生育が見られる。

## 存続を脅かす原因

草地の刈り取り、造成等。

(執筆者: 柳浦 正夫・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウマノスズクサ科

# ウスバサイシン

*Asiasarum sieboldii* (Miq.) F. Maek.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地は限られていて、生育地での個体数がきわめて少なく、まれである。

### 概要

夏緑性の多年生草本。葉身は薄く卵状で基部心形、長さ3.5-13cm、幅3-12cm程度。花は早春、地際に咲いて、径1cm前後、濃紫色。萼筒は膨らみ、萼裂片は3枚で外側に反り返る。萼口は狭くなるが萼筒の半分程度になるイズモサイシン対し、7割程度とあまり狭くならない。本州、四国、九州に生育する。

#### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 松村喜則(2006) 島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告(4): 41-43 島根県立三瓶自然館  
 柳浦正夫・谷田貝繁明・井上雅人(2024) 中国地方のウスバサイシン節の分布とイズモサイシンとウスバサイシンとの形態比較、三瓶自然館研究報告(22): 27-34 島根県立三瓶自然館  
 山路弘樹・中村輝子・横山 潤・近藤健児・諸田 隆・竹田秀一・佐々木博・牧 雅之(2007) 日本産カンアオイ属ウスバサイシン節の分類学的研究、植物研究雑誌(82): 79-105

### 県内での生育地域・生育環境

県内では隠岐と中部に生育地が点在し、主として夏緑樹林内に見られる。前回のレッドリストまではイズモサイシンと混同されていた。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、遷移、園芸上の採取。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

モクレン科

# オオヤマレンゲ

*Magnolia sieboldii* K.Koch subsp. *japonica* K.Ueda

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数がきわめて少なく、まれである。

### 概要

夏緑性の低木で、長さ15cm前後、幅10cm前後のやや大きい葉を互生する。花は直径10cm程で白色、芳香があって特徴的である。西日本の山地に分布するが産地は多くないものとされる。

#### 参考文献

国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)、県中部(浜田市)、県西部(益田市)の中国山地脊梁部でまれに確認されているが、いずれの箇所も個体数は僅かであって絶滅が心配される。

### 存続を脅かす原因

種々の目的による樹木伐採と園芸上での枝の採取、掘り取り。

(執筆者:井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

サトイモ科

マイヅルテンナンショウ

*Arisaema heterophyllum* Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 田中哲郎



選定理由

県内において、生息地も個体数も少ない。

概要

低地の草原や湿地に生育し、高さ60-120cmになる。葉は1枚で、鳥足状に裂け、17-21の小葉となる。花序の柄は葉柄より長く、仏炎苞は緑色で一部紫色を帯びる。苞部は広卵形で基部は著しく狭まり、先は尾状に長く伸び尖る。付属体も先端が細く尖り、上へ20-30cmと長く伸びる。本州から九州に分布し、国外では朝鮮半島南部・中国・台湾に分布する。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 松村喜則 (2006) 島根県の種子植物相(補遺). 島根県立三瓶自然館研究報告(4): 41-43 島根県立三瓶自然館  
 柳浦正夫 (2021) 島根県で初確認されたマイヅルテンナンショウについて. 島根県立三瓶自然館研究報告(19): 51-52 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

県西部に極まれに生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移、園芸における採集。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

サトイモ科

ヒメザゼンソウ

*Symplocarpus nipponicus* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

県内では個体数が非常に少なく、生育地もほとんどない。

概要

冷温帯の湿地に生える夏緑性の多年草。葉は長い柄があり葉身は卵状楕円形で長さ10-20cm。幅は7-12cm。花序は葉の後に出て、仏炎苞は広楕円形で長さ4-7cm、暗紫褐色となる。初夏に開花し、果実は翌春に熟す。北海道・本州に分布し、国外では朝鮮半島に分布する。

参考文献

丸山 巖 (1935) 三井野に於けるヒメザゼンソウ。ユーグナ. 4(5): 6-10 島根県師範学校博物学会  
 大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 松村喜則 (2006) 島根県の種子植物相(補遺). 島根県立三瓶自然館研究報告(4): 41-43 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の山地の湿地に点在して分布していたが、現在確認できないところも多い。

存続を脅かす原因

遷移、採集。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

チシマゼキショウ科

# ハナゼキショウ

*Tofieldia nuda* Maxim.



### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 隠岐ジオパーク推進機構

### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山地の露岩上に生えて、葉を根生し、草丈20cmばかりのやや小型の夏緑多年草である。葉は線形で長さ6.5-30cm、幅3-5mm。夏期に葉より長い花茎を伸ばし、花茎の上部に総状花序をなして白色の小花を多数つける。花被片は線状長楕円形で長さ3-4mm。日本の特産で、本州の近畿地方北部・九州(佐賀県・長崎県)に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp.株式会社平凡社.東京  
大井次三郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌顕花植物編」.1716pp.至文堂.東京

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)に生育しているが、生育地はかなり限られている。生育地は山中の露岩地であり、湿り気の強い岩上からかなり乾燥した岩上まで、適応範囲はかなり広い植物のようである。

### 存続を脅かす原因

生育地の遷移、園芸上での採取。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

チシマゼキショウ科

# イワショウブ

*Triantha japonica* (Miq.) Baker



### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

### 島根県固有評価

分布限界種(西限)

### 環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也

### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

亜高山帯など冷涼な地域の湿地に生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと20-50cmになる。根出葉は長さ5-40cm、幅2-8mmの線形で、中脈に沿って表面を内側にして折りたたまれており、根元から袴状に互生する。花期は7月下旬-10月上旬で、花茎の先に側枝が退化した複総状花序をつける。花被片は白色で、淡紅色を帯びる場合がある。北海道は不明で、本州(西限は広島県北東部)に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015)改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社. 東京.  
丹後亜興(2022) 隠岐の西限植物. 隠岐の文化財 39: 6-14.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)にのみ知られている。生育環境は、山中の溪流沿いで、水がしたたるような露岩地である。

### 存続を脅かす原因

園芸上での採取、大規模な出水による生育地の消失。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オモダカ科

# アギナシ

*Sagittaria aginashi* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はまれである。

### 概要

湿地、浅い池に葉を5-6枚根生して生えて、草丈は約30cmである。葉は水面より上に出たものは葉身の基部が矢じり形に2つ裂け、上の裂けない裂片より短いとされる。夏から秋にかけて、花茎を出し、花を3個ずつ輪生する。花茎の下方に雌花、上方に雄花がつく。国内では北海道から九州、朝鮮半島に分布するとされる。

#### 参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24。  
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、出雲市、奥出雲町、飯南町)で確認されている。人為干渉の少ない、かなり年数を経た湿地に生育するようであり、県内でもそのような湿地がまれである。

### 存続を脅かす原因

生育地の自然な遷移としての湿地の乾燥化。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

トチカガミ科

# マルミスブタ

*Blyxa aubertii* Rich.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県東部のため池に生育地が限られており、現存するため池は生育環境が悪化し、絶滅のおそれが高い状況である。

### 概要

北海道を除く全国各地の水田、水路、ため池などの浅水中に生育する一年生の沈水植物。葉はスブタと同じ形態で多数の線形の葉が根生する。種子に尾状突起を欠くことが特徴で、果実のない状態では識別ができない。以前はスブタとともに普通の水田雑草であったが、除草剤の使用などにより減少し、全国的にまれな種となっている。

### 県内での生育地域・生育環境

県東部の山間部の限られたため池で生育が確認されている。水の澄んだ浅い水域に点在して生育する。近隣の鳥取県西部では平野部の水田で記録されている。

#### 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京。  
 汐田達哉・澤田達也・辻井要介 (2025) 島根県におけるマルミスブタの再発見。水草研究会誌, 118: 35-38。  
 汐田達哉 (2022) 鳥取県米子市におけるセトヤナギスブタとマルミスブタの新産地。水草研究会誌, 113: 47-50。  
 杉村喜則 (2006) 島根県の植物相。島根県立三瓶自然館研究報告, 3: 1-49。

### 存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化によるため池の管理不足と水田の乾田化。

### 特記事項

長らく標本のみの記録で現状が不明であったが、2024年に2箇所の新産地が発見された。ただし、いずれの産地も小規模なため池で、ひとつは堤体が崩れ貯水量が低下しており、もうひとつは周囲の木々が被覆し日照条件が悪化しているなど、本種の安定的な生育が懸念される。

(執筆者: 辻井 要介)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

トチカガミ科

# トチカガミ

*Hydrocharis dubia* (Bl.) Backer

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介



### 選定理由

県東部に生育地が限られ、きわめてまれとなっている。近年いくつかの生育地が消滅しており、野生での絶滅のおそれが増大している。

### 概要

北海道を除く全国各地の富栄養化した湖沼、ため池、水路などに群生する多年生の浮遊植物。水中茎が水面直下を横走し、節から発根して水中に垂らす。長さ5-20cmの葉柄をもつ葉身は初めは巻いているが、成長すると径5cmほどの心臓形の浮葉となる。浮葉の表面は緑色で光沢があり、裏面には泡沫様の気のある。花には雄花と雌花があり、どちらも花弁は3枚で白色。花期は8-10月。秋から冬にかけて水中茎の先端が長さ2-4cmの殖芽となり、水底に沈んで越冬する。時として水面を密に覆いつくすことがあり、その場合には葉は気中葉となり、気のは目立たない。

#### 参考文献

- 角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.  
 國井秀伸 (1986) 宍道湖および斐伊川河口域の小河川でみられた水生植物. 山陰地域研究 (自然環境), 2: 53-57.  
 上田常一 (1961) 松江市堀川の植物 (旧稿). 山陰文化研究所紀要, 1: 1-25.  
 柳浦正夫 (2011) 斐伊川河口北部の平野部流水域の水生植物について. 島根植物研究会会報, 20: 3-6.  
 柳浦正夫 (2019) 第30回研修会報告. 島根植物研究会会報, 36: 1-2.

### 県内での生育地域・生育環境

県東部に位置する出雲平野の小河川や用水路の止水域に生育する。

### 存続を脅かす原因

除草剤の使用、他の植物による被覆、河川改修やため池の管理不足などによる生育地の消滅。

### 特記事項

県内での生育地はもともと県東部の斐伊川水系の下流域に限られており、古くは松江城のお堀にも記録があった。比較的近年まで生育が見られた島根半島側のいくつかの溜池では消滅し、県内で唯一残存する出雲平野の生育地でも減少している。

(執筆: 辻井 要介・國井 秀伸)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒルムシロ科

# オヒルムシロ

*Potamogeton natans* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育場所が県内で2カ所に限定され、自生地のひとつである県西部の用水路では人為的な刈り取りが行われており、また隠岐諸島の自生地では遷移による浅化が進んでいる。これまでは絶滅危惧Ⅱ類としていたが、今回、存続を脅かす原因が取り除かれていないことから、カテゴリーを絶滅危惧Ⅰ類に変更した。

### 概要

国内では北海道から本州、四国、九州の湖沼や河川中に群生する多年生の浮葉植物で、浮葉と沈水葉を持つ。浮葉は長さ15-20cmの葉柄を持ち、葉身は全縁で長さ10-15cm、幅4-7cmの長楕円形あるいは広楕円形。表面は平滑で光沢があり、裏面は緑褐色で5-7脈がやや隆起して顕著。沈水葉は暗褐色で、長さ15-30cm、幅2-3mmの硬く細長いひも状であり、この点で似たような浮葉をもつヒルムシロやフトヒルムシロと区別できる。沈水葉の断面は半月状。夏に浮葉の葉腋から長さ5-10cmの花茎が上方に伸び、その先に長さ4-6cmの黄褐色の穂状花序をつける。

#### 参考文献

- 角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島、県西部の河川、用水路など。

### 存続を脅かす原因

河川改修と人為的な刈り取り、遷移。

(執筆: 國井 秀伸)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キンコウカ科

# キンコウカ

*Narthecium asiaticum* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):自然環境課



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

植物体は地下の根茎から葉を根生し、草丈30cm前後の夏緑多年草で、葉は線形で長さ20-30cm、幅1cmである。花は夏に咲き、高さ30cm前後の花茎を伸ばし、上部に総状花序に直径2cmの黄色花を多数つける。本州の中部以北、北海道に分布範囲をもち、山地の湿地に生える日本固有の植物とされる。

### 参考文献

杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。  
丹後亜興(2022) 隠岐の西限植物。隠岐の文化財 39: 6-14。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での生育地は隠岐諸島(隠岐の島町)にのみ知られているもので、県内でもきわめて限られた場所に生育している。生育地は山中の露岩状地で露岩崖地や岩棚の土壌が堆積している場所であって、多少なりとも上部から浸出水があって、保水状態のよい場所である。

### 存続を脅かす原因

生育地の自然な遷移による樹林化、園芸上での採取。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒナノシャクジョウ科

# ヒナノシャクジョウ

*Burmannia championii* Thwaites

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

草丈3-15cmの小型の腐生植物で、植物体全体が白色で、葉は退化して長さ3mmほどの鱗片葉となり互生する。花は夏から秋にかけて、茎頂に5個程の白色の小花を頭状につける。国内では本州(関東以西)・四国・九州・屋久島・沖縄島に見られ、台湾・中国(南部)・マレーシア・タイ・シンドネシア・ニューギニア・タイ・スリランカに分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京  
杵村喜則(2004) 島根県植物分布資料 (9)ヒナノシャクジョウ *Burmannia championii* 島根植物研究会会報 5: 9

### 県内での生育地域・生育環境

出雲での生育が報告されており、現地では照葉樹林内から一部人工林の林縁に生え、落葉や他の種の稚苗などと共に生えている。きわめて小型の植物である。目立たない植物であるので、県内での生育地は他所にも存在する可能性がある。

### 存続を脅かす原因

林伐開または諸開発による生育地の破壊、人の踏みつけ等。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ホンゴウソウ科

# ホンゴウソウ

*Sciaphila nana* Blume

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も限られている。

### 概要

林内に生える小形の腐生多年草である。草丈は多くは5-6cmで、全体が赤紫色で葉は小さい鱗片に退化している。花は夏から秋に咲き、茎の上部の総状花序に10個前後の花をつける。花序の下部には直径1.5mm程の球状の雌花、上部には直径2mm程の雄花がつく。本州の関東以西、四国、九州、南西諸島の範囲に分布域がある植物とされる。

### 参考文献

澤田達也 (2024) 島根県安来市にてホンゴウソウ及びヒナノシャクジョウを確認。島根植物研究会会報 46:3.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、出雲市)、県西部(益田市、浜田市)で知られている。近年になって隠岐諸島(隠岐の島町)でも確認されている。生育環境は山地樹林内で、落葉や他の雑樹などと共に生えている。小形で、奇妙な腐生植物であるので一般にはあまり認識されにくく、生育があまり知られていないものと思われる。

### 存続を脅かす原因

森林伐開、一部の山道の傍らに生育するものについては、山道の整備、踏圧による消滅が心配される。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

シュロソウ科

# バイケイソウ

*Veratrum album* L. subsp. *oxysepalum* (Turcz.) Hultén

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

植物体はやや大形で1mを越し、長さ20-30cmの広楕円形の葉を互生する夏緑の多年草である。花は夏に咲き、茎頂に大きな円錐花序に緑白色の小花を数多くつける。分布はやや北方系の植物で、国内では本州から北海道に分布して、朝鮮半島、樺太から大陸に分布が広がる。

### 参考文献

井上雅仁・大畑純二 (2007) 島根県浜田市金城町の湿原植物。島根県立三瓶自然館研究報告 5: 1-6.  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)、県西部(浜田市、益田市)の、中国山地沿いにまれに存在している。本来湿草原に生育する植物であり、県内の生育地も山中の湿地状態の窪地などである。

### 存続を脅かす原因

遷移による樹林化、人為による埋め立て等の生育地の破壊。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

サルトリイバラ科

## マルバサンキライ

*Smilax stana* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県下で確認されているのは1ヵ所のみで個体数も少ない。

## 概要

山地に生える半つる性の低木。茎は稜が多く、細い刺がついている。長いまきひげがあり、葉は卵形で長さ5-12cmで5脈ある。花は散形花序で今年の枝の葉腋に連続してつき、花被片は黄緑色で長楕円形、平開する。果実は直径6mm程度の球形の液果で、黒く熟す。本州・四国・九州に分布し、石灰岩や蛇紋岩地に多いとされる。

## 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」. 391pp. 株式会社平凡社. 東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 松村喜則(2006) 島根県の種子植物相(補遺) .. 島根県立三瓶自然館研究報告(4): 41-43 島根県立三瓶自然館  
 柳浦正夫(2023) 植物の分布・観察報告(74)県西部でマルバサンキライを確認。島根植物研究会会報(43): 5 島根植物研究会

## 県内での生育地域・生育環境

西部の山地谷部の1ヵ所に生育しているのが確認されている。

## 存続を脅かす原因

森林伐採による環境変化。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ユリ科

## ホンバナコバイモ

*Fritillaria amabilis* Koidz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

## 概要

山地林内に生える多年草で、草丈15cm前後、葉は長楕円形で長さ5-6cm、幅1-2cm、対生または3輪生。花は春先きに咲き、茎頂に1個の長さ約2cmの鐘形、花糸と花柱に毛状突起がある。いわゆる早春植物で5月中に果実成熟、地上部は枯れる。本州の中国地方から四国、九州に分布域がある。

## 参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 鳴橋直弘(2018) ユリ科バイモ属の1新雑種、イワミコバイモ。福井総合植物園紀要 8: 1-6.  
 鳴橋直弘編(2020) ユリ科コバイモ *Fritillaria japonica* group (Liliaceae). 423pp. 大阪.  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(吉賀町)で確認されているが、生育地はきわめて狭い範囲である。夏緑広葉樹林内から林縁に生える。県中部(江津市)のものは、最近の見解では、ホンバナコバイモとイズモコバイモの雑種であるイワミコバイモとされる。

## 存続を脅かす原因

森林伐開、園芸上での採取、生育地での自然遷移。

(執筆者:井上 雅仁・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ユリ科

# イズモコバイモ

*Fritillaria ayakoana* Maruy. et Naruh.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

島根県固有種

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山地林内に生える多年草で、草丈は15-20cm、葉は長楕円形で長さ5-6cm、幅2cm前後で対生または3輪生。いわゆる早春植物であり、春先に、茎、葉を地上部に展開、開花、結実の後、周りの樹木の葉が出揃う頃には地上部は枯れてしまう。花は4-5月に咲き、茎頂に普通1個の花をつけて、広い鐘形で花被の長さは2-3cmで下垂して開花する。

### 県内での生育地域・生育環境

島根県固有種であり、県内での分布は、県東部(出雲市)、県中部(大田市、川本町)で確認されており、夏緑樹林内から林縁にかけて生える。森林内の遷移や園芸上での採取による生育地での個体数が激減した場もあるが、一方では自然保護団体や個人による生育地の保護、保全が計られている場もある。

### 参考文献

井上雅仁(2021) 島根県固有植物イズモコバイモ *Fritillaria ayakoana* Maruyama & Naruhashiの開花特性. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 17-25.  
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 鳴橋直弘編(2020) ユリ科コバイモ *Fritillaria japonica* group (Liliaceae). 423pp. 大阪.  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 存続を脅かす原因

林内遷移、照葉樹林化、園芸用の採取。

### 特記事項

川本町では本種が町の天然記念物に、出雲市では生育地が市の天然記念物に指定されている。大田市では市自然環境保全条例に基づく「大田市指定希少動植物」に指定されている。

(執筆: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ユリ科

# ホンバナアマナ

*Lloydia triflora* (Ledeb.) Baker

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



### 選定理由

個体数がきわめて少なく、生育地もきわめてまれで絶滅が心配される。

### 概要

山地の草地に生える鱗茎をもつ多年草。植物体は小型で、根出葉は1枚(長さ1cm、幅3mm)、花茎は20cm前後で、先端に数個の白色小花(花被片、雄蕊6個)をつけて咲く。

国内では、北海道から九州まで、国外では朝鮮半島、中国大陸、シベリア、カムチャッカ、北アメリカと、広い範囲にあるものとされる。

### 参考文献

枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)の一部にのみ知られている。林縁、路傍の岩質基盤の草地にまれに生育するものが見られる。

### 存続を脅かす原因

生育地の自然な遷移で、種々の高茎草本が侵入することが一番の原因と思われる。

(執筆: 井上 雅仁・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

マメツタラン

*Bulbophyllum drymoglossum* Maxim. ex Okubo

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



選定理由

県内での生育地はまれであり、生育地での生育範囲、個体数ももともと僅かなものである。

概要

樹幹や岩上に着生する小型の植物で、細い根茎を這わせて、長さ、幅とも径1cm程の円形の葉をややまばらにつける。花は初夏の頃に葉のもとに1花を咲かせ、淡黄色で長さ1cm程のものである。国内では関東地方以西、四国、九州に分布するものとされる。

参考文献

井上雅仁・三島秀夫・大畑純二(2011)世界遺産石見銀山遺跡周辺で確認された動植物目録。島根県立三瓶自然館研究報告 9: 49-75。  
 杵村喜則(2005)島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(出雲市)、県中部(大田市)、県西部(吉賀町)の一部に僅かに知られるのみである。県内での生育地は過去においてはあちこちに知られていたようであるが、現在ではきわめてまれな状態となっている。

存続を脅かす原因

樹林伐開、園芸上での採取も考えられる。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

ムギラン

*Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 自然環境課

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



選定理由

県内での生育地はかなりまれな状態となっていて、生育地での生育範囲ももともと僅かで存続の危険性大である。

概要

樹幹や岩上に根茎を這わせて着生する小型の植物である。葉は根茎につく偽球茎の先に1枚がつき、楕円形~長楕円形で長さ2-3cm、幅1cm弱程でやや厚く硬いものである。初夏の頃に偽球形のもとに黄白色の小花を1花だけつける。  
 国内では関東地方以西、四国、九州の範囲に分布するものとされる。

参考文献

井上雅仁・三島秀夫・大畑純二(2011)世界遺産石見銀山遺跡周辺で確認された動植物目録。島根県立三瓶自然館研究報告 9: 49-75。  
 国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。(2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005)島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(出雲市、雲南市)、県中部(大田市、邑南町)、県西部(益田市)で確認されている。生育地は、以前は全域にかなり見られたが、現在では、まれな状態となっている。山地渓谷状地での照葉樹の樹幹からかなり乾燥気味の山地露岩上にも生える。

存続を脅かす原因

森林伐開による着生樹木の伐倒、山地露岩地の遷移による樹林化等、生育地の破壊、消滅、園芸上での採取も考えられる。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# キエビネ

*Calanthe citrina* Scheidw.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県内での生育地が限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

長さ30cm、幅7-8cm前後の広楕円形の葉を数枚根生して生える多年草。春早く、新葉を出すと同時に花茎を高さ30cm程に伸ばして、多くの淡黄色の花を美しく咲かせる。国内では本州西部、四国、九州に分布して、韓国の済州島にも分布するとされる。

### 県内での生育地域・生育環境

県内の分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(松江市、出雲市、飯南町)、県中部(川本町)、県西部(益田市、津和野町)と、全域に生育地が点在するようであるが、限られている。隠岐諸島(西ノ島町)でもかつて生育が知られていたようである。山地の樹林内、時には低海拔地の樹林内にも見られ、多くは夏緑樹林内に生えるが、人工樹林内にも生えるのが見られる。いずれも生育地での個体数は少ない。

### 存続を脅かす原因

森林伐開と園芸上での採取。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

### 参考文献

林 蘇娟・大津浩三・井上雅仁(2016) 隠岐諸島におけるラン科植物の分布現状と新記録. 分類 16(2): 159-173.  
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 丹後亜興(2021) 隠岐の北限植物. 隠岐の文化財 38: 30-50.

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# キンセイラン

*Calanthe nipponica* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 佐藤仁志

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

根際に長さ20cm、幅3cm前後の細長い葉を5-6枚つけて生える多年草。夏前に、葉間より高さ20-30cmの花茎を出し、薄黄色の花を約10個咲かせる。北海道から九州に分布域がある植物で深山の林内に生える。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(飯南町)、県西部(吉賀町)にのみ知られているが、限られた範囲にあって個体数は激減している。隠岐諸島では、照葉樹林内から露岩状地での針葉樹林内に生育地がある。県東部と西部の生育地は、山地の針葉樹林(人工林)内である。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地破壊、環境変化、園芸上での採取。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

### 参考文献

林 蘇娟・大津浩三・井上雅仁(2016) 隠岐諸島におけるラン科植物の分布現状と新記録. 分類 16(2): 159-173.  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

## サルメンエビネ

*Calanthe tricarinata* Lindl.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



## ■ 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育での個体数もまれである。

## ■ 概要

植物体は長さ30cmばかり、幅7-8cm程の倒長楕円形のやや大型の葉を数枚根生するもので、早春、新葉を出すと同時に高さ30cm前後の花茎を伸ばして、10花ばかりの特徴ある美しい花をつける。花の萼片や側花弁は黄緑色であるが、唇弁は紫褐色系の独特な色相をもつ。国内では北海道から九州まで分布し、国外では朝鮮半島・台湾・中国からヒマラヤに分布する。冷温帯の夏緑樹林の林床に生育する。

## ●参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

中部と西部の中国山地に点々と生育が見られる。

## ■ 存続を脅かす原因

樹林伐開、園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

## ユウシュンラン

*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudo) Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## ■ 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

## ■ 概要

植物体はやや小型で、草丈20cm程度、葉は退化して鱗片状から長さ2cm以下のものが互生する。初夏の頃に茎頂部に白色の花を2~3個つける。また花被片の間に少し隙間があることも特徴とされる。北海道から九州までの範囲に分布する。

## ●参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)、島根半島に生育地が知られており、低地の照葉樹林内及び照葉樹と夏緑樹、針葉樹の混生林内に生えている。生育地も個体数もまれである。また、西ノ島・中ノ島に生育するとの情報もある。

## ■ 存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# マヤラン

*Cymbidium nipponicum* (Franch. et Savat.) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめてまれである。

### 概要

暖地に分布する無葉の腐生蘭であり、地中に分枝した根茎を持ち、花茎が立ち上がり高さ10–130cm。下部に膜質の鱗片葉をもつ。6–10月に開花し、茎頂部に数個の花をつける。花被片は2cmばかりで、白色に赤茶色を帯びる。国内では本州(関東以西)の太平洋側から南西諸島にかけて分布し、国外では朝鮮半島・台湾・中国・ヒマラヤに分布する。

#### 参考文献

三浦博文(2015) 杵村先生との思い出、島根植物研究会会報28: 11-12 島根植物研究会  
大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京

### 県内での生育地域・生育環境

県内では隠岐(島後)と東部の各地、また西部でも生育地が報告されている。海岸に近い照葉樹林やその林縁などにまれな生育が知られている。また、西ノ島に生育との情報もある。

### 存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# クマガイソウ

*Cypripedium japonicum* Thunb.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

産地が減少し、現在生育しているところは非常に少なくなっている。

### 概要

暖温帯から冷温帯の林下に生育する夏緑性草本で、杉林や竹林などにも生育する。茎は高さ20–40cmになり、葉は扇状で径10–20cmになる。4–5月に茎頂に1個、径10cm程度の大形の花を咲かせる。唇弁は袋状で赤紫の脈がある。側花弁は卵状披針形で、内面に斑点と軟毛がある。

国内では北海道西南部から九州に分布し、朝鮮半島・中国東部に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
大井次郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌顕花植物編」.1716pp.至文堂,東京

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と本土側の東部から西部までの丘陵域から山域の林下に点々と生育が見られたようであるが、知られているところでは採集され多くは絶滅し、残っているところは少ない。また密かに現地で保護されている可能性もある。また、西ノ島に生育していたとの情報もある。

### 存続を脅かす原因

遷移、園芸上の採集。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

## タシロラン

*Epipogium roseum* (D. Don) Lindl.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 針本翔太

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## 選定理由

県内において、現在確認されている生育地は1カ所のみであり、生育地での個体数も少ない。

## 概要

主に常緑広葉樹林下に生える多年草の菌従属栄養植物である。茎は高さ20—50cmになり、匍匐茎がある。茎は白黄色で、唇弁は下位、花被片は披針形で鋭尖頭である。花期は5—7月である。繁殖は、訪花昆虫に依存しない自動自家受粉であり、主に匍匐茎で増殖するとされている。国内では本州(東北部以南)、四国、九州および南西諸島に分布する。

## 参考文献

針本翔太・末次健司・井上雅仁(2022) 島根県におけるタシロランの新産地発見. 植物地理・分類研究 70(2): 187-189.  
 Yagame, T. Yamato, M. Mii, M. Suzuki, A. and Iwase, K. (2007) Developmental processes of achlorophyllous orchid, *Epipogium roseum*: from seed germination to flowering under symbiotic cultivation with mycorrhizal fungus. J. Plant Res. 120: 229-236.  
 遊川知久(2015) ラン科 Orchidaceae. 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司(編). 改訂新版 日本の野生植物1 ソテツ科~カタツリグサ科, pp.178-231. 平凡社, 東京.  
 Zhou, X. Lin, H. Fan X.L. and Gao, J.Y. (2012) Autonomous self-pollination and insect visitation in a saprophytic orchid, *Epipogium roseum* (D. Don) Lindl. Aust. J. Bot. 60: 154-159.

## 県内での生育地域・生育環境

東部丘陵域のスギ植林内において、落葉が堆積する湿潤な環境に生育する。

## 存続を脅かす原因

森林伐開、落葉の清掃、土地改変や豪雨による土砂崩れなど。  
 (執筆者: 針本 翔太)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

## フガクスズムシソウ

*Liparis fujisanensis* F. Maek. ex F. Konta et S. Matsumoto

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



## 選定理由

県での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

## 概要

草丈は約10cmで、多くは長さ5cm前後の楕円形の葉を2枚展開する植物である。多くはブナの大木の支幹分枝上に生えるコケ植物の基盤上に生育するものである。花はスズムシソウに似るが、スズムシソウとクモクリソウとの自然雑種であるとする資料もある。富士山や近畿地方に分布することが知られている珍奇な植物である。

## 参考文献

松村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)、県中部(大田市)で知られている。生育環境は標高の高い山地林内である。県東部の生育地は現況が不明であるが、県中部の生育地は国立公園内であって、それなりに保護、保全策がとられているものである。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開と園芸上での採取。  
 (執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# ジガバチソウ

*Liparis krameri* Franch. et Savat.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

植物体は草丈10cmばかりで、多くは長さ5-10cmばかりの広卵形の葉を2枚対生状につけて生える。花は初夏で、葉間より花茎を20cmばかりに伸ばし、先端部に2-3花をつける。花被片は線形で淡緑色で赤茶色を帯びる部分もある。山地の樹林内、露岩状地に多くはコケ類を伴った基盤に生える。北海道から九州まで広く分布域があるようである。

### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

県内での生育地はまれであって、隠岐諸島、石見西部に知られている。生育地はいずれも露岩状地でやや乾燥気味の立地である。

### 存続を脅かす原因

生育地の自然な遷移による照葉樹林化と園芸上での採集。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# アオフタバラン

*Neottia makinoana* (Ohwi) Szlach.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は著しく限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地の林内に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと10-20cmになる。葉は長さ幅とも10-30mmの三角状卵形、青緑色で不鮮明な白斑が入り、地上近くの茎に対生状につける。茎には少数の鱗片葉をつける。花期は7-8月で、茎の先に帯緑色の花を5-20個まばらにつける。本州、四国、九州に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科, 666pp. 平凡社, 東京.  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)で確認されている。生育環境は、植林されたスギや広葉樹が混在する山地樹林内の林床である。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、園芸上の採取。  
 (執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# ヤクシマヒメアリドオシラン

*Odontochilus yakushimensis* (Yamam.) T.Yukawa

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 針本翔太



### 選定理由

県内での生育地はきわめて局所的であり、生育地での個体数も少ない。

### 概要

主に暖温帯の常緑針葉樹林下に生える多年草である。茎は高さ4-10cm、茎の下部は地表近くを横にはい、根は退化し突起状である。茎は茶褐色または緑色であり、下部に3-5枚の暗緑色の葉を互生し、子房、苞および萼片には細かい軟毛がある。唇弁の下部は二裂し、三角形となる。花期は6-8月であり、白色または淡紅色の花を1-4個つける。国内では本州(中部・近畿)、四国、九州、南西諸島に分布する。

#### 参考文献

針本翔太・中本憲昭・井上雅仁・林 蘇娟(2021) 島根県隠岐諸島におけるヤクシマヒメアリドオシランの新産地発見. 植物地理・分類研究 69(2): 215-217.  
遊川知久(2015) ラン科Orchidaceae. 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司(編). 改訂新版 日本の野生植物1 ソテツ科~カヤツリグサ科, pp.178-231. 平凡社. 東京.

### 県内での生育地域・生育環境

現在、隠岐諸島(島後)にのみ生育地が知られている。県内での生育範囲は広いが局所的であり、主に針葉樹林下に生育する。

### 存続を脅かす原因

マツ枯れ、森林伐開、園芸上での採取。

(執筆者: 針本 翔太)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# サギソウ

*Pecteilis radiata* (Thunb.) Raf.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

水湿地に生える植物で、地中に球茎があって、未開花株では草丈5cm前後で長さ3cm程の披針形の葉を数枚互生する。開花株は高さ20-30cmばかりに地上茎を伸ばし、夏に茎頂部に白色の花を数個つける。花は白鷺が舞い飛ぶ姿に似て、特徴的であり、一般によく知られている。唇弁が3深裂して、側裂片の縁がさらに多くの細裂片となり、白鷺の羽根を広げた姿に似ていて美しい。日本全土から朝鮮半島、台湾に分布域があるとされる。

#### 参考文献

井上雅仁(2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24.  
井上雅仁・大畑純二(2007) 島根県浜田市金城町の湿原植生. 島根県立三瓶自然館研究報告 5: 1-6.  
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
渡津友博・桑原一司・大野芳典・井上雅仁(2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県中部(邑南町)、県西部(浜田市)で確認されている。生育環境は、山間の低茎の湿地である。

### 存続を脅かす原因

自然な湿地での遷移や盗採により、個体数は明らかに減少している。

### 特記事項

県東部の生育地は、県の自然環境保全地域に指定されている。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# ミスチドリ

*Platanthera hololottis* Maxim.

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

湿地に生え、開花株は草丈50cm前後になる草本である。葉は線状披針形で、茎の下の方には長さ10cm前後、幅2cm程の葉がつくが、上方に向いしだいに小さい葉となって、その先に穂状花序をなして花が着く。花期は初夏の頃で、花は直径約1cmの純白色の小数で、数多く咲いて、夏の青草の中に時に美しく目立つものである。北海道から九州までの範囲に分布域があるとされる植物である。

### 参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24。  
井上雅仁・三島秀夫 (2019) 島根県津和野町地倉沼の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 17: 1-15。  
井上雅仁・大畑純二 (2007) 島根県浜田市金城町の湿原植生。島根県立三瓶自然館研究報告 5: 1-6。  
国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)  
澤田達也 (2025) 島根県浜田市金城町にてミスチドリを確認。島根植物研究会会報 48:7。  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県西部(浜田市、津和野町)で確認されている。県東部の生育地は県の自然環境保全地域に指定された範囲の中にあるが、中でもごく一部であり、他の水湿地の高茎草本と混生していたが、近年では生育が確認されていない。

### 存続を脅かす原因

湿原、湿地での自然な遷移による乾草原化による生育地の環境変化。  
(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# イヌマムカゴ

*Platanthera iinumae* (Makino) Makino

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 澤田達也

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

絶滅危惧ⅠB類(EN)



### 選定理由

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

山林の林内に生える夏緑の多年草である。草丈は開花株で30cm前後のもので、葉は披針形~長楕円形で、長さ10cm、幅2cmのものを2-3枚つける。花は夏に咲き、茎頂に淡緑色の小花を数多くつける。国内でのこの種の分布は北海道南から、本州、四国、九州の範囲にあるものとされるがもともと、まれな植物のようである。

### 参考文献

林 蘇娟・大津浩三・井上雅仁 (2016) 隠岐諸島におけるラン科植物の分布現状と新記録。分類 16(2): 159-173  
国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)にのみ知られている。現状としては夏緑広葉樹の二次林内に生えるものが多いが、本来の生育環境がどのような状態のものか明かでない。隠岐諸島においては人為の影響がある場所の一部に生存可能な場があるようにも思われる。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開、自然の進行による林床の灌木化、照葉樹林化。  
(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# ヤマサギソウ

*Platanthera mandarinorum* Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *oreades* (Franch. et Sav.) Koidz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

日当たりの良い草地に生える植物で、茎は20–40cmでやや稜がある。葉は下部の1枚が大きく、線状披針形で、長さ5–11cm、幅1–1.5cm、先端は鋭頭、基部はほとんど葉を抱かない。5–7月に黄緑色の花を10個内外開花する。背萼片は広卵形、側萼片は鎌形、唇弁は舌状で、距は後方に水平でまたはやや下がって伸び、長さ7–12mmになる。国内では北海道から九州にかけ広く分布する。

### 参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

中部から生育が報告されている。山域の草原にわずかに生育がみられる。また、隠岐(中ノ島・知夫里島)に生育しているとの情報もある。

### 存続を脅かす原因

草原の遷移、園芸上の採取。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# コバノトンボソウ

*Platanthera nipponica* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

湿地に生え、開花株は草丈30cm前後に細い茎を立てる草本である。葉は茎の下の方に1枚が目立ち、広線形で長さ5cm、幅1cmである。花期は夏で、茎の上部に淡黄緑色の小花が疎らに数個つけて咲く。唇弁の距が長さ2cmに近いもので上にはね上がるのが特徴的である。北海道から九州の範囲に分布域があるものとされる。

### 参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24.  
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 渡津友博・桑原一司・大野芳典・井上雅仁 (2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県中部(邑南町)で確認されている。いずれも山間の湿原状地に若干の生育地が認められるが、まれな分布のものである。個体数は僅かであり、湿原の自然な遷移の中で、乾草原化、樹林化その他の人為的な生育地破壊により絶滅が心配される。一部の生育地は県の自然環境保全地域に指定された場の中にある。

### 存続を脅かす原因

湿原の乾燥、樹林化と埋立て等による生育地の破壊。

(執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# トキソウ

*Pogonia japonica* Rchb.f.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体も多くはない。

### 概要

湿地に生えて、地中に這う根茎から線状長楕円形の長さ10cm、幅1cmの葉を1枚、垂直に立てて生える草本。花は初夏に咲く。開花株は茎を高さ20cm程に立てて、葉は中程につき長さ5cm前後で、茎頂に薄紅紫色の花を1個だけ咲かせる。花には長さ2cm程の葉状の苞が目立つ。国内での分布は北海道から九州までの範囲に生えるものとされる。

### 参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24。  
井上雅仁・大畑純二 (2007) 島根県浜田市金城町の湿原植生。島根県立三瓶自然館研究報告 5: 1-6。  
国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。 (2025年10月30日閲覧)  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県中部(邑南町)、県西部(浜田市)など、山間の湿原状地にまれに存在する。日当たりのよい湿地で、草丈の低い草本が出現する中に混生する。一部の山地では放棄水田にも生えるが、遷移による湿地の乾燥化により絶滅状態の場合もある。また、一部は県の自然環境保全地域内に生えるものがあるが、これも乾燥化による絶滅が心配される。

### 存続を脅かす原因

遷移による湿原の乾燥、樹林化と埋め立て等による生育地の破壊、採取。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# ウチョウラン

*Ponerorchis graminifolia* Rchb.f.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめて僅かである。

### 概要

岩壁などの露岩上に生え、草丈10cm前後のやや小型の多年生草本である。植物体は地中に球状の塊根を持ち、葉は線形で長さ5cm程、幅5cm程で数枚がつく。花は夏に咲き、葉より少しばかり長い花茎の先に赤紫色の花を5-6個つける。国内では関東以西の本州、四国、九州に分布域が知られている。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。 (2025年10月30日閲覧)  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は県西部(吉賀町)に知られているが、きわめて限られた場所に生える。陽当たりのよい岩場の僅かな土壌が認められる小さな岩棚に生育する。かつて生育がみられた場所は現在では樹林化が進んで、露岩地が消失しており、生育状況は不明である。

### 存続を脅かす原因

岩場の自然な遷移による草原化、樹林化、園芸上での採取。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# カシノキラン

*Saccolabium japonicum* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

植物体は長さ5 cm、幅1 cmばかりの葉を左右2列に互生し、根は細い気根が互いに燃れ合い樹幹に着生する。時には枝先に着いて下垂する個体も見られる。花期は夏で、短い総状花序に10個ばかりの淡黄色の小花をつける。多くは照葉樹につく常緑の草本である。

国内では本州(千葉県以西)から南西諸島に分布し、国外では済州島に知られている。

#### ●参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
大井次三郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌 顕花植物編」.1716pp.至文堂,東京

### 県内での生育地域・生育環境

前回の記述として杵村により生育地は出雲部、石見部にまれに存在するとしており、三瓶には中部の標本が収蔵されている。

### 存続を脅かす原因

森林伐開、園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# マツラン

*Saccolabium matsuran* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

樹幹に着生する小型の植物である。植物体は全体としての長さは5 cmに満たないもので、葉は2列に互生し、長さ2 cm、幅3 mmばかりである。花は春に咲き、葉腋から出る花茎に数花の小花をつける。花被片は黄緑色の地に暗紫色の斑点がある。国内では本州(岩手県以南)・四国・九州の主として太平洋側に、国外では朝鮮半島南部に分布する。

#### ●参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
大井次三郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌 顕花植物編」.1716pp.至文堂,東京

### 県内での生育地域・生育環境

県内での生育地は多くはなく、出雲、隠岐諸島に知られているが、特に隠岐(島後)の山地ではモミの樹幹に多く着生するものが見られる。モミ以外ではウラジロガシの古木の樹幹に着生することが多い。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# ナゴラン

*Sedirea japonica* (Linden et Reichb. fil.) Garay et Sweet

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 隠岐ジオパーク推進機構

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

植物体は樹幹に太い着生根でつき、多くは長さ10cm、幅3cm前後の長楕円形の厚い葉を4~5枚、左右2列につける常緑、多年草である。花期は夏で、葉より長く花茎を出し、総状に5~6花をつける。側萼片と唇弁には紫色の横縞紋、斑紋がある。花には強い芳香があり好まれる。国内での分布は本州南西部の沿岸域(静岡県・伊豆諸島・紀伊半島・福井県・京都府・隠岐)・四国・九州・琉球に分布し、国外では済州島・中国南部に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)に生育する。多くはモミ、ウラジロガシの樹幹に着生してみられるが、隠岐諸島では気候が圧縮されている関係で冷温帯に生育するクロベヤヒメコマツにも着生するものが見られる。

### 存続を脅かす原因

森林伐開、園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

# クモラン

*Taeniophyllum glandulosum* Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もまれである。

### 概要

樹幹に着生して生育する明らかな葉を持たない奇妙な植物である。樹皮上に長さ3cm程の平らな根を放射状に這わせているだけの植物体であるので一般には気づかれることがないが、花期に認識されることが多い。花は初夏に咲くが、樹幹に直接奇妙な花がつく感じで、数花の淡緑色の小花がつく。照葉樹林内、スタジイやタブノキ、ウラジロガシの樹幹によく着生するようである。国内では本州の関東以西、四国、九州に分布する種のようなものである。

### 参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>、(2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、出雲市、雲南市)で確認されているが、それ以外はあまり知られていない。植物体が特異な形態のものであることによる点もあると思われる。山地の谷筋にあって、かなりな大木からなる照葉樹林内に見られることが多い。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

## カヤラン

*Thrixspermum japonicum* (Miq.) Rchb.f.

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

## 島根県固有評価

-

## 環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もまれである。

## 概要

植物体は樹幹に着生して生活する。葉は披針形で長さ3cm、幅5mm前後で左右2列に互生し、気根は葉のもとから出て、茎に沿うように下方に伸びて樹幹に着生する。常緑樹の樹幹に着生し、時に枝先に下垂して生育する個体もある。花は春に咲き、葉腋から花茎を出し、淡黄色の小花を数個つけて咲く。国内での分布は本州は東北地方以南、四国、九州にあるとされる。

## 参考文献

廣江伸作 (2024) 安来市の植物誌. 64pp. 島根.  
井上雅仁・三島秀夫・大畑純二 (2011) 世界遺産石見銀山遺跡周辺で確認された動植物目録. 島根県立三瓶自然館研究報告 9: 49-75.  
国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、出雲市)、県中部(大田市、川本町)で確認されている。生育環境は、谷沿いなど湿り気のある森林内で、上部の樹幹や枝に着生している。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開と園芸上での採取。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ラン科

## ショウキラン

*Yuania japonica* Maxim.

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

## 島根県固有評価

-

## 環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

## 概要

山地、深山の地表に生える腐生植物で、無葉で、植物体は白色～薄紅色で草丈は20cm程度。初夏に径3-4cmの淡紅紫色の花を数個咲かせる。花に長い柄があるのが特徴的である。国内では北海道西南部・本州・四国・九州・屋久島に分布し、国外では台湾・中国南部・アッサムに分布する。

## 参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」, 391pp. 株式会社平凡社. 東京.  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49. 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部の山地脊梁部の溪谷部に生育している。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

アヤメ科

# カキツバタ

*Iris laevigata* Fisch.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である湿地は、開発や乾燥化、遷移の進行などにより各地で減少している。

### 概要

池沼の縁や湿地などに生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと40-70cmになる。葉は長さ30-70cm、幅20-30mmで、葉の中脈は目立たない。花期は5-6月で、花茎の先に2-3個の花をつける。花は青紫色、直径は約12cmで、外花被片の基部に白色~淡黄色の斑紋がある。北海道~九州、韓国、中国、シベリア東部に分布する。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市)、県中部(大田市、邑南町)で確認されている。生育環境は、県東部では山間の湿地や湿り気のある平坦地、県中部では山麓の池沼の水辺や山間の湿地などである。県内の他地域のため池の縁辺部、休耕田などでも見られるが、園芸用に植えられたものや、それらが野生化したものと考えられる。

### 存続を脅かす原因

園芸上の採取、池沼や水辺などの埋め立てや開発、乾燥化、遷移の進行による灌木化。

### 特記事項

県中部の群生地は、県の天然記念物に指定されている。

(執筆者: 井上 雅仁)

#### 参考文献

井上雅仁(2013) 三瓶山姫逃池におけるカキツバタ群落の保全活動と植生動態. 島根県立三瓶自然館研究報告 11: 15-20.  
大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社, 東京.  
秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

アヤメ科

# アヤメ

*Iris sanguinea* Hornem.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である草原は、管理放棄により遷移が進行し、各地で減少している。

### 概要

日当たりの良い、山地のやや乾いた草原に生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと30-60cmになる。葉は長さ30-50cm、幅5-10mmで、葉の中脈はあまり目立たない。花期は5-7月で、花茎の先に2-3個の花をつける。花は紫色で、大きさは直径約8cmである。外花被片の基部に黄色の斑紋と網目状の細脈がある。北海道~九州、韓国、中国(東北)、シベリア東部に分布する。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、明るく開けた草原である。他地域の畦畔などでも個体が見られるが、栽培個体が逸出したものと考えられる。

### 存続を脅かす原因

管理放棄による草原の灌木化、樹林化、園芸上の採取。

### 特記事項

県中部の個体は高原内にあり自生個体と考えられるが、既存文献では野生状との記載があり、引き続き情報収集が望まれる。

(執筆者: 井上 雅仁)

#### 参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社, 東京.  
島根県(1971) 大山隠岐国立公園 三瓶山の自然. 72pp. 島根県, 島根.  
秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

アヤメ科

## ヒオウギアヤメ

*Iris setosa* Pall. ex Link

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

## 島根県固有評価

分布限界種(南限)

## 環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。本来はより北方の寒冷地に分布する植物であるため、分布的にまれな種でもある。

## 概要

寒地や高地の湿性の草原に生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと30-90cmになる。葉は長さ30-70cm、幅1.5-3cmとやや幅広く、葉の中脈は目立たない。花期は7-8月で、花茎の先に2-3個の花をつける。花は紫色、大きさは直径約8cmで、外花被片の基部に黄色の斑紋と網目状の細脈がある。内花被片は著しく小型で目立たない。

本州中部以北、北海道、中国、韓国、ロシア、アラスカ、カナダ東部に分布する。

## 参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015)改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社. 東京.  
丹後亜興(2015) 本当だった隠岐のヒオウギアヤメ. 隠岐の文化財 32: 53-59.  
丹後亜興(2022) 隠岐の西限植物. 隠岐の文化財 39: 6-14.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)にのみ知られている。生育環境は、海岸付近の平坦で開けた岩場や礫浜で、上方からの水で涵養される湿った環境となっている。

## 存続を脅かす原因

水辺の開発や埋め立て、波浪による海岸の洗掘、園芸上の採取。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ススキノキ科

## ユウスゲ (キスゲ)

*Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

## 島根県固有評価

—

## 環境省カテゴリー

—



## 選定理由

本州、四国、九州に分布して、この地方でも以前は山地のそこかしこ生えて、花をつけ目立つ植物であったが、近年、いわゆる里山の植物として急激に全域で激減し、絶滅状態といえる状態となっている。

## 概要

山地草原、林縁草地に生える多年草。葉は線形で、長さ50cm、幅1cm前後で根生する。夏に高さ1m前後の花茎を立て、径10cm前後の黄花を次々に咲かせ、目立つ。

## 参考文献

林 正久・井上雅仁・三島秀夫(2013) 第4章 自然環境の特性. 奥出雲町文化的景観調査報告書-奥出雲たたらと棚田の文化的景観-(奥出雲町教育委員会編). 31-50. 奥出雲町.  
廣江伸作(2024) 安来市の植物誌. 64pp. 島根.  
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)、県中部(大田市、邑南町)で確認されている。県東部(安来市)では生育が見られなくなった場所もある。生育環境は、山地稜線の風衝草原、丘陵地や山麓のススキ草原、湿性草原など、いずれも明るい草原である。

## 存続を脅かす原因

林地への人為干渉の減少、遷移による樹林化。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ススキノキ科

# ゼンテイカ (ニッコウキスゲ)

*Hemerocallis dumortieri* C.Morren var. *esculenta* (Koidz.) Kitam. ex M.Matsuoka et M. Hotta

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

—
---



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

植物体は地下の根茎から長さ50cm前後、幅1-2cmの葉を数枚根生して生える多年草。花は夏の頃に咲き、根茎から高さ50cm前後の花茎を立て、茎頂に5-10個の花をつける。花被片は橙黄色で長さ7-8cmである。本来、本州中部以北、北海道から千島、樺太の範囲に生えるやや北方の植物である。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 丹後亜興 (2022) 隠岐の西限植物, 隠岐の文化財 39: 6-14.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は隠岐諸島(隠岐の島町)にのみ知られているもので、同島でも、ごく限られた場所に生える。生育地はほとんどが山中の露岩状地で崖地や岩棚の土壌が堆積している場所で、多少なりとも上部から浸出水があって、保水状態のよい場所である。

### 存続を脅かす原因

生育地の自然な遷移による樹林化、園芸上での採取。  
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ガマ科

# オオミクリ

*Sparganium macrocarpum* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
-------------



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られている。

### 概要

水湿地に生える夏緑多年草。植物体は草丈1m前後のやや大型の抽水植物で、葉は線形で、長さ50cm、幅1cm前後のものが直立してつく。花は夏に咲き、葉間に伸びる太い茎に互生する葉の葉腋に枝を出し、下部には球状で雌性の頭状花序を数個つけ、上部には雄性的花序を数個つけて咲く。果実はミクリに対して大きく、上部が平たい倒円錐形状であり、長さ7-8mm、幅6-7mmとなり、20-30ばかりが球状に集合する。また、ミクリが地下の木化した球茎から伸びた地下茎の先から茎をのばすのに対し、オオミクリは球茎から地下茎が伸びる他、球茎の腋芽が伸び、これが翌年球茎になるので球茎が隣接するようになるのが異なるとされる。国内では本州に分布し、朝鮮半島、中国東北部に分布する。

### 参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 角野康郎 (1996) 「日本水草図鑑」 179pp. 株式会社文一総合出版, 東京  
 角野康郎 (2022) ミクリとオオミクリのフェノロジーと繁殖生態: 比較栽培による観察, 水草研究会誌(113):23-30 水草研究会  
 角野康郎 (2023) 日本の水草の分類-研究はどこまで進んだか, 植物地理・分類研究 71(2): 93-116

### 県内での生育地域・生育環境

前回の報告で東部と中部から報告されており、東部ではため池からと判断できるが、詳細は不明である。中部では小河川の浅い水域に群生していたが、現在確認できなくなっている。この中部のオオミクリとされるものは角野(2022)では、「結実率の低いオオミクリ」とされるものであった。

### 存続を脅かす原因

ため池や河川の管理放棄による遷移、改修工事などによる生育地の破壊。

### 特記事項

オオミクリはミクリのシノニムになっているなど、分類上確定されないうところもあり、大橋広好他(2015)では記載されていない。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ホシクサ科

## ツクシクロイヌノヒゲ

*Eriocaulon kiusianum* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

## 概要

水湿地に生える1年草で、植物体は長さ約15cmの線形の葉を根際から根生状に多数つけるものである。花期は夏から秋にかけてで、高さ20cm程の花茎を多数伸ばして、それぞれに頭花を1個ずつつける。頭花は倒円錐形で直径5mm程のものである。総苞片は長楕円形で頭花より短い。頭花は雌花、雄花が混生し、雌花、雄花ともに萼は仏炎苞状に合着して黒藍色であり、花床は無毛である。九州と中国地方の一部に分布する植物である。

## 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(益田市)に生育地が知られているが、個体数は多くはない。ため池の縁や開けた湿地に生える。

## 存続を脅かす原因

ため池の管理放棄、湿地の乾燥化、遷移の進行による湿地の灌木化、樹林化。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

カヤツリグサ科

## スジヌマハリイ

*Eleocharis equisetiformis* (Meinsh.) B.Fedtsch.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



## 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地も遷移の進行や人為の干渉により、消滅した地もあり、この種の存続が心配される。

## 概要

水湿地に生育する夏緑性の多年草であり、草丈は約50cmである。植物体は幅2mmの柱状の茎を伸ばすだけのもので、葉は葉鞘だけに退化したものとされ、茎の基部に鱗片状に付着するものになっている。茎には縦に数条があるのが特徴である。花は夏前に咲くが、茎頂に1個の小穂をつけ、長さ1.5-2cm程で、花の刺針状花被片は無いが、または4個であるとされる。国内では本州の一部と九州に分布して、朝鮮半島、中国から中央アジアに分布域があるとされる。

## 参考文献

井上雅仁・杵村喜則 (2014) 隠岐諸島油井の池の湿地植生の現状と過去30年間の変遷. 島根県立三瓶自然館研究報告 12: 9-16.  
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)にのみ知られている。池沼、休耕田などの水湿地に生育している。

## 存続を脅かす原因

池沼、休耕田における遷移による乾陸化による生育適地の消滅、埋め立て。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

カヤツリグサ科

# チャボイ

*Eleocharis parvula* (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

No Image

### 選定理由

県下で1カ所生育が報告されており、また全国的にも希少な植物である。

### 概要

海水の流入する塩田等の湿地に生育し、茎は3-7cm、小穂は卵形または長楕円形でやや扁平、長さ2-3mm、淡緑色。果実は倒卵形で長さ1mmで平滑。似たマツパイは休耕田や湿地に生育し、基部の鞘が赤みを帯び、瘦果の表面に格子状紋があり、柱基が扁三角錘形に膨らむが、チャボイは生育地が異なり、基部の鞘は黄白色で、瘦果の表面は平滑で、柱基は膨らまない。国内では本州から九州に分布し、ヨーロッパ・シベリア・北アフリカ・北アメリカ・南アメリカに分布する。

#### 参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部の海岸部に形成されたため池状の水湿地での生育が報告されているが、周囲のやぶ化が進み近づけない状態になっている。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

カヤツリグサ科

# サグスゲ

*Eriophorum gracile* Koch

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

分布限界種 (西限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地の環境変化により、植物体の消滅が心配されるものである。

### 概要

湿地に生える多年草で、植物体は地下に細く長い根茎があり、2-3枚の針状葉を付け、草丈は20-30cm、まばらに生えて群生する。春早く、株から1本の花茎を立て、先端に2-5個程の小穂をつけて花が咲く。多数の花被片があって、これが果時には長さ2cm程の白い綿毛となり、綿の様に見える。国内では北海道・本州に分布し、ユーラシア・朝鮮半島・北アメリカに広く分布する。

#### 参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部の中国山地沿いの湿地に生育地が知られていた。湿地は水田跡であるが、近年はアシ等が広がり、確認できない状況である。

### 存続を脅かす原因

アシ等の大きな湿原植物がひろがり、確認できない状況が続いている。地上部の伐採を行うなど保全が必要である。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

カヤツリグサ科

## ネビキグサ (アンペライ)

*Machaerina rubiginosa* (Spreng.) T. Koyama

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地はいずれもきわめて小規模なものである。

## 概要

水湿地に生えるやや大形の多年草。茎は直立して硬く、長さ50-90cmになる。葉は円柱形で径3mm、長さは50cmで茎より短い。花は夏前に咲き、茎の先端に少しばかりの枝を分けて、5-8個の卵状楕円形で暗褐色の小穂がつく。本州(東海地方以西)~琉球・インド・スリランカ・インドネシア・オーストラリアに分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部2ヶ所と西部1ヶ所の低地から生育が報告されている。いずれの生育地もため池の池畔であって、浅い水中から岸辺の砂泥堆積地に生え、群生していたが、西部と東部の各1ヶ所は確認できなくなっており、現在東部の1ヶ所だけに生育している状況である。

## 存続を脅かす原因

ため池の埋め立て、改修工事による生育地の消滅、管理放棄による生育地の遷移による樹林化。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

カヤツリグサ科

## ノグサ

*Schoenus apogon* Roem.et Schult.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育地はきわめてまれである。

## 概要

茎は高さ10-40cmで針状の葉を1-2枚つける。一年草であり、葉は根生し、線状で花0.5-1mmで鞘は一部赤色を帯びる。花序は散状または頭状で2-5個の分花序からなり長さ0.8-1.5cm、10個以下の小穂をつける。国内では本州から琉球に分布し、台湾・マレーシア・オーストラリア・ニュージーランドに分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

西部での生育が知られている。生育地は海岸に近い、岩の間から水が染みだす、ごく狭い範囲に群生している。

## 存続を脅かす原因

遷移による生育地の消滅。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イネ科

# イワタケソウ

*Hystrix duthiei* (Stapf) Bor subsp. *japonica* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。全国的にみても分布がまれな植物である。

### 概要

深山の林内に生える多年草である。稈は高さが60-80cmになる。葉は長さ7-20cm、幅8-15mmで、基部でねじれて上面と下面が反転する。花期は6-8月で、稈の先に長さ10-15cmの穂状花序をつける。小穂は長さが約10mmで、1小花からなり、先端には長さ15-25mmの芒がある。日本固有種で、本州（長野県、三重県、山口県）、四国、九州に分布するが、国内での分布はまれである。

### 参考文献

長田武正 (1993) 増補日本イネ科植物図譜. 777pp. 平凡社. 東京.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部（益田市）で確認されている。生育環境は、西中国山地の渓谷沿いで、夏緑広葉樹林の林床である。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者：井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ケシ科

# エゾキケマン

*Corydalis speciosa* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

分布限界種 (南限)

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

日当たりのよい山中の草地や林縁などに生える越年草である。草丈は花茎を伸ばすと20-40cmになる。葉は羽状複葉で、長さ10-15cm、幅4-6cmで、小葉は羽状に細かく裂ける。花期は5-6月で、花茎の先に多数の黄色い花をつける。蒴果はやや湾曲した線形で、著しく数珠状にくびれる。種子の表面の細胞はレンズ状に盛り上がるが突起はない。北海道、本州北部、隠岐、シベリア東部、中国、サハリン、朝鮮半島に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 2イネ科~イラクサ科. 640pp. 平凡社. 東京.  
丹後亜興 (2012) 隠岐にあるのはエゾキケマンだった. 隠岐の文化財 29: 21-27

### 県内での生育地域・生育環境

県内の分布は、隠岐諸島（隠岐の島町、西ノ島町）で確認されている。生育環境は、山地林内の明るい箇所や、林道沿いの林縁部などである。

### 存続を脅かす原因

森林伐採など。

### 特記事項

隠岐諸島および朝鮮半島南部の個体は、外側の花弁の脛部が楕円形で他地域の個体（ほぼ円形）と異なる。この花弁の特徴をもつものをトサカキケマンとする説もあり、今後の検討が望まれる。

(執筆者：井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

メギ科

# サンカヨウ

*Diphylleia grayi* Fr.Schm.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):—

島根県固有評価

分布限界種(南限)

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

生育地が極限されていて、将来でのこの種の県内での存在が危惧される。

### 概要

冷温帯の林内に生える多年草。植物体は草丈30cm前後で、茎の上部に大小2枚の葉をつけ、茎の先に直径2cm程の白花を数個つけて咲く。実は直径1cm程で藍色に熟し、時に美しく見える。北海道から中国山地にかけて分布する。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町、飯南町)の中国山地脊梁部、主としてブナ林内に群生する。

### 存続を脅かす原因

森林伐開と園芸上での採取。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キンポウゲ科

# ミチノクフクジュソウ

*Adonis multiflora* Nishikawa et Koji Ito

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

### 概要

夏緑林内に生える草丈約30cmになる多年草。早春、芽を出すと同時に花が咲く。花は直径4cm程で、多数の黄色の花弁をもつ。花後に茎が伸びると同時に葉も大きく開き、3-4回羽状葉を互生する。夏には地上部はすべて枯れる。古くから栽培されている植物で、自生品があれば必ず採取されるであろう。

国内では本州の東北地方以南から九州にかけて分布する。

#### 参考文献

兼子伸吾・井上雅仁・三島秀夫・高橋佳孝 (2008) 島根県におけるミチノクフクジュソウ(キンポウゲ科)の生育地, 島根県立三瓶自然館研究報告 6: 19-20.  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(津和野町)で確認されている。夏緑二次林内のやや明るい林床や林縁に生える。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開と園芸上での採取が考えられる。

### 特記事項

県西部の生育地は津和野町の天然記念物として保護されている。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キンポウゲ科

# ニンソウ

*Anemone flaccida* F.Schmidt var. *flaccida*

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山地林内、林縁に生える夏緑性の多年草。地中に這う根茎に2-3枚の根生葉をつける。葉は10cm前後の葉柄があって、先に3小葉の葉身をつける。葉身は大小の欠刻状に裂ける。花は春に咲く。花は高さ20cm前後の花茎の先に3枚の茎葉をつけ、2-3花をつける。花は直径約2cmであるが、萼片5-6枚が楕円形、白色で花弁状であって目立つ。北海道から四国、九州に分布し、さらに朝鮮半島、中国東北部に続く分布域があるとされる。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、出雲市、飯南町)、県中部(大田市)、県西部(益田市、吉賀町)にかけての山地夏緑二次林内、林縁に生育地が点在するが、限られている。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化、園芸上での採取も考えられる。  
 (執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キンポウゲ科

# キクザキイチゲ

*Anemone pseudoaltaica* H.Hara var. *pseudoaltaica*

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

夏緑広葉樹林の林床、明るい林縁や草地などに生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと10-30cmになる。横に長くはった根茎から、根出葉を1個出す。根出葉は2回3出複葉で、小葉は3深裂する。花期は3-5月で、花茎の先に直径2.5-4cmの花を1個つける。淡紫色から白色の花弁状の部分は萼片であり、花弁はない。春先に花を咲かせて、上層木の葉が広がるころには地上部が無くなり、翌春までは地下部のみで過ごすスプリング・エフェメラルである。北海道、本州(兵庫県以北)、朝鮮半島に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 2イネ科~イラクサ科. 640pp. 平凡社, 東京.  
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)で確認されている。生育環境は、山地の夏緑広葉樹林の林床、山間の集落付近の畦畔など、春先に明るい場所である。

### 存続を脅かす原因

園芸上の採取、夏緑広葉樹林の手入れ不足による林床の常緑樹林化、畦畔や山地林縁の管理放棄による灌木化、樹林化。  
 (執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キンポウゲ科

# カザグルマ

*Clematis patens* C.Morren et Decne.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数もきわめて少ない。

### 概要

暖温帯林の緑や草地に生える木本性のつる植物。ときに湿地や超塩基性岩地にも生える。茎は紫褐色、有毛または無毛。葉は夏緑性、1回3出複葉または羽状複葉、小葉は卵形～狭卵形、長さ3-9cm、幅1.5-5cm、全縁または不規則に切れ込むか2-3浅裂～中裂し、葉柄は長さ2-10cm。花期は5-7月。花は当年枝に頂生して単生し、径4-7cm、両性、上向きに咲き、花柄は長さ4-20cm、有毛あるいは無毛、小苞を欠く。萼片は8(-9)個、楕円形、長さ4-7cm、幅1.5-3cm、先端は尾状にとがり、淡紅紫色～青紫色。背面に伏毛があり、平開する。雄は長さ10-20mm、花糸は無毛、広がり、新隔は短く突出する。瘦果は広形、長さ5mm、密毛があり、残存花柱は長さ3-4cm。本州・四国・九州(北部)、朝鮮半島・中国東北部に分布する。

#### 参考文献

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(1997) 広島県植物誌、832pp.中国新聞社.広島  
丸山 巖(1982) カザグルマ、島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局(編)、島根県大百科事典上巻.山陰中央新報社.370  
丸山 巖(1985) しまねの草花.115pp.山陰中央新報社. 島根  
大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(2016) 改訂新版 日本の野生植物2. 640pp.平凡社.東京.

### 県内での生育地域・生育環境

県西部の河川に生育する。また、東部や中部でも確認しており、過去には東部で生育の記録もある。逸出の場合も考えられるが、県内で複数の記録と自生しているとの記述もあり、隣接県でも自生として記録されている。

### 存続を脅かす原因

園芸採集、環境変化。

### 特記事項

県東部・中部の生育情報に関しては、付近には民家があり逸出の可能性もあるため調査が必要である。

(執筆者: 澤田 達也)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キンポウゲ科

# ミスミソウ

*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地は限られている。

### 概要

山地の林内、林縁に生える常緑性の多年草。植物体は地下茎をもち、葉を数枚根生し、草丈は約10cmである。葉は長さ5cm前後の葉柄があって、葉身は三角形で基部が心形、3中裂し、裂片の先は鋭頭である。花は春に咲き、長さ10cm前後の花茎を出して、先に直径1cm程の白色の花をつける。本州の中部地方以西から九州北部に分布する。

#### 参考文献

国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、出雲市、奥出雲町、雲南市、飯南町) 県中部(大田市)、県西部(津和野町) に点在するが、限られている。隠岐諸島での生育地は不明である。主として夏緑二次林内に生えている。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化、園芸上での採取。

(執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キンポウゲ科

# ヒメバイカモ

*Ranunculus kadzusensis* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影者(提供者): 自然環境課



### 選定理由

県西部高津川の上中流域に生育場所が限定されており、その生育場所でも河川改修や用水路の改修、温暖化影響と考えられる河川増水、ツルヨシによる被陰が進行している。

### 概要

湖沼、ため池、河川などに生育し、国内では本州及び九州にまれに分布。韓国の一部地域では水田で多産することが報告されているが、国内の水田からはほぼ絶滅状態のようである。北海道から本州に広く分布するバイカモに比べて葉や花が小形で、葉柄の長さ4-12mm、葉身の長さ1.5-3cm、花の直径約1cm以下。花柄はあまり伸びず、長さ1-3cmの範囲にあることと、果実に毛が無い点でバイカモと区別することができる。種子による繁殖のほか、節から不定根を出し、切れ目による栄養繁殖も行う。

#### 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.  
目黒聡・滝口雅彦 (2002) 宮城県のヒメバイカモの分布と生活史. 宮城の植物, 27: 9-15.  
下田路子 (2010) 江華島(韓国)のヒメバイカモ. 水草研究会誌, 94: 21-27.

### 県内での生育地域・生育環境

県西部の高津川水系の上中流域にのみ生育。

### 存続を脅かす原因

河川改修、用水路の整備、温暖化影響と考えられる河川増水、ツルヨシによる被陰。

### 特記事項

2012年3月に「島根県希少野生動物植物の保護に関する条例」に基づく指定希少野生動物植物に指定され、保護管理計画が定められている。地域の有志やNPOにより本川源流部や用水路への移植も行われ、県による巡視活動も行われていることから、以前に比べて絶滅の恐れは減少していると考えられる。

(執筆者: 國井 秀伸)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キンポウゲ科

# バイカモ

*Ranunculus nipponicus* Nakai var. *submersus* H.Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 自然環境課



### 選定理由

生育場所が限定されており、河川改修や水質汚濁が進行している。一河川では長年にわたって多数のパッチが確認されているものの、農業用水路などでは衰退が目立ってきていることから、2013年版改訂しまねレッドデータブックでランクがそれまでの絶滅危惧Ⅰ類から絶滅危惧Ⅱ類に変更された。

### 概要

冷涼な清流中や湧水池に群生する日本固有の多年生沈水植物。北海道及び本州各地に広く分布するが、水温が通年20℃を越えない冷涼な環境を好むため、本州南西部ではその生育場所は河川の上流や湧水のある場所に限られる。糸状に細裂する葉は互生し、葉身の全長は3-7cm、葉柄の長さは0.5-2cmで房状になる。白色5弁の花は水面または水上に出るが、流れの速い場所では水中で開花し結実する。種子による繁殖のほか、節から不定根を出し、切れもでの栄養繁殖も行う。隣県の鳥取県では絶滅危惧Ⅱ類、広島県では準絶滅危惧種に指定されている。

#### 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.  
木村保夫・國井秀伸 (1998) バイカモ (*Ranunculus nipponicus* var. *submersus*) とヒルゼンバイカモ (*R. nipponicus* var. *okayamensis*) のシュートの形態と成長特性の比較. 日本生態学会誌, 48: 257-264.  
國井秀伸・井上 功 (1997) バイカモの成長と光合成. 水草研究会会報, 61: 1-11

### 県内での生育地域・生育環境

三瓶山とその周辺の限られた河川や水路中に生育。

### 存続を脅かす原因

河川改修。

(執筆者: 國井 秀伸)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ポタン科

# ベニバナヤマシャクヤク

*Paeonia obovata* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

No Image

### 選定理由

生育地は極限され、生育地での個数もきわめて僅かである。

### 概要

夏緑樹林内に生える多年草で草丈は30-50cm程。葉は2回3出複葉で2-3枚着き、径5-6cmの薄桃色の花を1個咲かせる。朝鮮半島から中国東北部に分布が続く大陸系の植物で、国内では北海道から九州まで分布する。似たヤマシャクヤクが、花弁が白色で、6枚、雌蕊が2-3、柱頭がゆるやかに反曲、葉の頂小葉は狭倒卵形、先端は漸尖形であるのに対し、ベニバナヤマシャクヤクは、雌蕊が3-5、柱頭は強く反曲する。葉の頂小葉は倒卵形、先端が鋭形または鈍形である。

### 参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」, 381pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

県内では東部から西部の中国山地沿いの夏緑林内に分布するが、生育地はまれである。

### 存続を脅かす原因

森林伐採と園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ユキノシタ科

# ツルネコノメソウ

*Chrysosplenium flagelliferum* F.Schmidt

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): —



### 選定理由

生育地はきわめてまれで、個体数も僅かである。

### 概要

夏緑樹林内の沢沿い湿り気の強い岩上などに生える草本。走出枝があって直径1cm程の葉を互生して、高さ5cm程の花茎を立て頂部に黄緑色の花を集散花序に2-3個ずつつける。花後、走出枝が伸びて、先端に根生葉をもつ新株をつくる。国内では四国に分布して、本州では近畿以北、北海道にあり、少しばかり北方系の種のようなものである。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町、飯南町)にきわめて僅かな産地があり、個体数も限られている。冷温帯夏緑樹林内の谷川沿いの水湿な岩上に生育する。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開、園芸上での採取。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ユキノシタ科

# ヤシャビシャク

*Ribes ambiguum* Maxim.

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

樹幹に着生する夏緑性の小木で、枝を分けて株状になり、高さは大きいもので50cmほどになる。葉はほぼ円形で、基部は深く切れ込み、全面に毛がある。花は春に咲くが、緑白色で目立たず、果実も緑色で目立たないが、全体に刺状の毛が生えているのが特徴的である。本州から四国、九州に分布し、中国大陸にかけて分布が続くものとされる。

### 参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3: 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部の中国山地で生育が確認されている。多くはブナの高木に着生している。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開による着生木の伐採、園芸上での採取。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ユキノシタ科

# ザリコミ

*Ribes maximowiczianum* Komarov

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



### 選定理由

生育地がきわめて限られており、個体数も僅かである。

### 概要

夏緑性の低木で、枝を多く分けて2m程の高さで叢生する。葉は多くは大きく掌状に3(5)裂する。雌雄異株の植物とされ、雄花序には黄緑色の小花を10個ばかり、雌花序には2~3個つける。果実は径2mm程で赤く熟す。国内では本州(東北地方南部から中国地方)、四国(高知県)に生育し、国外では朝鮮半島と中国(東北部)に生育する。

### 参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」.358pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部の中国山地脊梁部に生育しており、生育地はブナ林縁の露岩地である。

### 存続を脅かす原因

森林伐開。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ベンケイソウ科

## アオベンケイ

*Hylotelephium viride* (Makino) H.Ohba

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育地はきわめてまれな状態となっている。本来、生育地での個体数は多くはないものである。

## 概要

樹幹、岩上に生える草丈20cm前後の夏緑性の多年草。葉は卵形で長さ5-6cm、幅3-4cmで対生する。花は秋に咲き、茎の先端の散房花序に汚黄白色の小花を多数つける。国内の本州中部地方以西、四国、九州に分布範囲があるとされる。

## 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)、県中部(大田市)、県西部(津和野町)の中国山地脊梁部に生育地が僅かに点在する。多くはブナの古木の樹幹に生え、イワガラミ、ツルアジサイ、ツタウルシなど着生した中に見られる。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開と着生樹の伐倒。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ブドウ科

## ウドカズラ

*Ampelopsis lecooides* (Maxim.) Planch.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて限られている。分布の北限となる。

## 概要

蔓性の夏緑性木本で、周囲の樹種に巻ひげで絡まり伸び上がる。葉は大きく、長さは30cm程にもなり、2~3対の羽状複葉であるが、最下の羽片だけは、2回羽状となる特徴がある。小葉は1cmばかりの柄があって、楕円形で長さ10cm、幅5cmばかりになる。花は初夏の頃に咲き、花序は集散形で黄緑色の小花を多数つける。果実は球形。赤く熟れ、さらに黒く熟れる。国内では本州(紀伊半島・中国地方西南部)・四国・九州に分布し、基準変種が台湾・中国(中南部)・東南アジアに分布する。

## 参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」, 381pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 柳浦正夫 (2020) 植物の分布・観察報告(60)ウドカズラを千丈溪で確認, 島根植物研究会会報39: 4 島根植物研究会

## 県内での生育地域・生育環境

中部の山域にきわめてまれな生育地がある。照葉樹林域の山中、谷間に生えている。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

マメ科

# ハマナタマメ

*Canavalia lineata* (Thunb.) DC.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内では波浪等による生育地の消滅があって、現状として確実な生育地は明らかでない。

### 概要

海岸の砂礫に生える蔓性多年草。葉は羽状3小葉。小葉は四形から広側卵形で、直径は約10cmである。花は淡桃色、豆実は長さ約10cmで2-5個の種子がある。国内では本州、関東以西、四国、九州から南西諸島、中国に分布するとされる。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、出雲市)、県西部(浜田市、益田市)などで確認されているが、近年はいずれの場所でも生育がみられない。生育環境は海岸の砂礫からなる浜であるが、大きな波浪を受けると消失し、安定して生存することがまれである。

### 存続を脅かす原因

波浪による生育地破壊。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

マメ科

# タヌキマメ

*Crotalaria sessiliflora* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

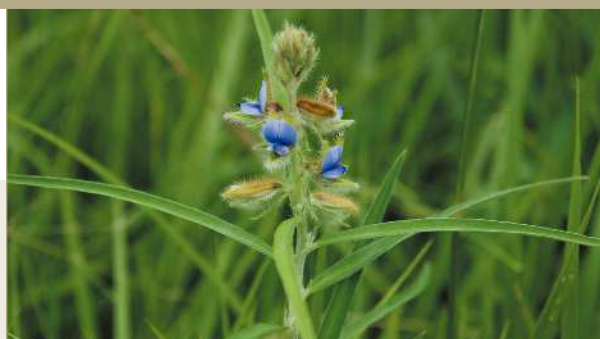
島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

草丈の低い草地に生える高さ20-30cmの1年生草本。植物体は全体に褐色の毛が多い。葉は線形~狭長卵形で長さ5cm。花は7-9月に咲き、莖頂に青紫色の花を2-20個つける。果実は豆果で長さ1cmばかり、長楕円形で萼片に包まれた特異な形態で特徴的である。本州の東北地方南部から四国、九州、南西諸島に分布域がある。

### 参考文献

井上雅仁(編)(2009) 松村喜則氏収集植物標本目録 (I) . 173pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田.

### 県内での生育地域・生育環境

東部の山間の草原や、時に耕作地周辺の草刈場などにまれに生育地が存在する。(飯石郡飯南町赤来町赤名)

### 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化。耕作地周辺での生育地については、休耕、草刈りの中止などによる遷移により、個体群が消滅した場がある。

(執筆: 三浦 憲人・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

マメ科

# ミソナオシ

*Desmodium caudatum* (Thunb.) DC.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

夏緑性の低木で、高さは1mばかりになり、枝を多く分けて叢生状になる。葉は3小葉で、小葉は長さ5-10cm、幅2-3cmで濃緑色、常緑種に見える。花は夏から秋にかけて咲き、緑白色で長さは1cmに満たない目立たない花である。果実は節果できわめて扁平、長さ10cmばかりで7-8個の小節果よりなり、全面にかぎ状の短毛があって人の衣服などによく着く。国内では本州（関東以西）・四国・九州・南西諸島に分布し、国外では、朝鮮半島・台湾・中国をはじめスリランカまでの東南アジアに広く分布する。

### 参考文献

大橋広好他（2016）「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社.東京  
 杵村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3)：1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から中部までの沿岸域から採集されているが、消滅しているところが多く、現在生育しているところは知られていない。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開、遷移。

（執筆者：柳浦 正夫・杵村 喜則）

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

マメ科

# オオバナスビトハギ

*Desmodium laxum* DC.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):澤田達也



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

常緑の多年草で草丈50cmばかり、葉は茎の下部に着き、3小葉で、小葉は卵形で、長さ5-10cm、幅3-5cmばかり、やや硬い感じがある。花は夏から秋に咲き、茎頂に長く花序を伸ばし、先端部に薄紫色の小花をまばらに10個ばかりつける。果実は節果で、3-4個の小節果からなる。小節果は長さ1cm程で、長三角形で特異な形で目立つ。国内では本州（千葉県以西）・四国・九州の暖地林内に分布し、国外では、中国・インドシナ・ヒマラヤ東部・インド・スリランカに分布する。

### 参考文献

大橋広好他（2016）「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社.東京  
 杵村喜則（2004）島根権植物分布資料(15)オオバナスビトハギDesmodium Laxum 島根植物研究会会報5：10 島根植物研究会  
 杵村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3)：1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

中部の照葉樹林下への生育が知られていたが、2002年には確認できない状況となっている。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開による環境変化。

（執筆者：柳浦 正夫・杵村 喜則）

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

マメ科

# サイカチ

*Gleditsia japonica* Miq.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数もきわめて僅かである。

### 概要

高さ10数mになる夏緑性の樹種で、幹、枝には枝が変形した太い刺がある。葉は2形あって、長枝には2回羽状の複葉、短枝には単羽状の複葉がつく。短枝の単羽状複葉は、小葉がほぼ楕円形で長さ4-5cm、幅1-2cm、10対前後がつく。花は春に咲き、花弁は4枚、黄緑色の小花で枝先の総状の花序に多くつく。果実は豆果で長さ20-30cm、曲りかねた特異な形が特徴的である。本州、四国、九州に分布する。

#### ●参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(美郷町、江津市)で確認されている。県東部(飯南町)でも記録があったが、近年は消滅したようである。川沿いの地に生えるものが多い。

### 存続を脅かす原因

樹林伐倒。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒメハギ科

# ヒナノカンザシ

*Salomonina oblongifolia* DC.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

### 島根県固有評価

分布限界種(北限)

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

生育地がきわめて限られていることに加えて、生育地の植生遷移により絶滅が危惧される。

### 概要

湿地に生える草丈10cm前後の小形の1年生草本。葉は長さ1cm前後で長楕円形、互生する。夏から秋に茎頂の穂状花序に長さ2mm程の薄紫色の小花を多数つける。本州の太平洋側、四国、九州以南に分布域がある。

#### ●参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部にのみ生育地が知られている。池畔の草地にイヌノハナヒゲ類などと混生して生育している。

### 存続を脅かす原因

草地の遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

グミ科

# ナツアサドリ

*Elaeagnus yoshinoi* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):青木充之

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

夏緑性の低木で、葉は互生し、倒卵状楕円形で長さ5-6cm、幅2-3cm。表面には星状毛が多く、裏面も黄褐色の星状毛に赤褐色の星状毛が散生する。花は春に咲き、葉腋に数花が束生し、萼筒は長さ約1cm、萼裂片も長さ5mmほどになる。果実は長さ約1cmで、上半部は扁円錐で赤く熟れる。国内では、本州(兵庫県以西)・四国に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

生育はまれで、中部から報告されている。明るい夏緑二次林内にまれに生育する。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開と生育地の遷移による環境変化。

(執筆者:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

クロウメモドキ科

# ホナガクマヤナギ

*Berchemia longiracemosa* Okuyama

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(南限)

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もまれである。

### 概要

夏緑性の低木であって高さは約3mになる樹種である。葉はほぼ楕円形であって長さ5-6cm、幅2-3cmで互生する。花期は夏で、枝先きに長さ約10cmの総状花序を出し、花は緑色の目立たない小花を多くつける。果実は秋に熟れて、長楕円形、長さ1cm弱で、赤く熟れて目立つが、最後は黒く熟れる。日本海側の山地にのみ生えるものとされる。島根の生育地は分布の南(西南)限にある。

#### 参考文献

廣江伸作(2018) 希少種の新産地報告、島根植物研究会会報 35: 18-19.  
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>、(2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 丹後亜典(2016) 隠岐諸島新産の植物(9) ホナガクマヤナギ、隠岐の文化財 33: 70-71.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(安来市、松江市、雲南市、奥出雲町、飯南町)で確認されている。多くは山地の夏緑二次林内に生えて、時に林縁にも見られて、果時にその果実が目立つことがある。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者:井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

クロウメモドキ科

# ヨコグラノキ

*Berchemiella berchemiaefolia* (Makino) Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

夏緑の樹種で高さは10数mになる。葉は長楕円形で、多くは波状縁で、葉裏は粉白色である。葉は互生であるが、見た目には2枚ずつ続いて同じ側につく。花は初夏の頃に咲いて、葉腋に短い集散花序で数個の黄色小花をつけて咲くが、枝の先端部では葉がなく、花序だけがつく状態となる。果実は赤色に熟れる。国内では本州・四国・九州に生育し、国外では朝鮮半島南部に分布するが、まれな植物である。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後・西ノ島)・東部・西部に生育が見られる。隠岐諸島については生育地も比較的多い。山地の急斜面などに生える。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

バラ科

# アイズシモツケ

*Spiraea chamaedryfolia* L. var. *pilosa* (Nakai) Hara.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は1ヵ所で非常に僅かな個体数であり、このままでは近い将来絶滅することが危惧される。

### 概要

高さ1-2cmの夏緑低木のシモツケ属の一種、葉は長さ4-5cm、幅2cmばかり。葉は卵形で上半部重鋸歯縁。花序散房状で、花は白色、径1cmばかり、萼列片花時に反曲し、宿存するのが特徴的である。国内では北海道・本州(中部以北)・九州(熊本県)とされており、国外では、シベリア・アムール地域・アムール地域・ウスリー・サハリン・朝鮮半島北部・中国(東北部)に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」.358pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

石見中央部山地、岩上に僅かな個体数からなる生育地があるだけである。

### 存続を脅かす原因

遷移による環境変化。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

バラ科

## ヒロハノカワラサイコ

*Potentilla niponica* Th.Wolf

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

## 島根県固有評価

分布限界種(南限)

## 環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



## 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数は明らかに減少している。

## 概要

植物体は地際に根生葉を数枚つける。葉は単羽状複葉で、小葉はさらさら中裂する。開花株では数本の茎を出し、花は夏に咲き、直径約1.5cmの黄色5弁で、時に美しく見える。陽当りのよい河原や砂質草地に生える夏緑性の多年草である。北海道と本州中部以北の地に分布する。

## 県内での生育地域・生育環境

県内の分布は、県中部(大田市)の山地尾根筋に限られた個体数をみる生育地がある。過去には草原内にも多くの個体が生育していたが、草原の樹林化により絶滅してしまった。主要な分布地は北陸地方以北であり、県内に存在するものはきわめて貴重な存在のものと考えられる。

## 存続を脅かす原因

遷移による生育地の樹林化、園芸上での採取。

## 特記事項

大田市自然環境保全条例に基づく「大田市指定希少動植物」に指定されており、また保護活動が行われている。

(執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。(2025年10月30日閲覧)  
枚村喜則(2005)島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告3: 1-49。

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

バラ科

## シウリザクラ

*Prunus ssiroi* F.Schmidt

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 島根県固有評価

-

## 環境省カテゴリー

-

No Image

## 選定理由

生育が報告されているが、現地での生育が確認できない。

## 概要

落葉高木で、樹高20mほどになる。葉身は倒卵状長楕円形で、先は尾状鋭尖形で、基部は心形になる。縁には先の尖る鋸歯が並ぶ。葉表は深緑色で裏は淡緑色となる。花は5-6月に多数の花をつけ、10-15cmの総状花序となる。花弁は円形で白色、長さ4-5mmになり、果実は卵状球形で夏に実り、赤紅色から黒色となる。

## 参考文献

岡 国夫(1968)隠岐の植物(一)、北陸の植物16(2): 52-55  
大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」.338pp. 株式会社平凡社,東京  
枚村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)の山域での生育が報告されているが、現地で確認できない状況となっている。

## 存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

バラ科

# シロヤマブキ

*Rhodotypos scandens* (Thunb.) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

夏緑性の低木で高さ1-2m、やや叢生して株をつくる。葉は卵形で長さ5cm、幅3cmで、対生する。花は春に咲いて白色、4弁で直径4cm前後で、小枝の先に1花ずつつける。雌蕊は4個の離生心皮からなり、1花に4個の黒色果実をつける。古くより庭園に植えられ、茶花などにも愛でられ、知る人には知られた植物である。本州の中国地方に分布し、朝鮮半島、中国に分布が続くものとされる。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(出雲市)の一部にのみ生育地が知られている。海岸に近い山地の斜面に僅かな個体が存在する。

### 存続を脅かす原因

生育地での遷移による照葉樹林化、園芸上での掘り取り。  
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

バラ科

# ハマナス

*Rosa rugosa* Thunb.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。主要な生育地のは県指定天然記念物とされている。

### 概要

海岸の砂丘に生える夏緑低木としてのバラ類の一種。植物体は高さ1m程で根際で枝を分け株となる。枝には大小多くの刺が生えている。葉は4-5対の小葉を持つ羽状複葉で、表面は皺状である。花は初夏に咲き、枝先に数個、花茎7-8cm程の大きな紅紫色5弁花をつける。果実も大きく径2-3cmの扁球形、赤橙色に熟れる。国内では北海道・本州(千葉県、島根県以東)に分布し、北東アジアの温帯から亜寒帯に分布する。

### 参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」, 358pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

中部の海岸砂地に生育地が知られていて、保護されている。また、隠岐や各地に漂着し一時的に生育したものもあり、人為的に持ち込まれたところもある。

### 存続を脅かす原因

波浪等による自然災害、遷移、園芸上での採取。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

バラ科

## サナギイチゴ

*Rubus pungens* Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):-

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## 選定理由

生育地はきわめて限られており、個体数もきわめて僅かである。

## 概要

夏緑性の小低木で茎は細く地に這い、普通は刺がある。葉は長さ10cm程の奇数羽状葉で2~3対の小葉に分かれ、二重鋸歯縁をもつ。花は枝先に1~3程がつき、径約2cmの白色5花弁。果実は径約1cm、赤く熟す。国内では本州・四国・九州のブナ林域に生育し、朝鮮半島・中国・ヒマラヤに分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,358pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

中部の山域のウラジロガシ林域の渓谷沿いの地にわずかに生育している。

## 存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

バラ科

## ハウロクイチゴ

*Rubus sieboldii* Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):-

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での分布は県西部にのみあり、生育地での個体数も僅かである。島根県が分布北限地となる。

## 概要

常緑の低木で、茎は蔓状に伸びて、先端が地につけば、根をおろす。葉は広卵形で長さ10-20cmと大きい。葉裏は黄白色~黄褐色のものが密生する。茎、葉面に刺がある。花は春に咲き、径3-4cmで5弁の白花。果実は径2cm程で赤く熟れる。国内では本州(東京都、島根県以西)・四国・九州・南西諸島に分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,358pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

県西部に生育している。海岸の砂礫地から後背の斜面、崖地に生え、群生する。

## 存続を脅かす原因

造成工事による生育地の破壊、刈り取り。

(執筆: 柳浦 正夫・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

バラ科

# コジキイチゴ

*Rubus sumatranus* Miq.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

### 概要

茎は叢生して、高さ1-2m程になる夏緑の低木。葉は互生し、3-7小葉の奇数羽状複葉で長さ10-20cm程。茎、枝、羽軸には暗紅色の長軟毛が密生し、鉤刺が疎生して特徴的である。花は初夏の頃に咲き、枝先に長さ約20-30cmの散房状から円錐状に花序を出し花をつける。花軸や小花柄にも長腺毛が密生する。萼は披針形で反り返り、背面に長軟毛がある。花弁は倒卵形で長さ1cm程、白色。果実は長楕円形、長さ1cm程で黄赤色に熟れる。本州の関東地方以西、四国、九州から朝鮮半島南部、中国に分布する。

#### 参考文献

廣江伸作 (2020) 希少種の新産地報告. 島根植物研究会会報 39:1.  
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、出雲市)、県中部(川本町、邑南町)で確認されている。林冠が破壊された林床や林縁に生えるが、いずれの生育地でも個体数はきわめて僅かである。

### 存続を脅かす原因

遷移による環境変化。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ニシキギ科

# イワウメヅル

*Celastrus flagellaris* Rupr.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られている。生育地での個体数もきわめて僅かである。

### 概要

夏緑性の蔓性木本である。葉はほぼ円形で、長さ、幅ともに4-5cmで、鋸歯は細かく、先が芒状にとがるのが特徴のひとつである。托葉が刺となって残ることも特徴である。花は春に咲き、雌雄異株であって、雄株では雄花が2-3花ずつ、雌株では雌花が1花ずつつく。果実は球形、直径5mm程で黄色に熟れる。国内での分布は関東以西、四国、九州にあって、朝鮮半島から中国東北地方に続く。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)にのみ知られて、出雲部、石見部での生育地については不明である。隠岐諸島では山地の夏緑二次林の林縁に生育地がある。林内にも個体が見られる。

### 存続を脅かす原因

生育地の遷移による環境変化。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

スミレ科

# ダイセンクスミレ

*Viola brevistipulata* (Franch. et Sav.) W. Becker subsp. *brevistipulata* var. *minor* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も限られている。

### 概要

鳥取県の大山を中心とした中国山地脊梁部に特産する黄花のスミレ類の一種である。林縁から草原状地、岩礫地に生える。

植物体は草丈10cm前後の小形なもので、葉は卵形で長さ1-2cm、数枚をつける。花は初夏の頃に咲き、葉腋に直径約1cmの黄花をつけて、美しい。茎は普通、濃い紫色を帯びていて特徴的である。本州の中国地方に分布し、中国山地の脊梁部を中心に生える。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)の中国山地脊陵部にまれに生育地がある。県中部(大田市)にも知られていたが、近年は確認されていない。

### 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化、生育地の崩土などの自然災害、園芸上での採取。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

スミレ科

# サクラスミレ

*Viola hirtipes* S. Moore

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。また近年は生育個体が確認されておらず、状況が不明である。

### 概要

山地の草原に生える多年草である。草丈は8-15cmで、地上茎を持たない。葉身は長卵形で、長さは3-6cm、基部は心形となる。葉の縁には鈍鋸歯が、上面と下面脈上に毛があり、下面はしばしば紫色を帯びる。花後の葉は長さが5-15cmと大型になる。花期は4-5月で、高さ7-12cmの花茎を伸ばし、先端に淡紅紫色の花をつける。花の直径は約2.5cm、花弁は長さ15-20mmと大きい。北海道から九州、朝鮮半島、中国(東北部)に分布する。

#### 参考文献

丸山 巖 (1982) アルガスミレ. 島根県大百科事典 上巻 (島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局編): 60. 山陰中央新報社. 島根.  
 大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 3 パラ科~センダン科. 604pp. 平凡社. 東京.  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)に生育していたとの記録があるが、1990年代から生育が確認されていない状況である。

### 存続を脅かす原因

園芸採取、管理放棄による草原の灌木化、樹林化。

(執筆: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

スミレ科

# コミヤマスミレ

*Viola maximowicziana* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内では1ヵ所のみ確認されており個体数も少ない。

### 概要

低山から山地の暗い林床に生育する多年草で、短い地下匍枝の先に新株を作って増えることもある。根生葉をもち、葉の葉身は長さ2-4cmの楕円状卵形で基部は心形になる。縁には低い鋸歯があり上面は有毛で浅緑色～濃緑色でやや紫色を帯び、脈に沿って白斑がはいることもある。下面は紫色を帯びる。葉柄は2-5cmほどになる。花は春に咲き、白色で唇弁に赤紫の条が入る。側弁の基部は無毛で、花柱はカマキリの頭の形になるが、左右へのはりだしは弱い。本州の福島県以西から九州に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物3」,338pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 松村喜則(2006) 島根県の種子植物相(補遺). 島根県立三瓶自然館研究報告(4): 41-43 島根県立三瓶自然館  
 柳浦正夫(2022) 島根県でコミヤマスミレを初確認. 島根県立三瓶自然館会報20: 23-24 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部の山地の渓谷沿いの暗い湿った斜面に小群落を形成している。

### 存続を脅かす原因

森林の伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

スミレ科

# ホンバシロスミレ

*Viola patrinii* DC. var. *angustifolia* Regel

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

No Image

### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。生育環境である湿った草原や湿地自体が少なく、また遷移の進行などにより失われやすい。

### 概要

山地や低地の湿地に生える多年草である。地上茎はなく、草丈は10-20cmになる。地下茎は短く、そこから直立する葉を根生する。葉は長さ4-7cmで、やや細長くて基部は切形で、葉柄は長さ4-12cmと葉身よりも長い。花期は5-7月で、花の直径は約2cmで、花の色は白色で、側弁と唇弁に紫条が入る。本州(滋賀県以西)、四国、九州に分布する。シロスミレとホンバシロスミレは滋賀県を境に棲み分けており、ホンバシロスミレは西日本に分布する。

#### 参考文献

井上雅仁・三島秀夫(2019) 島根県津和野町地倉沼の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 17: 1-15.  
 丸山 巖(1982) アルガスミレ. 島根県大百科事典 上巻(島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局編): 60. 山陰中央新報社, 島根.  
 大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編(2016) 改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科~センダング科. 604pp. 平凡社, 東京.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)と県西部(津和野町)で確認されている。生育環境は、湿り気のある草原や湿地内である。

### 存続を脅かす原因

園芸上の採取、遷移の進行による草原や湿地の灌木化、樹林化。

(執筆者:井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オトギリソウ科

# ダイセンオトギリ

*Hypericum asahinae* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

生育地がきわめて限られ、生育地での個体数もきわめて僅かである。

### 概要

草丈20—30cmの多年生草本。葉は楕円形で、長さ2—3cm、幅5mm前後で対生し、多くは十字対生状にやや密に着く特徴がある。花は直径2cm程で黄色5花弁に黒点、黒線がある。北陸から中国地方の高地に分布する植物である。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)、県中部(大田市)の山地高所に僅かであり、主として山頂、尾根筋の露岩地状の乾燥する立地に生える。県西部(津和野町)での記録もあるが、状況は不明である。

### 存続を脅かす原因

露岩地の草原化、樹林化等の遷移と園芸上での採取。

(執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

フウロソウ科

# コフウロ

*Geranium tripartitum* R. Knuth var. *tripartitum*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地の林内に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと20—80cmになる。葉は根出および茎上に対生するが、根出葉は花期にはないか少ない。茎葉の葉身は幅2—8cmで3全裂し、側小葉はさらに2深裂する。花期は8—9月で、茎や枝の先に少数の花をつける。花の大きさは直径約1cmで、花色は淡紅色から白色である。本州(山形県・宮城県以南)、四国、九州、韓国(済州島)に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科~センダン科. 604pp. 平凡社. 東京.  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、夏緑広葉樹林の林内で、やや明るい林床である。

### 存続を脅かす原因

夏緑広葉樹林の下層木やササ類の繁茂によるヤブ化、灌木化。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ムクロジ科

# テツカエデ

*Acer nipponicum* Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

県内ではきわめてまれである。

### 概要

山地に生える夏緑性の高木。葉は正常なもので長さ、中ともに15cm前後、先端部は浅く3-5裂する。葉の表面は脈が裏側に落ち込んで、裏側の脈腋、脈をはじめ全体に赤褐色の毛が密に生える。

日本固有の種で東北地方から四国、九州に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

県内では東部の1カ所のみ生育地が知られている。アカガシ林域の谷部に生えている。

### 存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

アオイ科

# ハマボウ

*Hibiscus hamabo* Siebold et Zucc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も少ない。また国内での分布の北限である。

### 概要

海岸の砂泥地に生える落葉低木または小高木。高さは1-2mになる。葉は円形から広卵形で、長さ4-7cm、幅3-6cm、葉柄は1-2cmである。花期は7-8月で、枝の上部に、直径5cm前後の中心が赤褐色の黄色い花をつける。国内では、本州(千葉県以西)、四国、九州、奄美大島に分布する。人家や庭園に栽培される場合もある。これまでの日本海側の分布北限は、山口県萩市笠山のものとしてされる。

### 参考文献

井上雅仁・丹後亜興(2023) 隠岐郡知夫村および中国地方日本海側におけるハマボウの生育状況. 隠岐の文化財 40: 11-23.  
 丹後亜興(2012) 隠岐諸島新産の植物(5). 隠岐の文化財 29: 28.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(知夫村)、県東部(松江市)に生育地がある。海岸沿いの砂礫地に生育している。

### 存続を脅かす原因

園芸採取、周辺樹木による被陰、周辺波浪による消失。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ジンチョウゲ科

# コガンピ

*Diplomorpha ganpi* (Siebold et Zucc.) Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

### 概要

夏緑性の低木で高さは0.5m前後である。葉は長楕円形で長さ3-4cm、幅1-2cmで互生する。夏に花が咲き、枝の先に短い花序をつくり、数花をつける。花は筒状で長さ約1cmの白色から淡紅色である。本州の関東以西、四国、九州、南西諸島に分布する。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県中部(大田市)の一部にまれに存在する。山地の草原や崖地に生える。県東部では道路法面や山地の山崩れ起源の崖地に群生した場があったが、その場の遷移により樹林化して消滅してしまっている。

### 存続を脅かす原因

遷移による生育地の環境変化。

(執筆者: 井上 雅仁・秋村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ジンチョウゲ科

# キガンピ

*Diplomorpha trichotoma* (Thunb.) Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

### 概要

夏緑性の低木で高さは1-2m、葉は楕円形で長さ約5cm、幅3cm前後で対生する。花は夏に咲き、枝先の短い花序に白から黄色の花をつける。萼筒は長さ約1cmで萼筒は先で4裂して平開する。国内では本州(近畿地方・中国地方西部)・四国・九州に分布し、朝鮮半島南部に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

県内での生育地はきわめてまれであって、中部と西部の山地に知られている。西部では数カ所現在も生育が見られるが、中部の三瓶山西の原では、個体が確認されなくなっている。これは草地の遷移による樹林化が原因となっていることが考えられる。生息地は山域の低木が点在する草原や、冷温帯樹の林縁に生育する。

### 存続を脅かす原因

遷移による生育地の環境変化、特に周囲の樹種による被陰。

(執筆者: 柳浦 正夫・秋村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イソマツ科

# ハマサジ

*Limonium tetragonum* (Thunb.) A.A.Bullock

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 自然環境課

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での分布が限定されており、海岸の岩場の割れ目という非常に劣悪な場所に生えており、生育地での個体数はきわめて少ない。以前には2カ所以上の岩場で見られたが、今は1カ所の岩場でしか見られない。

### 概要

河口域や海岸の砂地・砂泥地に生える越年生(時として多年生)植物で、通常は2年目の秋に開花・結実してその株は枯死する1回繁殖型の植物である。和名は海浜に生え葉が長楕円形のさじ型であることによる。根はごぼう状で太く、葉は根元に集まってつき、葉の長さは8-17cm、幅は1.5-3cm、厚くなめらかで、縁に鋸歯はない。葉の先端は丸く、基部は次第に狭まって葉柄へと続き、その部分は赤みを帯びる。群生する葉の中央から秋季に高さ30-50cmの花茎を伸ばして多数の黄色の小穂からなる円錐状の花序をつくる。果実は紡錘形で、長さ約2.5mm。本州の東北地方以南、四国、九州の太平洋側から朝鮮半島、中国に分布する。

### 参考文献

荒木 悟・國井秀伸(2014)人為的な干潟造成後に見られた塩生植物の出現。ホシザキグリーン財団研究報告, 17: 253-262.  
 大林夏湖・程木義邦・國井秀伸(2008)中国四国地方における準絶滅危惧種ハマサジ*Limonium tetragonum* (Thunb.) A.A.Bullockとフクド*Artemisia fukudo* Makinoの分布状況。ホシザキグリーン財団研究報告, 11: 205-210.

### 県内での生育地域・生育環境

日本海側では島根県と山口県に見られ、県内での分布は浜田付近の海岸にのみ知られ、岩場の割れ目に生えている。

### 存続を脅かす原因

河口域や海岸での開発行為、港湾整備による生育地の破壊。  
 (執筆者: 國井 秀伸)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ナデシコ科

# オオヤマフスマ

*Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

草丈10cmばかりの小型の多年草で山地草原内に生える。葉は倒披針形から楕円形で長さ約2cm、幅0.5cmほどほどで細い茎に対生する。花は夏に咲き、茎の上部の葉腋に花序を立て、2~3個の白色5弁、径約1cmの花をつける。国内では北海道~九州に分布し、北半球の温帯に広く分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部中国山地に生育する。生息地はの放牧地起源の草地に生えている。

### 存続を脅かす原因

遷移による樹林化。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ナデシコ科

# ワチガイソウ

*Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):津島辰雄



### 選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

山地の林下や林縁に生育する草丈10cmほどの多年草。茎は基部で2~3の枝を出して立ち上がり、葉は倒披針形から楕円形で、長さ2~3cm、幅1~2cmで対生する。花は春に咲き、茎の上部の葉腋に長い花柄を出し、柄の先に白花5弁の小花を1個だけつける。国内では本州(岩手県以南)・四国・九州に分布し、中国大陸にも分布するとされる。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 澤江 宏ら(2003) 広高谷で見られた植物, 島根植物研究会会報3:3-4 島根植物研究会、島根  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部や東部での生育が報告されており、冷温帯の夏緑林内や溪谷の斜面に生えている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採による生育地の環境変化、採集。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

アジサイ科

# キレンゲショウマ

*Kirengeshoma palmata* Yatabe

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

生育地はきわめて限られており、生育個体数も限られている。

### 概要

夏緑林内の湿り気の強い地に生える多年草。草丈は1m前後になるやや大形のもので、葉は浅く裂けたほぼ円形で直径15cm前後あって、対生する。茎の先端部に筒状の黄色5花弁、長さ3~4cmのやや大きな花を多数つけて咲く。国内では紀伊半島から四国、九州に分布し、いわゆる夔速紀要素の代表的植物として知られる。

### 参考文献

兼子伸吾・井上雅仁・大竹邦暁(2010) 島根県に生育するキレンゲショウマの現状とその保全の重要性, 島根県立三瓶自然館研究報告 8: 7-12.  
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(益田市、津和野町)の中国山地にのみ知られ、冷温帯林の沢筋深山の崖錐地に群生する。

### 存続を脅かす原因

森林伐開と園芸上での採取。

(執筆:井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

サクランソウ科

# ハイハマボッサ

*Samolus parviflorus* Rafin.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):自然環境課

### 島根県固有評価

分布限界種(南限)

### 環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地は限られて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

海岸や湖岸に近い湿地に生える多年草で、草丈は10cm前後、根元で分枝して、花茎を立てる。葉は倒卵形で、長さ2-5cm程、幅は1-2cm。全体無毛で、花茎の先に白色小花を10個ばかりをまばらにつける。国内では北海道・本州に分布し、北アメリカにも分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部の沿岸域での生育が知られており、島後では各地に知られているが、東部では1ヵ所のみである。生息するのは湿った場所であるが、海岸の水が染み出る岩棚や、海岸に近い池の縁、や山中の湿った場所等多様である。

### 存続を脅かす原因

遷移、伐採等による乾燥化。

(執筆:柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

マタタビ科

# シマサルナシ

*Actinidia rufa* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):-

### 島根県固有評価

分布限界種(北限)

### 環境省カテゴリー

-



### 選定理由

生育地が極限されていて、個体数もまれである。

### 概要

夏緑性の蔓性木本で、多く分枝して周りに絡みつき、繁茂する。葉は楕円形で長さ15cm前後、幅5cm前後で互生する。花は白く径1.5cm程で、雄花、雌花、両性花をつける。果実は秋に熟し、楕円形で、長さ3-4cm程。国内では本州(紀伊半島・島根県・山口県)・四国・九州・琉球に分布し、朝鮮半島南部に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

石見部西部にのみ分布し、沿岸域の林縁にまれに生育する。

### 存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆:柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ツツジ科

# マルバノイチヤクソウ

*Pyrola nephrophylla* (Andres) Andres

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内ではまれな生育であり、保護する必要があると考えられる。

### 概要

林下や草原に生える多年草で、葉は扁円形で、長さ1.5–2.5cm、幅1.5–3.5cm。2–5cmの柄がある。先は丸いかややへこむ。初夏に15–20cmのやや赤みを帯びた花茎を伸ばし、5–10個の花をつける。花の萼片は卵状円形、花は緑白色で径1cm。国内では南千島・北海道・本州(中北部以北)に分布し、サハリン・朝鮮半島・中国(東北部)・アムールに分布する。

#### ●参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部での生育が報告されている。生育状況は不明であるが、山域の林下に生育していたと思われる。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ツツジ科

# サラサドウダン

*Enkianthus campanulatus* (Miq.) G.Nicholson var. *campanulatus*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

### 概要

夏緑性の高さ2–3mの低木で、葉は長さ4–5cm、幅2cmの倒卵形、枝先に5–6枚が束生状につく。花は初夏の頃に咲き、花冠は鐘形で長さ約1cm、先は浅く裂けて、裂片の先は丸い。花色は白地に花冠裂片部が淡紅色で、さらに紅色の条が目立つ。枝先に10花程が鈴を下げたように垂れて咲き、美しい。分布は北海道南部から本州、四国、九州の一部にあるとされる。

#### ●参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(益田市)の西中国山地脊梁部にまれに生育地がある。生育地は国定公園内にあり、それなりに保護されていて、盗掘等の心配はないものと思われる。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 井上 雅仁・秋村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ツツジ科

# ベニドウダン

*Enkianthus cernuus* (Siebold et Zucc.) Makino f. *rubens* (Maxim.) Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

夏緑性の低木で高さ2-3mになる樹種。葉は長さ3-4cmで、倒卵形、多くは枝先に5-6枚が互生して束生状につく。花期は初夏で枝先に花穂を垂れ5-6個の赤色、鐘状の花をつけ美しく咲く。花冠の先端は細い裂片となり特徴的である。果実は楕円形で長さ約5mmで上向きにつく。本州の関東以西、四国、九州に分布する。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(吉賀町)の中国山地寄りの土地にまれに存在する。おもに山地斜面の岩場、露岩状地に生える。

### 存続を脅かす原因

生育地の一部においては、遷移による環境変化が考えられる。また、園芸上での採取も考えられる。

(執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ツツジ科

# イワナシ

*Epigaea asiatica* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): —

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

匍匐形の常緑小低木で、茎は枝を分けて地に這う。葉は楕円形で、長さ7-8cm、幅3cm前後で両面に短毛があり、葉縁に長毛があって特徴的である。花は春、枝先に筒状の長さ1cm前後で桃色の花を数個つける。果実は夏前に熟れ直径1cm程、甘くて食べられるといわれる。北海道西南部から主として日本海側に島根県まで分布するものとされる。

### 参考文献

廣江伸作 (2018) 希少種の新産地報告, 島根植物研究会会報 35: 18-19.  
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市)の一部に生育地が知られている。山地の崖地に生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移、園芸上での採取。

(執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ツツジ科

シャクジョウソウ

*Hypopithys monotropa* Crantz

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

県内での生育地は限られているように思われるが、県全域での生育地や個体数について状況が明らかでない。

概要

山地林内に生える腐生の多年草である。植物体は茎が高さ20cmばかりに地上に伸び、少しばかりの鱗片葉をつけ、全体が淡黄褐色である。夏前に、茎の先の総状花序に5~6個の花を下向きにつける。萼片、花弁ともに4枚で長楕円形、長さ1cmばかり、花後、果実は上向きに立ち上がる。国内では北海道から本州、四国、九州に生え、北半球の温帯域に広く分布域があるとされる。

参考文献

廣江伸作 (2024) 安来市の植物誌-維管束植物- 64pp. 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、雲南市)での記録がある。山地のコナラ林内などに時折り生育個体をみるが、県内全域での生育地や個体数がどの程度あるのかは不明である

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ツツジ科

ウラジロハナヒリノキ

*Leucothoe grayana* Maxim. var. *hypoleuca* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

日当たりのよい低木林内や岩場に生える落葉低木である。高さは0.5-1.3mになる。葉は互生し、長さ2-6cm、幅1-3cmの卵状楕円形または楕円形である。裏面は無毛で、白色をおびる。花期は6-7月で、新枝の先に多数の花を下向きにつける。花は緑白色のつぼ形で、長さ、幅とも約4mmである。山形県以西から、鳥取県大山までの日本海側に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科. 606pp. 平凡社, 東京.  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)で確認されている。生育環境は、尾根筋の日当たりのよい林縁部や低木林内である。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、林縁部の樹林化に伴う被陰。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ツツジ科

# ヒメヤマツツジ

*Rhododendron kaempferi* Planch. var. *tubiflorum* Komatsu

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地の林内に生える半落葉低木である。高さは1-5mになる。葉には春葉と夏葉があり、春葉は長さ2-3cm、幅0.8-1.6cm、狭楕円形で先がとがる。夏葉は、長さ5-15mm、幅2-5mmと細長い。花期は5-6月で、紅紫色の花をつける。ヤマツツジの変種とされるが、葉、花ともにヤマツツジの半分程度の大きさであり、花の色も朱色のヤマツツジと異なる。広島県、山口県に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科. 606pp. 平凡社, 東京.  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部（吉賀町）で確認されている。生育環境は、山地の林内や林縁部である。

### 存続を脅かす原因

園芸上の採取、森林伐採。

(執筆: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

アカネ科

# ジュズネノキ

*Damnacanthus macrophyllus* Siebold ex Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もまれである。

### 概要

常緑の低木で、高さ1m前後、根が細長い数珠状に肥厚する特徴がある。葉は楕円形から長楕円形で長さ10cm、幅3cm程になり、両端がとがり、対生する。春に花が咲き、枝先や葉腋に白色の小花を2個つける。花冠は筒状で長さ1cm程、先は4裂する。果実は直径5mm程で赤く熟れる。本州の近畿以西、四国、九州に分布する。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部（江津市）、県西部（益田市、津和野町）で確認されている。県西部の生育地のひとつでは、コジイ、イチイガシ林内の低木として少数の個体の生育が認められる。この樹林は優良な神社林であって町の天然記念物として保護の対象となっている。過去に強い台風によって林分が破壊された部分があったが、ジュズネノキには影響はないようである。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の破壊。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

アカネ科

## クチナシ

*Gardenia jasminoides* Ellis

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

## ■ 選定理由

県内での生育はまれと考えられ、生育個体には保護が必要と考えられる。

## ■ 概要

高さ1-2mの常緑低木で、葉は対生または3枚輪生し、葉身は倒披針形から楕円形で先端は鋭形または鋭尖形。基部はくさび形。両面はほぼ無毛で、長さ3-17cm、幅2.5-5cm。托葉は合生し円筒状となって茎を包み、上部は斜めに切れて先はとがる。花は6-7月で尊筒は倒円錐形、花冠は白色で裂片は5-7個。倒披針形で開出し、開出部は径3.5-6cmになる。果実は長楕円形で長さ2.5-3cmになる。国内では（静岡県以西）・四国・九州・琉球に分布し、台湾・中国（中南部）・インドシナに分布する。

## ● 参考文献

大橋広好他（2017）「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3)：1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

西部での生育が報告されている。沿岸域の照葉樹林内にまれな生育が見られる。

## ■ 存続を脅かす原因

森林伐採、被陰化。

（執筆者：柳浦 正夫）

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

リンドウ科

## ムラサキセンブリ

*Swertia pseudochinensis* H.Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



## ■ 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

## ■ 概要

陽当りのよい草地に生える1年草または越年草。茎は紫色を帯び、多くは高さ30cm程度で、線形で長さ3cm前後の葉を対生する。花は夏から秋にかけて咲いて、淡紫色で直径2cm前後、花冠裂片は濃紫色の脈がある。国内では本州の関東地方以西、四国、九州に分布して、朝鮮半島、中国東北部に分布が続く。

## ● 参考文献

国立科学博物館（2018）サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。（2025年10月30日閲覧）  
 秋村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 高橋佳孝・井上雅仁・兼子伸吾・内藤和明（2008）絶滅危惧植物ムラサキセンブリの島根県内の分布状況と三瓶山自生地の現状。島根県立三瓶自然館研究報告 6: 7-11.

## ■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部（飯南町）、県中部（大田市）に点在していたが、現在は状況が不明である。山地の草原や山道脇の草地などに生える。時には道路法面などにも生えるが、いつしか消滅してしまう。

## ■ 存続を脅かす原因

生育地の遷移による環境変化、抜き取り。

（執筆者：井上 雅仁・秋村 喜則）

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

リンドウ科

# イヌセンブリ

*Swertia tosaensis* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

### 概要

水湿地に生える1年草または越年草。植物体は草丈30cm前後で、長さ4-5cmの倒披針形の葉を対生する。茎の上部で枝を分け花をつける。花は秋に咲き、径1.5cm程で、白色に紫色の条がある花弁は5深裂する。国内では本州から九州に分布し、朝鮮半島・中国・ウスリーに分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部に生育地が知られている。ため池の水辺と水田脇の水湿地に、他のイネ科草本などと混生して見られたようだが、どちらの産地も生育が確認できない状況である。

### 存続を脅かす原因

水湿地草地の遷移。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キョウチクトウ科

# チョウジソウ

*Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. et Schult.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

水湿地に生える夏緑性の多年草。草丈は約50cmになり、長さ10cm程の披針形の葉を互生する。花は初夏に咲き、茎頂に径1cm前後の青紫色の花を多数つける。花冠は狭長な5裂片に裂け、平開して、美しい。果実は円柱状で1花に2本ついて、長さ5-6cm。本州、九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布が続く。

#### 参考文献

井上雅仁・三島秀夫(2019) 島根県津和野町地倉沼の植生と植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 17: 1-15.  
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>、(2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(出雲市)、県西部(津和野町、吉賀町)で確認されている、西部の一部の生育地については現状が不明である。生育環境は、池沼の縁や湿性草原、山間の湿地である。

### 存続を脅かす原因

遷移、埋立て等的人為的な生育地の破壊、園芸上での採取。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キョウチクトウ科

## クサタチバナ

*Cynanchum ascyrifolium* (Franch. et Savat.) Matsum.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## 選定理由

県内では生育地が限られていて、生育地での個体数も多くはない。

## 概要

夏緑性の多年草で、草丈は30-60cm。葉はほぼ楕円形で長さ10cm、幅5cm前後で対生する。花は初夏の頃に咲き、茎の上部の集散花序に、径2cmばかりの白色花を多数つける。花冠は5裂し、果実は袋果で細長く、長さ5cmほどになる。本州(福島県以西)・四国に分布し、朝鮮半島、中国(東北部から東部)に分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島にのみ生育地が知られている。隠岐(島後・島前)でも生育地はまれであり、山地の夏緑二次林内にあって、樹林内の遷移により、個体数は減少している。

## 存続を脅かす原因

遷移による生育地の環境変化。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キョウチクトウ科

## アオカモメヅル

*Vincetoxicum ambiguum* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

生息地は限定され、分布の北限をなす。

## 概要

山麓の湿った草地や林縁などに生えるつる性の多年草。葉は対生し、葉柄は3-8mm、葉身は薄く、細長い被針状で長さ3-10cm、幅5-10mmで、先はとがり、基部は浅い心形となる。花8-10月、花序は葉腋から出て、花は2-10mmほどの短い花序軸の先にまばらにつける。花柄は3-5mm、萼は5裂し無毛、裂片は小さくやや鋭頭。花冠は帯黄白色から淡緑色で5深裂し、径1cm、内面に白毛がある。副花冠は三角状鈍頭で、雄蕊と同じ長さ。袋果は披針形で無毛、4-5cm。本州(紀伊半島)・四国・九州に分布する。

## 参考文献

宮本 巖(1963) 西部石見の高等植物目録、島根県立益田高等学校高津川総合学術調査研究報告: 29-49 島根県立益田高等学校  
 大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

西部の山域の湿った環境に群生してみられる。

## 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キョウチクトウ科

# フナバラソウ

*Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数もまれである。

### 概要

海岸風衝、岩礫地、草地に生える夏緑の多年草。草丈は約50cmである。葉は楕円形で長さ10cm、幅5cmで対生して、全体に毛がある。花は初夏の頃、直径1cm前後、5深裂花冠の汚紫色で、秋の果実は広披針形で特徴的である。

#### 参考文献

松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市)、県西部(浜田市、益田市)で確認されている。生育環境はいずれも、海岸沿いの風衝草原である。

### 存続を脅かす原因

草地の自然な遷移による環境変化、人による採取。  
(執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キョウチクトウ科

# タチカモメヅル

*Vincetoxicum glabrum* (Nakai) Kitag.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

県内での分布はまれであり、生育個体は保護する必要がある。

### 概要

湿った草地に生える多年草。茎は高さ40-100cmで、下部が直立し、先はややつる状となる。葉は対生し、葉柄は2-5mm、葉身は長楕円状披針形で、長さ3-11cm、幅1-4mmで、先はとがり、基部は多少心形となる。花は7-9月、上部の葉腋がら出て、暗紫色で、径9mm内外、萼裂片は卵状三角形。袋果は広披針形で無毛、長さ4-5cm、幅5-7mmとなる。本州(近畿以西)~九州に分布する。花が帯黄白色のものを品種のアオタチカモメヅルという。

#### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社.東京  
松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と中部・西部からの生育が報告されている。このうち島後と西部のものはアオタチカモメヅルとされている。

### 存続を脅かす原因

遷移、園芸上での採取。  
(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ヒルガオ科

# マメダオシ

*Cuscuta australis* R. Br.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)

No Image

### ■ 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### ■ 概要

日当たりの良い野原や海岸に生える、つる性の寄生植物である。最初は地上に生えるが、その後寄主に巻きつくと根はなくなる。莖は細く糸状で橙黄色を帯び、寄主にからみつく。花期は7-10月で、花冠は長さ約2mmで5裂し、果実よりも短い。花柱は2個である。筒部の内側基部にある鱗片は先が2裂して、少数の突起がある。北海道から琉球、中国、東南アジア、オーストラリアに分布する。

#### ●参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科. 760pp. 平凡社, 東京.  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### ■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部（出雲市）で確認されている。生育環境は、海岸沿いの砂浜周辺である。

### ■ 存続を脅かす原因

海岸の開発、遷移の進行による海岸植生のヤブ化、灌木化。  
 (執筆者：井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ナス科

# アオホオズキ

*Physalistrum savatieri* (Makino) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影者(提供者):津島辰雄



### ■ 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、個体数も少ない。

### ■ 概要

山地のやや陰湿な地に生える。草丈40-50cmほどの柔らかい多年草。まばらに分枝する。葉は長楕円形で、長さ10cm、幅4-5cmで、先はしだいの細く尖り、下部もしだいにせまくなり、0.5-1.5cmの柄がある。花は6-7月で、葉の腋に1-2個の淡緑色の花をつける。花冠は広鐘形あさく5裂し、外面に短毛がやや密に生える。液果は楕円形で、淡緑色で、長さ1.3-2cmの卵形となる。本州（関東以西）~九州に分布する。

#### ●参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

### ■ 県内での生育地域・生育環境

東部の丘陵域から生育が報告されている。

### ■ 存続を脅かす原因

遷移。  
 (執筆者：柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ナス科

# ヤマホロシ

*Solanum japonense* Nakai

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

### 概要

山地に生えるやや蔓性の多年草。葉は長卵形で長さ約5cm、幅3cm前後のもので、しばしば3-5片に裂ける。花は夏に咲き、小枝にまばらな集散花序を出し、少数の花をつける。花冠は薄紫色で径約1cm、先は5裂して反曲して咲く。果実は液果で赤く熟し、楕円形で径5-6mmのものである。国内では北海道から九州に分布し、朝鮮半島・中国(中北部・東北部)に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」,474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐と東部の山域からの生育が報告されている。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開、遷移による環境変化。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ムラサキ科

# ハマベンケイソウ

*Mertensia maritima* (L.) Gray subsp. *asiatica* Takeda

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

### 島根県固有評価

分布限界種(南限)

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

### 概要

海岸の砂礫地に生える多年草。地際から枝を分けて地に這い、葉は楕円形から広卵形で長さ5cm前後、幅3cm前後、互生して青白い色が特徴的である。花は夏に咲き、長さ1cm前後の青色で、枝先に数個ずつつける。北海道、本州の海岸に分布するが、北方系の植物であり本州では生育地はまれなようである。

### 参考文献

杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 丹後亜興(2022) 隠岐の西限植物、隠岐の文化財 39: 6-14.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)で知られていて、海岸の砂礫の浜に生育している。かつて確認された箇所では生育が見られず、近年の状況は不明である。

### 存続を脅かす原因

波浪等による自然災害、浜の改善工事。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イワタバコ科

# イワタバコ

*Conandron ramondioides* Siebold et Zucc. var. *ramondioides*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も限られている。

### 概要

日陰の岩壁に生育する多年草で、1-2枚の倒卵形で長さ3-10cmの葉柄があり、葉身は長さ10-30cm、幅5-15cmの大きな葉をつける。葉の腋から10-30cmの花柄を伸ばし、径1.5cmほどの紅紫色の花をつける。国内では本州(秋田・岩手以南)から九州に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部の山地の渓谷に分布する。

### 存続を脅かす原因

森林伐採による環境変化、採取。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イワタバコ科

# シシンラン

*Lysionotus pauciflorus* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影者(提供者):隠岐ジオパーク推進機構



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、生育個体があるかどうか不明の状況である。

### 概要

おもに樹幹に着生し、茎は20-50cm這ったのち先端は立ち上がる。茎は分枝して枝先長さ10cm前後、幅3-4cm程の長楕円形の葉を数枚束生する。花は夏に咲いて、淡桃色の袋状の花冠は長さ4-5cm。本州(伊豆半島および京都府以西)・四国・九州に分布する。

### 参考文献

宮本 巖(1963) 西部石見の高等植物目録、島根県立益田高等学校高津川総合学術調査研究報告: 29-49 益田高等学校, 島根  
 大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

以前より隠岐(島後)に生育地が知られており、国指定天然記念物「高尾暖地性闊葉樹林」内での記録があるが、絶滅状態とされる。前回の報告で、島内において山草愛好家の間では、近年採取されたものとして栽培する人もあるとされる。また西部の山地でも1990年代まで生育していたが、これも現状不明である。

### 存続を脅かす原因

森林伐採による環境変化、採取。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

イワタバコ科

# イワギリソウ

*Opithandra primuloides* (Miq.) B.L.Burt

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内では生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

植物体はやや小型の夏緑多年草で根生状の葉をつけて株となる。葉は柄があって葉身は長さ5-8cm程の卵形で、葉縁はやや大きい鋸歯縁で、全体に毛がある。花は初夏に咲き、根茎から葉の間に花茎を出し、先端に10個前後の赤紫色の筒状の小花をつけて美しい。本州近畿地方以西、四国、九州に分布する植物である。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(出雲市)にまれに見られて、岩上、岸壁に生える。やや湿り気のある岩上から、時にはかなり乾燥する立地でも生育する。

### 存続を脅かす原因

岩上での遷移、園芸上での採取など。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オオバコ科

# サンイントラノオ

*Pseudolysimachion ogurae* Yamazaki

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

島根県固有種

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

島根県の固有種で、生育地は限られていて、個体数も限られている。

### 概要

島根県固有の植物で、夏緑性で草丈15-30cmの多年草で、根際で数本の茎を分枝する。葉は倒披針形で鋸歯があり、長さ約3cm、幅0.5cm程で対生する。花は夏に咲き、茎の上部に穂状に青紫色の小花を多数つける。

#### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から中部にかけて生育地が点在しており、丘陵域の岩山や林縁の露岩崖地に生育する。

### 存続を脅かす原因

遷移、園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

オオバコ科

## ミヤマクワガタ (ダイセンクワガタ)

*Veronica schmidtiana* Regel subsp. *senanensis* (Maxim.) Kitam. et Murata

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

## 島根県固有評価

-

## 環境省カテゴリー

-



## 選定理由

生育地がきわめて限られていて、生育地での個体数も限られている。

## 概要

夏緑性の多年草で、草丈は20cm前後、葉は卵形で重鋸歯があって、長さ3-4cm程で対生する。花は夏から秋に咲き、茎頂に穂状に青紫色の小花をつける。ここに扱うものはダイセンクワガタとされる型のもので、中国地方の山地に固有な分布のものとして存在する。

## 参考文献

●参考文献  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)のごく一部の地に知られるもので、山地の林縁露岩地、岩上に生育するが、時に基盤の崩落による生育地の破壊がある不安定立地のため個体の消滅がある。

## 存続を脅かす原因

露岩地の崩壊による生育地の消失、遷移の進行による生育地の草原化、灌木化。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ゴマノハグサ科

## オオヒナノウスツボ

*Scrophularia kakudensis* Franch.

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 島根県固有評価

-

## 環境省カテゴリー

-

No Image

## 選定理由

県下での分布は非常にまれであり、生育個体は保護する必要がある。

## 概要

草地や林縁に生息する多年草で、茎は角張った4稜があり、高さ1mほどになる。葉は対生し、長楕円形または卵形でさきはとがり、長さ6-10cm、幅3-5cmで、多くの尖った鋸歯がある。花は8-9月。葉の先に分枝する円錐花序をつくり、多くの花をつける。花冠は暗紅紫色で、長さ8-9mmとなる。蒴果は卵形で、長さ6-9mmになる。北海道南部から九州、朝鮮半島に分布する。

## 参考文献

●参考文献  
 大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部からの生育が報告されている。河川の河川敷などに非常にまれに生育が見られる。

## 存続を脅かす原因

遷移、園芸上の採取。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

シソ科

# カイジンドウ

*Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A.Gray ex Nakai

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県内では生育地が限定され、生育地での個体数も限られている。

### 概要

夏緑性の草丈30-50cm程の多年草。葉は卵形で、長さ7-8cm、幅3cm程で、やや大きな4-5対の鋸歯縁をもち対生する。花は初夏に咲き藍色で茎の上部に多くつく。

北海道から本州、九州に分布するものとされる。

### 参考文献

松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)に知られていて、生育地は草原状地であって、各種の草本類と混生して、まれに見られる。近年は生育地での個体が消失し、状況が不明である。

### 存続を脅かす原因

草原の遷移、園芸上での採取。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

シソ科

# オウギカズラ

*Ajuga japonica* Miq.

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、遷移による生育地の消滅が心配される。

### 概要

山地の林内に生える夏緑性の多年草。植物体は、草丈10cm前後で、葉は4-5cmの葉柄があって、ほぼ五角形で浅い切れ込みがある。茎の下部に走出枝が出て、長く地表を這う。花は春に咲いて、茎の上部の葉腋に薄紫色の花を、まばらにつける。花冠は筒状で、上唇は2裂、下唇は3裂する。本州~九州に分布する。

### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物V」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京  
松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部の中国山地に見られる。谷筋の夏緑二次林下に生育している。

### 存続を脅かす原因

樹林の遷移による被陰の進行、森林伐採による乾燥。

(執筆: 柳浦 正夫・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

シソ科

コムラサキ

*Callicarpa dichotoma* (Lour.) K.Koch



カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である湿地が、開発や乾燥化、遷移の進行などにより各地で減少している。

概要

湿った山野や湿地などに生える落葉低木である。高さは2m前後になる。葉は対生し、長さ3-7cm、幅1.5-3cmの倒卵状楕円形で、葉上部の縁には鋸歯がある。花期は7-8月で、葉腋のやや上から花序を出し、淡紅紫色の花を10-20個つける。果実は直径3mmの球形で、熟すと紫色になる。果実が美しいため、しばしば庭木として用いられる。本州、四国、九州、琉球、朝鮮半島、中国に分布する。

参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24。  
大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科。760pp. 平凡社。東京。  
松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)、県中部(飯南町、美郷町)で確認されている。県東部(松江市、出雲市)での標本情報の中には、植栽の可能性のものもある。生育環境は、湿地林の林床や湿り気のある林縁部などに生育する。果実が美しく庭木に用いられるため、自生が判断に迷う場合もあるが、山間の湿地に生えていることから、野生個体とみられる。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、遷移の進行による湿地の乾燥化、樹林化。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

シソ科

フトボナギナタコウジュ

*Elsholtzia nipponica* Ohwi



カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

選定理由

県下での生育は非常にまれであり、生育個体は保護する必要がある。

概要

山の道脇などに生える一年草で、似たナギナタコウジュに対して、葉は広卵形で、長さ2.5-7cm、幅1.5-4cm。縁の鋸歯は数多くてやや鈍く、花穂もやや太く、長さ2-5cm、幅約1cmとなる。苞は中央よりやや上部がもっとも広く、背面に短い軟毛がある。花は秋に咲き、花冠は淡赤紫色でナギナタコウジュと同じだが、やや淡い。本州(宮城県以南)・四国・九州に分布する。

参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社。東京  
松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の山域からの生育が報告されている。生育地の詳細は不明だが林縁や路傍の草地に生育していたものと思われる。

存続を脅かす原因

遷移、刈取。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

シソ科

# シモバシラ

*Keiskea japonica* Miq.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて限られている。

### 概要

山地林内に生える夏緑性の多年草。草丈は約50cm、葉は長楕円形で、長さ10cm、幅3cm前後のもので対生する。花は秋に咲き、葉腋の総状花序に白色小花を多数つける。個々の花は皆、一方の側に向いて咲くのが特徴的である。本州の関東地方以西、四国、九州に分布する植物とされる。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部（江津市、川本町、浜田市）のきわめて限られた地に存在する。生育地は人工林内の林床、道路沿いの林縁などで、個体数も多くはない。

### 存続を脅かす原因

人工林内の林床の遷移による環境変化、園芸上の採取。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

シソ科

# キセワタ

*Leonurus macranthus* Maxim.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

生育地は明らかに減少していて、自生地がほぼ無くなっている。

### 概要

山地の草地に生える夏緑性の多年草であり、草丈は1m程になる。茎は4角で、狭卵形で長さ7-8cm、幅5cmばかりの葉を対生する。花は夏に咲き、茎の上部で葉腋に紅紫色の花を数個ずつつけて咲く。花冠は筒状、唇形で、下唇の中央裂片は下方に強く曲がる。花冠は密に白い毛があるのが特徴的である。国内では北海道から本州、四国、九州に分布して中国大陸に分布が続くものとされる。

### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物V」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

昭和60年代までは出雲部山地に生育地が点在していて、これまで路傍の明るい草地で生育が見られるなど、県内に広く生育地が存在していたが、各生育地で消滅している。近年確認されたのは隠岐（島後）のみとなっている。

### 存続を脅かす原因

遷移等による他の植物の繁茂。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

シソ科

# シロバナヤマジソ

*Mosla japonica* (Benth.) Maxim. var. *thymolifera* (Makino) Kitam.



カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫

### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、全個体数も少ない。

### 概要

ヤマジソの変種とされて、ヤマジソに比べ葉が大きく丸く、葉は直立して高さ10-25cmばかり、開出毛が目立つ。花序の苞が卵円形で、長さ5-15mmもある点も特徴的である。本州(西部)・四国(徳島県)・九州に分布する。

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部と中部の海岸の乾燥しやすい岩棚や岩の隙間にわずかに生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移による被陰。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 柳浦正夫(2024) 植物の分布・観察報告(78)シロバナヤマジソについて考える、島根植物研究会会報45:3-4、島根植物研究会

### 特記事項

前回の報告でオオヤマジソとして掲載されているが、県下のは茎が緑白色で、花が白いでヤマジソの変種とされるシロバナヤマジソと考えられる。しかし、「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」の写真をみると県下の該当植物は葉の形はヤマジソではなく、オオヤマジソの葉と同じである。さらにヤマジソは茎の毛は下向きとあるが、これも開出して先端がやや下に下がる開出毛なので、オオヤマジソの記載にある「開出毛を密生する。」に該当する。また、花穂の長くないのでオオヤマジソと同じ形態である。この分類については疑問点があるが、今回ヤマジソの変種とされるシロバナヤマジソとしておく。また、島後の海岸部の水のたまる広い岩上の湿地に花の色が淡赤紫色で花穂も長いヤマジソの形態と合致する個体が確認できた。県内では両者の生息適地は異なっていた。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ハマウツボ科

# キュウシュウコゴメグサ

*Euphrasia insignis* Wettst. subsp. *iinumae* (Takeda) T.Yamaz. var. *kiusiana* (Y. Kimura) T. Yamaz.



カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地の草地や砂礫地に生える1年草である。草丈は茎を伸ばすと6-20cmになる。茎は直立して単一またはまばらに分枝する。葉は対生し、長さ5-10mm、幅4-6mmの卵形で、上半部には鋭くとがる鋸歯がある。花期は7-8月で、上部の葉腋に1つつ花をつける。花冠は白色で、紫色の条があり、下唇の付け根には黄色い斑がある。萼は短く、花冠の長さが萼の2.5-3倍である。コゴメグサの名は、小さな白い花を米粒に例えたものとされる。九州北西部、中国地方、近畿地方北部の山地に分布する。

#### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科. 760pp. 平凡社,東京.  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、山頂や尾根沿いの岩場や露岩地、砂礫地で、明るく開けた場所で、他の植物が少ない立地に生育する。

### 存続を脅かす原因

遷移の進行による岩場や砂礫地の草地化、灌木化、岩場の崩壊による生育地の消失。

(執筆:井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ハマウツボ科

# ヤマウツボ

*Lathraea japonica* Miq. var. *japonica*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

—
---

撮影者(提供者): 田中哲郎



### 選定理由

県内では産地も個体数も少ない。

### 概要

この属は葉緑体を欠く寄生植物で、ブナ科やカバノキ科、ヤナギ科などの根に寄生し、地上に直立する花茎を出し、多くの花をつける。ヤマウツボは山地の落葉樹林下に生育し、全体が白色でやや褐黄色を帯び、花のない茎は長さ6-10cmで、花茎は長さ13-30cmになる。茎は無毛が軟毛を散生する。葉は心形で先は丸く長さ5-10mm。内部に空所がある。花期は5-7月で萼は白色で腺毛を産生、花冠は白色でやや赤紫色を帯びる。国内では本州(宮城県以南)・四国・九州に分布し、国外では韓国(鬱陵島)・中国に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物5」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
柳浦正夫(2021) 島根県で初確認されたヤマウツボについて. 島根県立三瓶自然館研究法(19): 49-50. 島根県立三瓶自然館・しまね自然と環境財団

### 県内での生育地域・生育環境

西部の山地での生育が報告されている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

タヌキモ科

# ノタヌキモ

*Utricularia aurea* Lour.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
-------------

撮影者(提供者): 辻井要介



### 選定理由

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所であるため池の保全・管理が年々行われなくなっている。以前は生育するため池が多く見られた宍道湖湖北ため池群で姿を消したため、ランクをこれまでの絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧Ⅰ類に変更した。

### 概要

本州以西、四国、九州、南西諸島の湖沼やため池に群生する1年生の浮漂植物で、弱酸性の水体を好む。茎はよく分枝し、長さ1.5mに達する。長さ3-8cmの葉は基部から3本の枝に分かれ、タヌキモやイヌタヌキモと異なり、毛筆状にふさふさと立体的に分裂する。花茎は水中茎よりも太く、長さ7-20cmで、鱗片葉はなく花茎上方に淡黄色の3-11個の唇形花をつける。花期は7-10月。自家受粉によってよく結実し、果実は直径4-7mmの球状、種子はプリズム状で、縁に鈍い5-6稜がある。本種は1年草で殖芽を形成しないが、湧水に涵養される場所ではそのまま越冬し、亜熱帯地域では多年草であるという。

#### 参考文献

角野康郎(1985) ノタヌキモの生態. 水草研究会会報, 22: 5-8.  
角野康郎(2014) 日本の水草. 326pp. 文一総合出版, 東京.

### 県内での生育地域・生育環境

宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部のため池などにジュンサイやガガブタなどととも生育。

### 存続を脅かす原因

農業形態の変化によるため池の管理不足。

(執筆者: 國井 秀伸)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

モチノキ科

# ナナミノキ

*Ilex chinensis* Sims

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

常緑の樹種で、樹高は10数mになる。葉は長楕円形で、長さ10cm、幅3cm前後で両面無毛平滑、鋸歯も弱く疎い。雌雄異株で、花は初夏の頃、葉腋に短い花序をつけて小花を咲かせるが、あまり目立たない。果実は秋に、楕円形で長さ1cm程、赤く熟れて目立つ。

国内では東海地方以西、四国、九州に分布し、中国にも分布が続くものとされる。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(邑南町)と県西部(益田市、津和野町)にかけての山地にややまれに知られる。おもに露岩状地や崖錐地などの不安定な立地に生えて、しばしばアラカシ林に伴われて出現する。石見部の一部では県立自然公園内の樹林内において生育地が保護されている場もある。

### 存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

モチノキ科

# ミヤマウメモドキ

*Ilex nipponica* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

生育地での自然な遷移により絶滅が考えられる。

### 概要

山地の湿地に生える落葉低木である。葉は長さ3-10cm、幅1.5-5cmで、基部は鋭形で葉柄に流れる。花期は6月、雌雄異株で雄花序は4-6花を、雌花序は2-4花をつける。本来、近畿地方北部から中部地方、東北地方に分布する。

#### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・呂田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科. 760pp. 平凡社. 東京.  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(浜田市)の山地の一部に僅かな個体が分布している。

### 存続を脅かす原因

生育地での自然な遷移。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キキョウ科

# シデシャジン

*Asyneuma japonicum* (Miq.) Briq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):青木充之



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も限られている。

### 概要

山地の林縁や草原に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと30-100cmになり、全体に毛を散生する。葉は、下部のものには柄があり、上部のものは無柄となる。葉身は長さ4-10cmの卵形で、縁には不規則な鋸歯がある。花期は7-8月で、茎の上部に総状花序をつける。花冠は青紫色で、基部まで5裂する。花冠の裂片は長さが10-15mm、幅1-2mmの線形となる。本州、九州、朝鮮半島、中国(東北)、アムール、ウスリーに分布する。

#### 参考文献

飯南町森の案内人会編(2013) 飯南町の植物ガイドブック 改訂版, 349pp. 飯南町森の案内人会, 島根。  
大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科, 760pp. 平凡社, 東京。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)でのみ知られている。生育環境は、山麓の作業道沿いで、定期的に草刈りが行われる林縁である。

### 存続を脅かす原因

草刈りなどの管理放棄にともなう遷移の進行による樹林化、森林伐採。(執筆者:井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キキョウ科

# モリアザミ

*Cirsium dipsacolepis* (Maxim.) Matsum.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):澤田達也



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も激減している。

### 概要

山地草原に生える夏緑多年草であり、アザミ類の一種である。植物体は長楕円形で長さ約20cmの葉を数枚根生するものである。開花株は高さ1m程になり、長楕円形で多くは羽状に裂ける葉を互生し、上部で分枝し、枝先に頭花をつける。花は秋に咲き、頭花は幅が3-4cmあって、総苞片は幅広く、長く開出するのが特徴的である。国内では本州、四国、九州に分布域がある。

#### 参考文献

国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)、県西部(浜田市、津和野町)で記録があるが、いずれの地域についても近年は確認されておらず、現況が不明である。

### 存続を脅かす原因

草原の樹林化。(執筆者:井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キキョウ科

# バアソブ

*Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsley

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

No Image

### 選定理由

県内ではきわめてまれな植物で、過去において標本が得られた場所での調査でも、この種の生育を確認することはできていない。

### 概要

山地林縁などに生える多年草の蔓草。ツルニンジンに似た草であるが、全体に白毛があり、塊根は球形で花は小さい。日本から朝鮮半島、中国東北地方などに分布域があるものとされるが、もともとまれな分布の植物のようである。

#### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社.東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部の山地で生育が報告されているが、現在生育が確認できない。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者：柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キキョウ科

# キキョウ

*Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者)：島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かとなっている。

### 概要

山地の草原状地に生える夏緑性の多年草。植物体は草丈50cm前後で、葉は長さ5-6cm、幅2cm程で、互生から対生、さらに輪生して着く。花は夏から秋に咲き、茎頂に数個がつく。花冠は広い鐘形で先きが浅く5裂して径4-5cmのもので、多くは青紫色である。

国内では北海道から四国、九州に分布して、朝鮮半島、中国に続く分布域をもつ。

#### 参考文献

林 正久・井上雅仁・三島秀夫 (2013) 第4章 自然環境の特性. 奥出雲町文化的景観調査報告書-奥出雲たたらと棚田の文化的景観-(奥出雲町教育委員会編). 31-50. 奥出雲町. 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、出雲市、奥出雲町、飯南町)、県中部(大田市、邑南町)、県西部(浜田市)で確認されているが、生育地での個体数もまれであって、各地で個体数の消滅がある。

### 存続を脅かす原因

生育地である草原状地としての管理が放棄され、樹林化による影響がもっとも大きいものと考えられる。

(執筆者：井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ミツガシワ科

# ミツガシワ

*Menyanthes trifoliata* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地によっては遷移により消滅した部分もある。

### 概要

水湿地や浅い水中に生える夏緑の多年草で、太い根茎を持ち、先端に長い柄をもった3小葉からなる葉を数枚、根生状につけて、草丈は30-40cmである。小葉は楕円形で、長さ10cm、幅5cmになる。花は早春に咲き、葉が展開すると同時に高さ約30cmに花茎を立て、直径1-2cmの白色、漏斗状花冠の花を多数つける。花冠は5深裂して、裂片内側には毛がある。国内では北海道、本州、九州、そして北半球に広く分布する。中国地方ではきわめてまれな分布となる。

#### 参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24.  
国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)  
枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)の山間の湿地やため池に存在している。県の自然環境保全地域内において個体群が保護の対象となっている。県東部(出雲市)にも記録があるが、現在の状況は不明である。

### 存続を脅かす原因

水湿地の遷移による環境変化によって個体群が衰退する。

(執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ミツガシワ科

# アサザ

*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 国井秀伸

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

生育場所が1地域に限定されており、その生育場所で河川改修が進行している。

### 概要

全国各地の湖沼やため池、水路に群生する多年生の浮葉植物。直径1cmほどの地下茎は連根のように多孔質で長く水底を這う。水中茎と葉柄が地下茎から伸び、水面に浮葉を展開する。浮葉は広楕円状心臓形で、長さ5-15cm、幅4-10cm、葉縁はゆるやかに波打ち、基部は葉柄の付け根まで深く切れ込む。浮葉の表面は濃緑色で光沢があり、裏面は光沢が無く淡黄緑色または紫褐色でざらつく。花は杯状の5花弁の合弁花であり、縁に長さ1mm内外の微歯が連なる。キュウリの花に似た黄色の花の直径は2-4cmと大きく、人目を引く。種子は扁平で、長さ4mm、幅約3mm、表面に柱状の突起があり水鳥などに付着する。発芽は水中で抑制され、実生の定着は春先に一時的に干出した場合のみ起こる。開花しない集団も多く、全国に点在する67地域個体群のうち57地域個体群は1クローンのみで構成されているという報告もある。県内のアサザも開花しない集団であり、1系統と考えられる。

#### 参考文献

上杉龍士・西廣 淳・鷲谷いつみ (2009) 日本における絶滅危惧水生植物アサザの個体群の現状と遺伝的多様性。保全生態学研究, 14: 13-24.

### 県内での生育地域・生育環境

斐川平野の用排水路。

### 存続を脅かす原因

河川改修の進行と人為的な刈り取り。

### 特記事項

ビオトープの造成を目的として自生地内に他地域のアサザが持ち込まれた過去がある。

(執筆者: 国井 秀伸)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

## カワラハハコ

*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):野津貴章



## 選定理由

県内での生育はまれであり、生息するものがあれば付近の環境とともに保全していく必要がある。

## 概要

礫質などの河原に生える多年草で、茎は30–50cmで中部以上でよく分枝する。葉はまばらにつき、線形で長さ3–8mm、幅1.5mm、縁は強く内側に巻く。裏面は密に灰白色の綿毛を生じる。総苞片は3–4列で丈夫は白色、中部以下は黄褐色になる。北海道~九州に分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

西部の高津川の下流域で1990年代に確認している。近年は調査が不十分であるが確認できていない。鳥取県などでも以前に確認しているで、同様な立地のある江川などにも生育する可能性はある。

## 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

## チョウジギク

*Arnica mallotopus* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):自然環境課



## 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

## 概要

夏緑の多年草、草丈は30–50cm程で、葉は長狭楕円形で長さ10cmばかりで対生する。花は秋に咲いて、茎頂に5–10個程のやや小型の頭花をつけて咲く。頭花は長い柄があり、柄には白毛が密に生えていて特徴的である。小花は筒状で、花冠は黄色で時に美しい。本州、四国の冷温帯に分布している。

## 参考文献

松村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 丹後亜典(2022) 隠岐の西限植物. 隠岐の文化財 39: 6-14.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(奥出雲町)で確認されている。生育環境は、いずれも深山のやや湿り気の強い岩上、岩壁に生え、時に茎は下垂する。

## 存続を脅かす原因

生育地での自然な遷移と園芸上での採取。

(執筆者:井上 雅仁・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# ムラクモアザミ

*Cirsium maruyamanum* Kitamura

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はまれであって、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地の林縁や草地の水湿地から水田の傍などの水湿地に生える夏緑の多年草。根生葉は長楕円形で長さ20-30cm、幅10cm程で、羽状に中、深裂する。花は夏に咲き、高さ30-50cmばかりに花茎を伸ばし、上部で2-3の枝を分けて、先に頭花が点頭してつく。国内の中国地方山間のみ分布する植物とされる。マアザミとノアザミの自然雑種起源の植物ともされる。

#### ●参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

出雲部中国山地沿いの地にまれに生育地が確認されていたが、現在では生育が確認できてない。

### 存続を脅かす原因

遷移による生育地の消滅。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# ヒゴタイ

*Echinops setifer* Iljin

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かとなっている。

### 概要

夏緑性の多年草。葉は長楕円形、長さ20-30cm、羽状に裂け、縁には刺毛があって裏面は白毛があって白色である。花は夏から秋に咲き、高さ1m前後の太い花茎を伸ばし、上部で2-3の枝を出し、球形の頭花に青紫色の小花を多数つけて美しく咲く。

日本と朝鮮半島に分布するが、国内では中部地方の一部から中国地方、九州にかけて隔離的に分布し、氷河時代からの残存する植物とされる。

#### ●参考文献

兼子伸吾・井上雅仁・高橋佳孝・井齋裕司(2009) 赤名地方に栽培されているヒゴタイの遺伝的な特徴と保全上の価値。島根県立三瓶自然館研究報告 7: 65-68.  
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、東部、中部の一部に生育地が確認されていたが、現在では県東部(飯南町)にきわめて僅かな個体数が認められるだけの状態となっている。生育地は林縁の草地などの草原状地であり、過去における草刈場に多くの個体が見られたものである。

### 存続を脅かす原因

遷移、生育地の樹林化、園芸上の採取、過去においては盆花等に利用されたと聞く。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

ヤナギタンポポ

*Hieracium umbellatum* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数もきわめて僅かである。

概要

草丈50cmばかりの多年草。長さ5-10cmばかりの披針形の葉を多く互生する。花は秋に咲き、茎の上部に直径2-3cmの黄色舌状花冠(頭花)を散房状に多くつける。国内では北海道、本州、九州に分布し、北半球に広く分布するものとされる。

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>、(2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(出雲市、雲南市)、県中部(大田市)、県西部(浜田市)で確認されており、山地湿生地に分布する。多くの場所で、現在の生育状況が不明である。

存続を脅かす原因

遷移による樹林化、乾燥化。

(執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

スイラン

*Hololeion Kramerii* (Franch.et Savat.) Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、個体数も多くはない。

概要

水湿地に生える多年草。葉は披針形で長さ20cm前後で数枚が根生状に着いて、多くは垂直に立ち上がる。花は秋に咲き、開花株は高さ50cmほどの花茎を立て、上部で枝を分かち、枝先きに径3cmばかりの淡黄色の頭花をつける。国内では本州(中部以西)から九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

中部の山域で確認されている。生育地は水湿地で、山中の湿地の他、水田跡や水田脇、ため池の上流部などで見られたようだが、見られなくなった場所もあり、現状は不明である。

存続を脅かす原因

水湿地の遷移による環境変化、埋め立てによる生育成地破壊。

(執筆者: 柳浦 正夫・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# メタカラコウ

*Ligularia stenocephala* (Maxim.) Matsum. et Koidz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):青木充之



### 選定理由

県内では産地が1ヵ所のみ知られているだけであり、個体数も非常に少ない。

### 概要

山地や亜高山帯の湿った草地に生育する多年草で高さ50-100cmになる。茎は直立し、無毛。根生葉は葉柄が長く、葉身は三角状心形から三角状ほこ形で長さ24cm、幅20cmに達し、縁には短い鋭鋸歯が並び、花は黄色で、花期は6-10月と長く、総状花序となって多数つく。舌状花冠は長さ2-2.5cm、幅3-4mmで1-3個。筒状花は長さ6-11mm。本州から九州に分布し、国外では台湾・中国に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物5」474pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館  
 枚村喜則(2006) 島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告4:41-43 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部の中国山地の稜線付近のやや明るい湿った露岩地の斜面に生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移による被陰、森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# イヌドウナ

*Parasenecio aidsuensis* (Koidz.) Kadota

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):津島辰雄



### 選定理由

生育地はきわめて限られており、生育個体数も限られている。

### 概要

夏緑林内に生える大形の多年草で、高さ2mを超えることも多い。葉身は三角形状腎形で、長さ20cm、幅35cmに達し、先は短く鋭尖頭で縁にはふぞろいな鋸歯がある。葉柄には広い翼があり、大きく耳状に茎を抱く。花は7-8月、茎の上部に大型の円錐花序をなし、総苞は狭筒形で長さは7-8mmである。分布として、本州の東北地方、関東地方の北部に産すとされる。

### 参考文献

大橋広好ら編(2017)「改訂新版 日本の野生植物5」474pp.平凡社,東京  
 レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(2012)「広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)633pp.広島県、広島

### 県内での生育地域・生育環境

生息地は県境部の西中国山地の1ヵ所のみである。冷温帯の深山沢筋に群生する。

### 存続を脅かす原因

森林伐開。

### 特記事項

隔離分布している自生地は、島根県西部、広島県北西部の県境域でも貴重である。また、広島県より個体数も多く、環境も良いようである。  
 (執筆者:津島 辰雄)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

## ミヤコアザミ

*Saussurea maximowiczii* Herder

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



## ■ 選定理由

県内では以前にはかなりあちこちに生育地があったが、近年急激に減少し、絶滅が心配される。

## ■ 概要

山地林縁など草原状地に生え、草丈50–100cmになる多年草。葉は長楕円形で長さ20–30cm、羽状深裂する。花(頭花)は秋に咲き、直径約1cmで、散房状に多くつける。国内では西日本、国外では朝鮮半島、中国東北部にかけて分布域がある植物とされる。

## ● 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## ■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)で確認されているほか、県東部(奥出雲町、飯南町)での記録もある。生育環境は山地草原である。

## ■ 存続を脅かす原因

遷移による生育地の消滅。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

## ヒメヒゴタイ

*Saussurea pulchella* (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



## ■ 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

## ■ 概要

低山から山地や海岸沿いの日当たりのよい草原に生える越年草である。草丈は茎を伸ばすと30–150cmになる。葉は長さ12–18cmで羽状深裂するが、中部から上部のものは全縁となる。葉柄は長さ3–6cmで基部は流れて狭い翼になる。花期は8–10月で、茎は上部で分枝して、その先に多数の頭花をつける。頭花は直径12–16mmで、花冠の色は紅紫色である。総苞片には淡紅色の付属体がある。北海道から九州、朝鮮半島、中国(東北部・中部)、モンゴル、サハリン、ロシア沿海地方に分布する。

## ● 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科. 760pp. 平凡社, 東京.  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## ■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(奥出雲町)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、隠岐諸島では海岸付近の風衝地や明るい林内などに、県東部と県中部では、山地の明るく開けた風衝草原や山麓の二次草原である。

## ■ 存続を脅かす原因

園芸採取、遷移の進行による樹林化。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# キクアザミ

*Saussurea ussuriensis* Maxim. var. *ussuriensis*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

生育適地となるような草原状地が遷移により消滅しつつあることにより、生育地の消滅、個体の消滅により絶滅の心配が大きくなっている。

### 概要

山地草原状地に生え、草丈30–50cmの多年草。葉柄部は長さ約10cm、葉身部は長さ10–20cmで、葉は羽状浅裂–中裂のやや堅い質のもの。花は秋に咲き、頭花は10個ばかり散房状につく。

#### 参考文献

杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部（大田市）の山地草原に限られた生育地が知られていた。また県西部（津和野町）での標本の記録があるが、いずれの場所でも近年の生育状況は不明である。

### 存続を脅かす原因

生育地での遷移による樹林化。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# オオダイトウヒレン

*Saussurea nipponica* Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山地林内に生える夏緑性の多年草で、根生葉は長い柄があって葉身は卵形から卵状三角形で長さ10cm、幅5cm前後。茎は高さ50cmばかりで、じ上部に散房状の枝を分け、先にやや疎らに頭花をつける。花は夏から秋にかけて咲き、頭花は長さ1cmばかり、総苞外片は短く反曲する。小花は筒状で淡紅紫色である。国内では本州（近畿地方・中国地方）・四国・九州（北部）に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社.東京  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

県内では中部の山地に生育している。林縁に生育しているが、樹木が広がり被陰される状況にあり、個体数が激減しており、少数が残っているのみで近い将来絶滅が非常に心配される。

### 存続を脅かす原因

樹林の遷移による被陰、園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

## ハンゴンソウ

*Senecio cannabifolius* Less. var. *cannabifolius*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):青木充之



## 選定理由

生育適地となるような草原状地が遷移により消滅しつつあることにより、生育地の消滅、個体の消滅により絶滅の心配が大きくなっている。

## 概要

山地の草原や林間の草地に生える多年草で高さ1-2mになる。茎は上方で分枝し、根生葉は花時に枯れている。下部や中部の葉は卵形で、長さ10-20cm、幅9-15cmで先端は鋭尖頭、葉柄があり、基部は2個の小さい耳がある。頭花は散房花序につき、径2cm、総苞は筒形、舌状花は5-7個で黄白色で、舌状部は長さ12-13mm、幅1.5-2mmとなる。国内では南千島・北海道・本州(中部以北)に分布し、朝鮮半島・中国(東北部)・シベリア北部・サハリン・千島列島・カムチャツカ半島・アリューシャン列島に分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部の山域の湿地にわずかに生育が見られる。

## 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

## オカオグルマ

*Senecio integrifolius* (L.) Clairville var. *spathulatus* (Mig.) Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



## 選定理由

県内での生育地はきわめてまれである。

## 概要

乾いた草地に生える20-60cmになる多年草で、根生葉は長楕円形、長さ5-10cmで、5-10枚がロゼット状に広がり草丈は30-50cm。茎頂部に初夏の頃、径2cmばかりの頭花黄花を10個ばかり散房状につける。国内では本州から琉球に生育し、朝鮮半島・台湾・中国・モンゴル・ロシア極東地方に広く分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部のやや奥地の2・3の地での生育が報告されており、乾燥気味の路傍、露岩状草刈り場などに生育するとされる。

## 存続を脅かす原因

遷移による環境変化。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# ハチジョウナ

*Sonchus brachyotus* DC.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):青木充之

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

海岸に生える多年草で、茎は30—100cmで、根生葉は花時に枯れ、茎葉は長さ10—20cmの長楕円形で互生する。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂部で枝を分けて、径4cm程の黄色い頭花を着ける。国内では北海道から九州に分布するが、本州中部以北の海岸に多い。国外ではウスリー・アムール・サハリン・ダフリア・アルタイ・朝鮮半島・中国に分布する。

### 参考文献

丸山 巖 (1982) ハチジョウナ. 島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局「島根県大百科事典 下巻」山陰中央新報社 p.320  
大橋広好他 (2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)での生育が報告されている。出雲・石見の海岸に少産するとの報告もあるが、現状は不明である。

### 存続を脅かす原因

波浪等による自然災害や海岸の環境整備による生育地の破壊。  
(執筆者:柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# キビシロタンポポ

*Taraxacum hideoi* Nakai ex H.Koidz.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も少ない。

### 概要

里地の路傍や草地に生える多年草。葉は長さが20—30cm、倒披針形から披針形で、羽状に中裂し、根生する。花茎は30cm程度で、先に薄いクリーム色の頭花をつける。シロバナタンポポに比べると、角状突起がほとんどないこと、頭花が小さいこと、花茎が短いこと、瘦果が黒褐色であることなどが相違点である。近畿地方、中国地方、四国、九州北部に分布する。

### 参考文献

井上雅仁・松原勝志・安部祐史・齋藤正幸 (2023) タンポポ調査・西日本2020 で確認された島根県のタンポポ. 島根県立三瓶自然館研究報告 21: 39-50.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市)で確認されている。生育環境は、路傍や畦などである。

### 存続を脅かす原因

圃場整備、土地造成、除草剤散布などの人為的攪乱。  
(執筆者:井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# トウカイトンポポ

*Taraxacum platycarpum* Dahlst. var. *longeappendiculatum* (Nakai) Morita

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

日当たりのよい路傍や畦畔、草原などに生える多年草である。多数の根生葉をもち、葉は長さ10-30cm、幅1.8-5cmで、羽状に中裂あるいは浅裂する。花期は4-5月で、葉腋から花茎を出し、その先に1個の頭花をつける。花茎には葉をつけない。頭花は黄色で、直径約4cmである。総苞外片は長く、総苞の2/3~3/4になり、上部には長さ2-6mmになる大きな角状突起がある。千葉県(房総半島南部)から和歌山県(紀伊半島東部)にかけての太平洋沿岸に分布する。愛媛県や山口県にも分布が認められるが、人為分布の可能性もある。

#### 参考文献

井上雅仁・松原勝志・安部祐史・齋藤正幸(2023) タンポポ調査・西日本2020 で確認された島根県のタンポポ. 島根県立三瓶自然館研究報告 21: 39-50.  
大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科. 760pp. 平凡社. 東京.

### 県内での生育地域・生育環境

県内では、県東部(安来市)で確認されている。生育環境は、道路脇や水田の畔など、定期的に草刈りが行われる明るい場所に生育する。

### 存続を脅かす原因

管理放棄による畦畔や路傍のヤブ化、灌木化。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

# コウリンカ

*Tephrosia flammea* (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B.Nord.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

以前から産地も個体数も少なく、現在生育が確認されていない。

### 概要

山地の草原に生育する多年草で、茎は直立し高さ30-60cm、分枝しない。根生葉は花時にはなく、下部の葉は広倒披針形、長さ10-16cm、幅18-35mm、鈍頭で基部はやや茎を抱き縁には不ぞろいな小さな突起がある。上部の葉は披針形。花は7-9月、頭花が6-13個が散形状につく。舌状花冠は赤黄色で長さ17-22mm、幅2mmで反り返る。本州・朝鮮半島に分布する。

#### 参考文献

丸山 巖・林 亨(1985)「野生植物シリーズ② しまねの花」115pp.山陰中央新報社, 島根  
大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

中部の山地の草原に1980年代までは僅かに確認されていたが、現在確認できない状況である。

### 存続を脅かす原因

遷移、園芸上の採取。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

キク科

## ウラギク

*Tripolium pannonicum* (Jacq.) Dobroc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

## 概要

海岸の塩湿地や汽水域などに生育する越年草である。草丈は茎を伸ばすと25-55cmになる。葉は長さ5-10cm、幅0.3-1.2cmの披針形で、基部はやや茎を抱く。花期は8-11月で、頂部に多数の頭花をつける。頭花の直径は約2cmで、舌状花は淡青色~青紫色である。北海道東部、本州(関東以西の太平洋側)、四国、九州、南千島に分布する。

## 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科, 760pp. 平凡社, 東京。

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市)で確認されている。中海の湖岸沿いで、潮位が増すと水を被るような低湿地に生育する。

## 存続を脅かす原因

湖岸の開発。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウコギ科

## ケヤマウコギ

*Acanthopanax divaricatus* (Sieb.et.Zucc.) Seem. Araliaceae

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

## 概要

北海道から九州まで、山地や林縁に自生する落葉低木で樹高1~3mで、枝は太い棘が散在、葉は互生掌状複葉で小葉は5枚、長さ4~12cm幅2~6cmあり葉縁は重鋸歯で葉裏や葉柄は、毛が密生する。花序や葉が大形で別名オニウコギ。

## 参考文献

大橋広好ら編(2017)「改訂新版 日本の野生植物5」474pp.平凡社,東京  
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相,島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49,三瓶自然館,島根

## 県内での生育地域・生育環境

県内では隠岐諸島と出雲部中国山地沿いの山地林縁に生育する。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開による環境変化。

(執筆者: 山田 明)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

ウコギ科

# ウラジロウコギ

*Acanthopanax hypoleucus* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

### 概要

夏緑の低木で、高さは2m程度になり、茎には長さ5mm程の細い刺が多い。葉は小葉5枚の掌状複葉で、互生する。小葉は楕円形で長さ10cm、幅約4cm、裏面は白色を帯びている。花は夏に咲き、枝先に伸びる花序軸に2~3の散形花序をつけ、多数の小花を咲かせる。先端の花序は雌花、側生の花序は雄花となる傾向がある。本州(関東以西)・四国・九州の山地に生え、石灰岩地域にあることが多いとされる。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」474pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館会報3: 1-49 島根植物研究会, 島根県

### 県内での生育地域・生育環境

東部と西部の中国山地脊梁部に、きわめてまれに見られる。山地の露岩地、岩角地に生える。

### 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化、森林開伐。  
 (執筆: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

セリ科

# エゾノヨロイグサ

*Angelica anomala* Lallemand

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): —

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数もきわめてまれである。

### 概要

植物体は2~3回3出羽状複葉を根生し、草丈30~50cm程のものであるが、開花株では花茎を高さ1m程度に伸ばし、枝を分けて枝先に複散形花序に白色小花を多数つける。国内では北海道・本州(中部地方以北・大山)とされるが、本県(隠岐諸島)にも分布が知られている。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」474pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館会報3: 1-49 島根植物研究会, 島根県

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)にのみ生育地が知られており、路傍、林縁の草地に生える。

### 存続を脅かす原因

依然として生息地が残されているところもあるが、道路拡幅工事などによる路傍、林縁の草地の破壊などで2カ所の生育地が破壊、消失したとされる。

(執筆: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

セリ科

# ヨロイグサ

*Angelica dahurica* (Fisch.) Benth. et Hook

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は局限されており、生育地での個体数も激減している。

### 概要

植物体は2~3回3出羽状複葉で根生し、草丈は50cm程であるが、開花株は花茎を2~3m程に伸ばし、枝を分けて枝先に大形の複散形花序をなして白色小花を多数つける。国内では本州・九州に分布し、朝鮮半島・中国(東北)・アムール・ウスリー・シベリア東部に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」474pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館会報3: 1-49 島根植物研究会, 島根県

### 県内での生育地域・生育環境

東部から中部の丘陵域に生育地が知られ、林縁、草地に点々と生育するが、草地の遷移により生育地が消失した所もある。また、近隣の思わぬ所に新たな生育地を見ることがある。

### 存続を脅かす原因

開発、遷移。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

セリ科

# アマニューウ

*Angelica edulis* Miyabe

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): —

### 島根県固有評価

分布限界種(西限)

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も多くない。

### 概要

植物体は1~2回3出羽状複葉を根生し、草丈50cm前後。開花株は花茎を1m前後に伸ばし、花茎先端部で2~3の枝を分け、径20cm程の大きな複散形花序に白色の小花を多数つける。国内特産で、北海道、本州の主として中部以北に分布し、中国地方、四国にも分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」474pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館会報3: 1-49 島根植物研究会, 島根県

### 県内での生育地域・生育環境

東部の中国山地脊梁部に僅かな生育地が知られる。沢の上部、谷頭の崖錐状地のやや被陰された場所に生育する。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

セリ科

## タケシマシシウド

*Dystaenia takeshimana* (Nakai) Kitag.

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

## 島根県固有評価

—

## 環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内での生育地は一地域のみで、きわめて限られている。

## 概要

山地に生える多年草。葉は2-3回の羽状に分かれ、小葉は卵形で縁に荒く不規則な切れ込みがある。花期は6-7月で、白い花弁をもつ複散形花序となる。本種が含まれるセリモドキ属には、本種とセリモドキの2種のみがあり、本種はこれまで韓国の鬱陵島にのみ生育する固有種であるとされてきた。セリモドキの草丈が30-90cm、花序の直径が5-10cmであるのに対し、本種は草丈が150-200cm、花序の直径も20cmになる。

## 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
丹後亜興 (2022) 隠岐の西限植物. 隠岐の文化財 39: 6-14.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(海士町)の一カ所のみである。林縁の草地や道路法面に生育している。

## 存続を脅かす原因

遷移によるヤブ化、樹林化。

## 特記事項

平成24年に海士町の文化財に指定されている。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

セリ科

## ボタンボウフウ

*Peucedanum japonicum* Thunb.

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 島根県固有評価

分布限界種(北限)

## 環境省カテゴリー

—

No Image

## 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

## 概要

海岸に生えるやや大型の多年草。葉は1-3回羽状複葉で、青白い色が特徴的である。花は夏に咲く。花茎は高さ50cmばかり、時に1m程にもなり、先で2-3の枝を出し、枝先の複散形花序に白色の小花を多数つける。国内では本州の関東地方以西・四国・九州・琉球に分布し、国外では、台湾・中国・フィリピンに分布する。

## 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京  
松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49. 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

西部の海岸に見られる。生育地は海岸の路傍で、急な崖地にある。

## 存続を脅かす原因

道路管理上での何らかの影響、あるいは生育地そのものの破壊が心配される。

(執筆者: 柳浦 正夫・松村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

セリ科

# ムカゴニンジン

*Sium ninsi* L.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

水湿地に生える草丈約50cmになる夏緑性の多年草。葉は単羽状複葉で小葉は円形から線形で互生する。花は秋に咲いて、葉腋に枝を出して先の複散形花序に多くの小花をつける。

北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島から中国に分布が続く。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 渡津友博・桑原一司・井上雅仁 (2022) 島根県邑南町淀原湿地の植生. 島根県立三瓶自然館研究報告 20: 1-7.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県中部(邑南町)の中国山地山間で、ため池などの水湿地にまれに生育地がある。

### 存続を脅かす原因

埋め立てによる生育地の消滅、ため池の放置による生育地での遷移。  
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

スイカズラ科

# ダイセンヒョウタンボク

*Lonicera strophiphora* Franch. var. *glabra* Nakai

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

夏緑の高さ1m程になる低木である。葉は対生し、卵状楕円形で長さ5cm、幅3cmほど、葉表は短毛が散生し、葉表脈上にも毛がある。花は春、葉の展開と同時に咲き、新梢の下部から出る花柄に2花をつける。苞は大きく目立ち、卵形の葉状で長さ2cm、幅約1cm。花冠は漏斗状で長さ約2cm、緑白色から淡黄緑色で下垂して咲く。果実は液果で球形、径約1cmで赤く熟れる。アラゲヒョウタンボク(オオパヒョウタンボク)は北海道(南西部)・本州・四国(剣山)に分布するが、このうち子房・花柱が無毛のものを変種や品種のダイセンヒョウタンボクとして扱われ、近畿や中国地方に多いとされる。

### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

出雲部の中国山地脊梁部にまれに見られ、ブナ林内の露岩上などに生育する。

### 存続を脅かす原因

遷移や伐採、採取。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

スイカズラ科

## マツムシソウ

*Scabiosa japonica* Miq. var. *japonica*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



## 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。生育環境である草原は、管理放棄に伴う遷移の進行などにより、各地で減少している。

## 概要

山地の草原に生える越年草である。草丈は茎を伸ばすと60–90cmになる。葉は対生し、下部や中部の葉は羽状に切れ込み、裂片はさらに分かれる。花期は8–10月で、茎から伸びる長柄の先に多数の頭花をつける。頭花は青紫色、直径約4cmで、上向きに咲く。頭花のうち、縁にある小花は5裂し、外側の裂片は長く伸びる。北海道から九州に分布する。

## 参考文献

井上雅仁 (2005) 三瓶山北の原における草原性植物のフェノロジー。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 51-55。  
大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科。760pp. 平凡社。東京。  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)、県西部(浜田市)で確認されている。また隠岐諸島(隠岐の島町)に生育するとの報告もある。生育環境は山地の明るい草原である。

## 存続を脅かす原因

園芸採取、遷移の進行による樹林化。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

スイカズラ科

## ヤブウツギ

*Weigela floribunda* (Siebold et Zucc.) K.Koch

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



## 選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり生育地での個体数も限られている。

## 概要

夏緑性の低木で高さ2–3mの植物。葉は楕円形で長さ10cm、幅5cmばかりで対生する。花は春に咲き、枝先の短い散房花序に数個の花をつける。花冠は長さ3–4cm、暗紫紅色で漏斗状、先は5裂片に分かれる。多くは下垂して咲く。果実は長さ2–3cmの蒴果となる。本州の関東以西、四国に分布域があるが、おもに太平洋側に分布する植物である。

## 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)  
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市、美郷町、川本町)で確認されている。生育環境は、おもに山地の林縁部であり、時に川岸の岩場にも生える。

## 存続を脅かす原因

道路拡幅工事、河川護岸工事などによる生育地の破壊、遷移による環境変化。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)